



報会師劑藥冲縄

No.303. 2020(令和2年) 5・6・7月号



沖繩県薬剤師会

／目／次／

九山薬学大会	第80回九州山口薬学大会開催中止のお知らせ…………… 亀谷浩昌 (1)
第82回 総 会	第82回定時総会あいさつ…………… 亀谷浩昌 (2)
	第82回定時総会次第・出席者…………… (3)
	第82回定時総会概要報告…………… 大城喜仁 (4)
第82回総会資料	令和元年度会務並びに事業経過報告および令和元年度決算、その他議題資料…………… (11)
健サポ推進	薬剤師の臨床判断に基づく要指導医薬品・一般用医薬品の適切な販売等に関する研修会 …… 盛本直也 (33)
実 務 実 習	令和元年度第Ⅲ期薬学生実務実習報告…………… 佐藤雅美 (34)
	令和元年度第Ⅲ期実務実習薬学生からの体験記・感想…………… 譜久原朝也・匹田麻友 (35)
その他会務報告	沖縄戦殉職医療人之碑へ慰霊…………… 大城喜仁 (36)
地区だより	一般社団法人那覇地区薬剤師会第7回通常総会 …… 那覇地区薬剤師会事務局 (37)
県民の皆様へ	あまくま薬立つ情報…………… (38)
D I	薬事情報おきなわNo. 260…………… 薬事情報センター (39)
リレー随筆	一年目を終えて…………… 具志堅咲 (53)
薬 草 学	身近な薬草を知ろう 第45回 キンレンカ：金蓮花 …… 狩俣イソ (54)
薬連だより	令和2年度沖縄県薬剤師連盟評議員会報告 …… 大城喜仁 (56)
	本田あきこ オレンジ日記「緊急事態宣言の期間延長」「新型コロナウイルス感染症対策とこれから 女性局での活動」 …… 本田顕子 (58)
	国会レポート「令和2年度補正予算」「5月25日決算委員会」…………… 藤井もとゆき (59)
理 事 会	令和元年度第9回理事会議事概要 …… (60)
	令和元年度第10回理事会議事概要…………… (65)
	令和元年度第11回理事会議事概要…………… (75)
	令和元年度第12回理事会議事概要…………… (82)
	令和元年度第13回理事会議事概要…………… (92)
	令和2年度第1回理事会議事概要…………… (100)
転 載 記 事	壕の中で 読者と刻む沖縄戦 津波高德氏（会員）の体験記 …… (108)
会 務 報 告	令和2年5月～7月分 …… (111)
	沖縄県薬剤師連盟会務報告（令和2年5月～6月分） …… (113)
計 報	島田博光先生、眞榮城玄一先生、神里よし子先生、ご冥福をお祈り申し上げます。 …… (113)
	誌上ギャラリー（裏表紙）について…………… (114)
	編集後記…………… (114)
お 知 ら せ	会報原稿募集のご案内…………… (32)
	Facebookをご覧ください！…………… (64)
	県薬が会員に販売している印刷物等…………… (112)
	会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について…………… (113)

・表紙

とよ ひら ほう うん
題字：豊平峰雲

「マカオの薬局」 photo by 山里 美恵子 撮影地：中華人民共和国マカオ特别行政区

九山薬学大会

第80回九州山口薬学大会 開催中止のお知らせ

新型コロナウイルスで亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被患された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、被患された皆様の早期回復と感染の早期終息を心よりお祈り申し上げます。

かねてより準備を進めておりました第80回九州山口薬学大会につきまして、日本国内での新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、開催を中止することに決定しました。

沖縄で開催することを楽しみに、多くの方のお力をお借りし、準備を進めておりました。現時点において緊急事態宣言は解除され、全国的には感染が落ち着いてきているものの、一部の地域では新たな感染者やクラスターが発生しております。この状況下で、参加者の安全を確保することは非常に困難、かつ、医療資源に課題を抱える沖縄県へ感染を持ち込む可能性も否定できない点を考慮した結果、止む無く中止とさせていただくことにいたしました。

本大会へ参加予定の方、一般演題の発表予定の方、ランチョンセミナー協賛企業の皆様、出展企業の皆様、またシンポジウム等で演者等をお願いしている先生方におかれましては、大変なご迷惑をおかけすることを深くお詫び申し上げます。

末尾になりますが、本大会の開催にあたり多大なるご協力を頂きました先生方や、本大会で研究成果をご発表すべくご準備いただいた皆様、また協賛企業の皆様、関係団体の皆様には心より御礼申し上げます。

2020年7月8日

第80回九州山口薬学大会
大会実行委員会実行委員長

亀谷浩昌
(沖縄県薬剤師会会長)

第82回 定時総会 あいさつ

会長 亀谷 浩昌

第82回沖縄県薬剤師会定時総会の開催に当たり、一言申し述べさせていただきます。

本年3月の臨時総会において承認頂いた事業計画並びに事業に係る予算に従って、新たな年度の事業がスタート致しました。本定時総会においては、昨年度の事業に係る決算、その他についてご審議頂くこととなります。慎重なご審議をお願い申し上げます。

さて、今年の2月に始まった100年に1度の災害とも言われる新型コロナウイルス感染症の拡大の中、地域医療を維持するための会員の皆様のご苦勞は誠に大変だったと思います。マスクをはじめとするコロナ対策に必要な品々が次々と入手困難となり、患者や職員の感染防止対策には非常にご苦勞されたことと推察致します。本会は行政や政府関係者への働きかけをするなど、会員薬局が必要とする物資の供給が進むよう働きかけを行いました。今後もさらなる支援につながるよう尽力して参ります。

薬剤師はウイルス感染の恐れのある中、薬局カウンターを挟んで患者に対面して服薬指導を行うなど、厳しい状況の中で医療供給体制を支えてきました。しかし、マスク等では報じられる医療職の中では影の薄い存在です。感染リスクに直面している医療機関などの従事者に給付する慰勞金の対象からも外れ

ています。このような事態を憂い、職能団体としての積極的な広報活動の必要性を認識したのですが、できれば、何も言わないでも世間が認めてくれるようになることが一番です。医師や看護師のように、医療の中で欠かせない存在と国民に自然に認めて頂けるよう、益々頑張らなければなりません。

アフターコロナはこれまでと大きく変わった世界になると言われています。医療界もインターネット社会に馴染んでいきつつあります。医薬分業の仕組みも変化を早めるでしょう。しかし、新しい時代でも「モノからヒトへ」の考え方は変わりません。患者本位の医療を効率的に行えるよう、会員の皆様も新しい環境にチャレンジして頂きたいと思います。

明るいニュースとしましては、本県の薬剤師不足を解消すべく、本会が先頭になって進めている県内薬学部創設要請活動に新しい動きがありました。沖縄県は、薬学部新設について検討を始めました。20年度一般会計当初予算に、「県内薬剤師需給予測および薬学部設置可能性等調査事業」として1,190万円を計上しています。

会員が地域医療に一層貢献できるよう、本会は会員の皆様と共に活動していくことを約束し、あいさつと致します。



<第82回定時総会次第>

○物故会員への黙祷

○開会の辞

○議長・副議長登壇挨拶

(点呼、宣告)

○日程説明

○会長あいさつ

○報告 第1号 令和元年度会務並びに事業経過報告

第2号 令和元年度会務並びに会計監査報告

○議案 第1号 令和元年度決算承認の件

○地区薬剤師会代表質問

順番：①中部地区 ②宮古地区 ③那覇地区 ④北部地区

○一般関連質問

○採 決

○閉会の辞

司 会 常務理事 西 川 裕

副 会 長 中 村 克 徳

議 長 名 嘉 紀 勝

副 議 長 新 垣 慶 朗

常務理事 村 田 美智子

会 長 亀 谷 浩 昌

常務理事 佐 藤 雅 美

監 事 神 谷 朝 雄

理 事 川 満 直 紀

常務理事 金城 雄一

[第82回定時総会出席者]

敬称略

<理事・監事>

○亀谷 浩昌 (会長)

○中村 克徳 (副会長)

○金城 雄一 (常務理事)

○村田美智子 (常務理事)

○佐藤 雅美 (常務理事)

○宮城 幸枝 (常務理事)

○西川 裕 (常務理事)

○前濱 朋子 (理事)

○川満 直紀 (理事)

○友寄 安彦 (北部地区代表)

○盛本 直也 (那覇地区代表)

○古謝 真己 (宮古地区代表)

○幸地 良信 (八重山地区代表)

○新垣 秀幸 (南部地区代表)

○笠原 大吾 (健康サポート薬局推進担当)

○中尾 滋久 (医療安全担当)

○吉田 洋史 (災害対策担当)

○島袋さゆり (卸部会)

○上原 拓朗 (青年部会)

○知名 博樹 (学薬部会)

○神谷 朝雄 (監事)

○江夏 京子 (監事)

<代議員>

○浅沼 健一 (名護支部)

○新垣 紀子 (首里支部)

○武富 弘記 (浦添支部)

○玉城 純 (名護支部)

○大塚成一郎 (首里支部)

○日高久美子 (浦添支部)

○屋嘉比康作 (名護支部)

○上原 幸代 (那覇東支部)

○伊敷松太郎 (糸満支部)

○江夏 恭範 (うるま支部)

○岡野 俊秀 (那覇東支部)

○小湾 勝敏 (糸満支部)

○福地 健治 (うるま支部)

○入月 健 (那覇東支部)

☆名嘉 紀勝 (糸満支部)

○長濱 照美 (沖縄支部)

○平良 博文 (那覇北支部)

○松本 圭五 (糸満支部)

○玉城 武範 (沖縄支部)

○宮本 直樹 (那覇北支部)

○川上雄一朗 (南風原支部)

○阿嘉 貫哲 (沖縄支部)

○我喜屋恵美子 (那覇中央支部)

○川上 善久 (南風原支部)

○諸見里めぐみ (沖縄支部)

○渡慶次全康 (那覇中央支部)

○金城絵理子 (南風原支部)

○譜久原 隆 (沖縄支部)

○國吉 直子 (小禄支部)

○楠見 康夫 (南風原支部)

○藤原 明人 (嘉手納支部)

○又吉智賀子 (小禄支部)

○城間 盛伸 (南風原支部)

◎新垣 慶朗 (宜野湾支部)

○大城 博次 (浦添支部)

○知念 大輔 (南風原支部)

○仲座 方利 (宜野湾支部)

○杉山 英司 (浦添支部)

○下地 仁 (平良支部)

第82回総会

第82回定時総会概要報告

日時：令和2年6月21日（日）13:30～15:20

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

司会の西川裕常務理事の進行で定時総会を開催する旨の案内が定刻の午後1時30分にアナウンスされ開会した。例年、代議員以外の会員が傍聴できる席も特別に用意しているが、新型コロナウイルス感染症感染拡大予防対策と会場収容数を鑑み、役員と代議員のみの参加型とした。

代議員には、新型コロナウイルス感染症の発生を踏まえた今回の定時総会開催の取扱いについて、県外往来・海外渡航者、感染者への濃厚接触者、発熱や風邪症状がある、体調に不安がある場合等は、参加の自粛を要請、また、参加に際しては、マスク着用や手指消毒等の感染予防を心掛け、濃厚接触を避けていただくことを事前に案内したが、多くの代議員が参加したことへの御礼が、司会より述べられた。

開会挨拶の前に、会員物故者6名（新垣重徳、嘉数和子、小嶺幸徳、澤野祐一、島田博光、方 智子）の先生方のご冥福を祈るため、起立黙祷した。

中村克徳副会長が、第82回定時総会開会を告げた。

定款第15条の規定により、議長、副議長を選出。議長は糸満支部の名嘉紀勝代議員、副議長に宜野湾支部の新垣慶朗代議員が選出された。村田美智子常務理事が、同会の日程及び議題の審議について説明し、亀谷浩昌会長が挨拶した。

議題に入り、報告事項第1号と第2号の報告、議案事項第1号の説明を各担当理事、監事が滞りなく行った。

<報告第1号 令和元年度会務並びに事業経過報告>

佐藤雅美常務理事が、(1) 会員・薬局等の業態現況報告、(2) 会議等の開催状況、(3) 講演会・研修会等の開催状況、(4) 公的機関等の会議・公的活動、(5) 各種委員会等の開催状況、(6) 公的機関への協力、(7) 地区・支部・部会活動について、配付資料に基づき端的に報告した。続けて、本会の令和元年度事業経過報告、薬と健康の週間行事、生涯研修の受講状況、試験検査センター事業報告、薬情報センター事業報告までを、配布資料に基づき具体的に報告した。

<報告第2号 令和元年度会務並びに会計監査報告>

神谷朝雄監事が次のとおり報告した。

定款第26条に基づいて、令和2年5月28日に江夏京子監事と共に行った一般社団法人沖縄薬剤師会の平成31年4月1日から令和2年3月31日までの令和元年度における会計及び業務の監査実施に基づく監査報告書を読み上げて監査報告とする。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表等は真実であると認める。会計帳簿の記載金額と一致し、

法人の収支状況及び財産状態を正しく示していると認める。

(2) 事業報告書の内容は真実であると認める。

(3) 理事の職務執行に関する不正行為、又は法令、もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

＜議案第1号 令和元年度決算承認の件について＞

川満直紀理事より、今回より概ね分かり易くした比較正味財産増減計算書を基に説明することが述べられた。法人全体の合算で貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録の大科目について順次説明し、公益事業にあたる実施事業等会計、共益事業にあたるその他会計（会営薬局うえはら・会営薬局とよみ等）、薬剤師会本体の管理にあたる法人会計に仕訳された合算内訳について、順次説明した。

休憩を挟み、再び議長と副議長が登壇して質疑応答の時間に入った。質疑応答は、前半に地区薬剤師会代表質問、後半に一般関連質問という構成である。地区薬剤師会代表質問の順番は去る4月の定例理事会にて地区代表理事によるクジ引きにより決定されたこと、1地区あたりの代表質問は去る5月の定例理事会で新型コロナウイルス感染拡大対策のため質疑応答を含め例年の計7分から5分に時間短縮としたこと、また、時間超過で質問できなかった事項に関しては一般関連質問の際に質疑応答の時間を設けることが、議長より説明された。

代表質問は、6地区薬剤師会のうち4地区薬剤師会が、

- ①中部地区薬剤師会（玉城 武範：沖縄支部代議員）
- ②宮古地区薬剤師会（下地 仁：平良支部代議員）
- ③那覇地区薬剤師会（宮本 直樹：那覇北支部代議員）
- ④北部地区薬剤師会（屋嘉比康作：名護支部代議員）

の順で行い、これらの質問に対し各担当理事が順次答弁した。

地区薬剤師会代表質問

＜中部地区薬剤師会＞

玉城 武範 代議員質問

これまでに事務方をはじめとする職員の退職が続き、また、今回、組織運営にかかわる副会長2人が同時に辞任された。こうした流れに対し、中部地区薬剤師会は沖縄県薬剤師会の運営や処遇に懸念を抱いている。このような事態に至った詳しい説明を求める。今の厳しい社会情勢を乗り切るため、組織の長としての会の方針を聞かせていただきたい。

亀谷 浩昌 会長答弁

地区薬剤師会の会員には心配をかけた。本会職員の退職については、先の臨時総会の場において質問があり答弁した。

副会長2名が辞任するに至った理由として、会の運営についての考え方の違いによるものではないかと思う。

一つは、事務局長が辞任に至った幾つかの事案を巡っての見解の違い

二つは、試験検査センターの赤字に対する改善方法の考え方の違い

主にこの2点において話し合いが続けられる中で、2名の副会長から辞意の表明があり、臨時幹事を開催し常務理事とも話し合った結果、大変残念だが退任届を了承した。

今後の会の方針としては、会長と、1名の副会長と、5名の常務理事、他理事と協力して会を運営していく所存である。

<宮古地区薬剤師会>

下地 仁 代議員質問①

全国的に経済活動、人の移動が再開され、同時に第2波、第3波の感染拡大が危惧されている。宮古地区では、基幹病院である沖縄県立宮古病院が「新型コロナウイルス感染症対策ネットワーク～医療・保健・福祉～」を立ち上げ、Web会議を通して、保健所・市役所・沖縄県立宮古病院・徳洲会病院・医師会・歯科医師会・薬剤師会・福祉・介護等の各機関と情報交換を行っているが、沖縄県薬剤師会としては行政・病院・医師会等の医療・介護との連携はどのように行われているか。

吉田 洋史 理事答弁

沖縄県保健医療部衛生薬務課等の行政機関とは、意見交換会へ参加し、国からの支援物資（マスクや手指消毒用アルコールなど）の供給に関して積極的に協力をしてきた。軽症者等に係る宿泊療養に必要な体温計を本会で集め提供した。また、薬剤交付支援事業に関して連携を取り進めている。

沖縄県立南部医療センター・こども医療センターとは、新型コロナウイルス感染疑いの患者の処方箋発行などに関して何度か話し合いを持った。

豊見城中央病院とは、新型コロナウイルス感染症予防対策に伴う検討会議へ参加した。

沖縄県医師会とは、新型コロナウイルス感染症に係る沖縄県医師会専門会議へ参加した。

国会議員・医療団体も参加する中で、新型コロナウイルス感染症予防対策に関する会議へ参加した。

他にも、自民党薬剤師問題議員懇談会議員の沖縄の国会議員2名へ緊急要望も伝えた。

福祉や介護等に関して連携はとれていない。

特にWEB会議で開催ということは無かった。

下地 仁 代議員質問②-1

新型コロナウイルス禍の影響による処方箋発行枚数の減数に伴い、調剤薬局の収益が減収している。沖縄県立宮古病院の処方箋発行枚数は前年と比べ、4月は20%減、5月は30%減となっている。沖縄県全体として処方箋発行枚数の減少はどの程度か。

また、これから先、感染拡大が起こり、更に賛助会員Bの経営状態が悪化した場合、どのような救済対策を考えているか。例えば、賛助会費の免除、削減などは可能か。

川満 直紀 理事答弁

会員においては、新型コロナウイルス感染拡大による影響で、店舗経営にこれまでに無い厳しい状況に陥ったと思う。国も薬局への救済措置を講じ、実施される予定になっている。

さて、新型コロナウイルス禍における沖縄県全体の処方箋発行枚数は、社会保険診療報酬支払基金沖縄支部と沖縄県国民健康保険団体連合会の協力を得て、今年1月から3月分、国保からは4月分までの情報を得ており、昨年同時期と比較すると、やはり、減っている。

次に、賛助会員Bへの救済対策については、財務委員会、理事会にて審議し、新型コロナウイルス感染症の影響による薬局の収益が落ち込んだのが3月から5月の3か月であることから、賛助会員B会費3ヶ月分を免除することを提案したい。方法として、6月、7月、8月の3ヶ月間にわたって口座引き落としを止めること、振込支払の賛助会員Bに対しても3ヶ月分を振り込まないよう案内する。この内容で本日決議したら、早速、賛助会員Bに知らせたい。

＜那覇地区薬剤師会＞

宮本 直樹 代議員①

会営薬局の今後について。琉球大学病院の移転に伴う、会営薬局うえはらの今後について、移転のスケジュール、用地や薬剤師確保の状況、そして、高度薬学管理機能における琉球大学病院との連携状況を教えていただきたい。

また、会営薬局とよみの現況、今後の見通しも教えていただきたい。

亀谷 浩昌 会長答弁

琉球大学病院の移転に伴う、会営薬局うえはらの今後は、大学当局が敷地内薬局を想定しているとの情報がある中、本会としては会営薬局うえはらが参入することを計画している。公募がいつになるかはまだわからない。4年後の開局まで時間があるので、職員の認定や資格の取得を進める。

琉球大学関係者との話の中で、病院薬局と敷地内薬局の連携を希望する話もあったが、具体的なものではなかった。現在、会営薬局うえはらと琉球大学病院との間で高度薬学管理に関する連携は無い。

会営薬局とよみは、現在の地にとどまり、ゆくゆくは健康サポート薬局を目指す。新病院建設に伴い、病床数の減少した会営薬局とよみに隣接する豊見城中央病院には、糸満市にある南部病院から病床がもたらされ、慢性期疾患を中心とした病院機能が残されるので、今後も一定程度の処方箋応需が見込まれる。現在より、さらに、会営薬局うえはらとの連携を密にして、機動的な人員配置ができるよう進めていく。

宮本 直樹 代議員②

不動産・在庫・備蓄ネットワークシステムの復活について。0410対応によって、普段取り扱わない薬剤の仕入れが多くなり、不動産在庫が急増している。小分け先を探すにも時間を取られ、結果、患者さんに迷惑をかけている。再度システムを構築してもらいたい。

西川 裕 常務理事答弁

以前、本会で費用を全額負担していた在庫管理システム（MEDDIS）は、理事会の承認を経て契約を昨年度の4月より解約しております。

新しいシステムの構築は、今回の質問を踏まえ、次年度以降に予算化できるか、担当委員会である医薬分業対策委員会などで検討していきます。

それまでは、現在、本会が推奨している「薬VAN」簡易版という無料サービスの不動産在庫システムを小分けなどに活用していただきたいです。

＜北部地区薬剤師会＞

屋嘉比 康作 代議員質問

新型コロナウイルス感染症対策について、今後予想される新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波に対する方針や対策について伺いたい。

吉田 洋史 理事答弁

患者、客、薬局従事者の感染症予防対策を継続して啓蒙していく。

国や県から支援・要請がある場合はその都度対応していく。

第1波への対応は、6月理事会で報告しているので、各地区薬剤師会の会員へも伝達していただきたい。また、対応に関して会員から要望があれば上げていただきたい。

一般関連質問

一般関連質問の時間に入った。同時間は前述の議題及び地区代表質問に関連する質疑応答の時間として設けられている。

最初に、地区代表質問の時間内にできなかった質問、回答を行った。

＜宮古地区薬剤師会＞

下地 仁 代議員質問②-2

賛助会員Bへの救済対策として、賛助会員B会費3ヶ月分を免除するとの提案であった。どのように採決するのか。

川満 直紀 理事答弁

賛助会員B会費を含む毎年度の会費に関する決議は、毎年3月に開催される臨時総会で執り行われているが、今後、第2波、第3波が発生し、薬局の収益が落ち込んだ際には、その都度、理事会で検討し、今回のような救済措置を執るなどの決議も迅速に行いたいことから、今年度に限り理事会に委任していただきたい。

これらについて、この後の採決の時間で決議していただきたい。

＜那覇地区薬剤師会＞

宮本 直樹 代議員③

0402通知による非薬剤師の業務詳細について、会営薬局うえはらで実施している内容や研修マニュアルの雛形の公開、会員薬局対象の研修会を実施していただきたい。

西川 裕 常務理事答弁

会営薬局うえはらで実施している内容や研修マニュアルの雛形に関しては、公開可能のため、本会事務局に連絡いただければ提供する。

会員薬局対象の研修に関しては、日本病院薬剤師会が2019年7月25日に0402通知に対する答申書に、調剤のあり方や非薬剤師に必要な研修は、各医療機関の実情に合わせて、薬剤師の責任において個々に検討するものであり、具体的内容を日本病院薬剤師会が示すことは適切でないとの

見解を示しているため、日本薬剤師会、また沖縄県薬剤師会もその見解に準ずる方針で研修会を開催する予定はない。

薬事衛生上必要な研修の実施に関して、多くの調剤薬局はインターネットなどによるeラーニングを用いて受講する形式で行っている。他の団体ではあるが、日本保険薬局協会（NPhA）や日本在宅薬学会などが主催で研修を行い、受講者数も5,000名を超えている状況。現状での代替案として参考までに紹介させていただく。

次に、議長が代議員へ一般質問を求めたところ、下記の質疑応答がなされた。

普久原 隆 代議員質問

この新型コロナウイルス禍、また、感染症の第2波、第3波が発生するかもしれない中、今年の沖縄県で開催予定の第80回九州山口薬学大会はどのようになるのか。陸続きならまだしも、離島県である本県に、飛行・船便を利用したの参加自体を問題視すべきである。中止の方向で進めてほしい。

亀谷 浩昌 会長答弁

開催のあり方について本会理事会で話し合ったところ、中止とする方向で意見が一致した。これを受け、九州山口薬剤師会会長会議にて要請したところ、他の方策も検討することや中止決定のタイミングではないということであった。しかし、改めて本会理事会の強い中止の要望を九州山口薬剤師会会長、九州山口薬学会会頭に伝えたところ、現時点では中止の方向に進んでいると感じている。本会の意向だけで中止とすることは難しいことから、九州山口薬剤師会で調整中である。

玉城 武範 代議員質問

新型コロナウイルス禍における薬局での対策について、沖縄県内でも感染症が発生し始めた2月から3月に、個人的に慌てて情報収集を行った。広島県薬剤会など、僅かではあるが、一早く具体的な指針を策定し、薬局における対策を示していた。日本薬剤師会は一般的な手指衛生や注意事項に留まっていた。今後、感染症の第2波、第3波が発生するかもしれない。地域の薬局を回って感染症対策を指導する役目も考慮していただけないか。

吉田 洋史 理事答弁

日本薬剤師会から連絡を受けての対応で、確かに本会の対応が少し遅いように感じたかもしれないが、薬局にアンケートをとって状況把握をしたところ、ビニールカーテンや手指消毒など概ね対応しており、決して遅くは無かったと思う。本会が地域の薬局を回るなどして感染防止対策を指導する役目をするのは、大変良い提案であり、これを念頭に方策を考え整備していきたい。

＜採決＞

議長が、議案第1号を読み上げ、賛成の挙手による承認を求めた。

議案第1号、令和元年度決算承認の件について、賛成多数で承認された。

次に、本総会で審議され、新議案になった新型コロナウイルス禍における賛助会員Bへの救済対策について、賛助会員B会費を3ヶ月分免除とし、その方法として6月から8月の3ヶ月にわたって口座引き落としを止める、振込支払の賛助会員Bに対しても3ヶ月分を振り込まないよう案内することについて、議長が、賛成の挙手による承認を求めた。

同伴について、賛成多数で承認された。

続いて、今後、第2波、第3波が発生し、薬局の収益が落ち込んだ際の賛助会員B会費の取り扱い方法について、年度内はその都度、理事会で検討し、決議していくことについて、議長が、賛成の挙手による承認を求めた。

同伴についても、賛成多数で承認された。

議題を滞りなく進行した議長と副議長が降壇し、進行を司会に移した。

最後に、金城雄一常務理事より、更なる会発展のために尽力することが述べられ、閉会した。

（報告：事務局 大城 喜仁）



司会
西川 裕 常務理事



開会の辞
中村 克徳 副会長



議長
名嘉 紀勝 代議員（左）と 副議長 新垣 慶朗 代議員（右）



報告第1号
佐藤 雅美 常務理事



報告第2号
神谷 朝雄 監事



議案第1号
川満 直紀 理事



閉会の辞
金城 雄一 常務理事

第82回総会資料

<報告第1号 令和元年度会務並びに事業経過報告>

1. 令和元年度 会員・薬局等の業態現況報告

(1) 会 員 数

令和2年3月末現在

① 正 会 員	1,254 人	(A会員 595人、B会員 577人、C会員19人、特別会員A 12人、特別会員B 24人、特別会員C 27人)
(内 訳)	【前年度比較】総会員数 15人増 (A会員 4人減、B会員 24人増、C会員 2人減、特別会員A 3人増、特別会員B 3人減、特別会員C 3人減)	
名 誉 会 員	2 人	新垣正次、長嶺義仁
薬 局 開 設 者	220 人	
一 般 販 売 業	12 人	
卸 勤 務 薬 剤 師	24 人	
勤 務 薬 剤 師	827 人	薬局(762)、病院(64)、製輸(1)
そ の 他	169 人	行政(19)、教研(2)、他職勤務者(18)、無職(103)、学生 (27)
② 賛 助 会 員 A	53 人	
合 計	1,307 人	① (1,254人) + ② (53人)

(2) 薬局開設者等 (前年度との比較)

令和2年3月末現在

	平成30年度	令和元年度	増減
薬 局 開 設 者	194 人	220 人	26 人
一 般 販 売 業	23 人	12 人	-11 人
卸 売 一 般 販 売 業	26 人	24 人	-2 人
勤 務 薬 剤 師	817 人	827 人	10 人
保 険 薬 剤 師	1050 人	1078 人	28 人
そ の 他	177 人	169 人	-8 人

(3) 保険薬局等 (前年度との比較)

令和2年3月末現在

	平成30年度	令和元年度	増 減
保 険 薬 局	540 軒	545 軒	5 軒
処 方 箋 応 需 薬 局	534 軒	539 軒	5 軒

第82回総会資料

令和元年度事業経過報告

1. 沖縄県内の国公立大学への薬学部創設に向けての活動

沖縄県内の国公立大学への薬学部創設を求めるためのこれまでの活動経緯は次のとおりである。

平成29年12月の理事会で「沖縄県内の国公立大学への薬学部の創設を求める署名活動」をすることが決議され、沖縄県医師会、沖縄県歯科医師会、沖縄県看護協会より連名での同署名活動の賛同を得て、平成30年1月から開始し、一般県民を始めとして県内の大手・中小企業、経営者協会、幼小中高、PTA連合会、各自治体・自治会、各種団体等に対して署名の協力依頼を平成30年4月27日まで行った。地元紙へ薬学部県内設置の必要性を訴えた投稿に加え、本会の署名活動がマスコミ等に取り上げられると、署名活動の趣旨に理解いただいた県民から応援と協力したい旨の電話が多く寄せられた。

平成30年4月10日には沖縄県庁記者会見室にて三師会（薬剤師会、医師会、歯科医師会）会長が「沖縄県内の国公立大学への薬学部創設に向けて」共同記者会見を行い、一気に目標の5万筆を超えて10万筆を集め、平成30年6月13日に琉球大学本館第一会議室にて四師会（薬剤師会、医師会、歯科医師会、看護協会）で、琉球大学への薬学部創設を求める署名10万1,660筆をマスコミ各社が同席する中、琉球大学学長に要請書とともに提出した。平成30年7月13日時点で署名は10万2,876筆となっている。

令和元年度における同活動は下記のとおりである。

令和元年5月16日（木） 琉球大学本部

琉球大学学長に就任した西田睦学長を表敬訪問（薬剤師会：亀谷会長、江夏・前濱両副会長、又吉事務局長、大城課長、沖縄県：砂川靖沖縄県保健医療部長、新城光雄衛生薬務課課長、池間博則衛生薬務課室長・中村章弘衛生薬務課主幹）

令和元年7月16日（火） 沖縄ハーバービューホテル

第68回沖縄県振興審議会にて亀谷浩昌会長が委員に委嘱される。

令和元年7月17日（水） 名桜大学本部

名桜大学 高良文雄理事長・山里勝己学長を表敬訪問（薬剤師会：亀谷会長、又吉事務局長、大城課長、沖縄県：砂川靖沖縄県保健医療部長、新城光雄衛生薬務課課長、池間博則衛生薬務課室長・中村章弘衛生薬務課主幹）

令和元年7月30日（火） 沖縄県庁

沖縄県振興審議会 第1回福祉保健部会にて、亀谷浩昌会長が、沖縄21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）等総点検報告書（素案）へ「県内国公立大学での薬剤師養成に向けた取組を強化する必要がある。」と本文へ追加するよう要請。

令和元年9月17日（火）八汐荘 屋良ホール

沖縄県振興審議会 第3回学術・人づくり部会にて、亀谷浩昌会長が、沖縄21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）等総点検報告書（素案）へ「科学技術の振興と知的・産業クラスターの形成の考えに沿うためにも質の高い薬剤師を養成する必要がある。県外学生の県内への流入を図る上からも、設置する薬学部は国立大学ないしは公立大学とすべきである。」と記載することを提案する。

令和元年9月17日（火） 沖縄ハーバービューホテル

自由民主党沖縄支部連合会の一政調会において、沖縄県内の国公立大学へ薬学部（科）を創設する旨の要請をした。（亀谷会長、又吉事務局長、大城次長）

令和2年2月6日（木）

玉城デニー沖縄県知事が編成した2020年度沖縄県予算案の保険医療分野に、「薬剤師不足の解消に向け、県内大学への薬学部設置の可能性などを調査する事業に1,191万円」と、地元紙に掲載される。

令和2年2月14日（金）

玉城デニー沖縄県知事が所信表明をし、令和2年度の沖縄県施策の概要の中に、「薬剤師確保については、薬剤師の需給予測及び県内国公立薬学部設置の可能性等について調査してまいります」と地元紙に掲載される。

2. 医薬分業対策

地域包括ケアシステムの構築が進む中で、薬剤師・薬局がその役割を果たすためには、各地域の実情に応じ、医師をはじめとする他の職種や医療機関等の関係機関と情報共有しながら連携して、患者に対して一元的・継続的な薬物療法を提供することが重要である。薬剤師が本来の役割を果たし、地域の患者を支援するための患者本位の医薬分業を実現するため、以下の事業を行った。

（1）医薬分業対策委員会主催研修会

令和元年9月15日に、医薬分業対策委員会主催研修会として、北海道科学大学薬学部早川達教授を招き、「これからの調剤業務のあり方 ～薬学的視点による患者対応／処方提案～」と題して講演していただいた。

（2）医薬分業対策会議

令和元年9月15日に県内広域病院薬局長と各地区薬剤師会長、分業担当者が参加し、医薬分業対策会議を開催した。テーマを「調剤業務のあり方について」とし、病院薬剤師・保険薬局薬剤師が膝と膝を突き合わせ、意見や考え方、方向性を議論した。

（3）FAXコーナー職員向け研修会

令和元年9月1日にFAXコーナー職員向け研修会を行った。昨年度のFAXコーナー担当者意見交換会において、FAXコーナー職員より開催の要望があり、医薬分業対策委員会で事業計画して初開催となった。（講師：平良恭子）

(4) ジェネリック医薬品使用促進に係る啓発

令和元年6月末に地元紙の論壇に掲載されたジェネリック医薬品が誤解される一般投稿について、本会はジェネリック医薬品の正しい認識を県民に啓発するため、地元紙2紙へ投稿し、論壇に掲載された。ジェネリック医薬品の正しい認識を患者はもちろん、県民へ引き続き啓発するために、本会ホームページ「ジェネリック医薬品への疑問に答えます」「薬局掲示物一覧」の内容を強化した。

○亀谷浩昌会長執筆：沖縄タイムス 令和元年7月8日（月）掲載

○西川 裕常務理事執筆：琉球新報 令和元年7月8日（月）掲載

(5) お薬手帳・電子お薬手帳の啓発活動

本会が販売しているアリカワコウヘイ氏とコラボしたお薬手帳を用いて、電子お薬手帳の啓発活動を実施した。

(6) 医療機器販売業等の営業所管理者、医療機器修理業の責任技術者に対する継続研修

①本会館12月15日、②宮古地区1月26日、③八重山地区1月26日の計3回実施した。

（講師：吉田洋史理事）

(7) その他

○薬剤師のかかりつけ機能強化にむけた全国会議参加（西川 裕常務理事）令和元年9月1日

○薬と健康の週間における県民への「かかりつけ薬剤師・薬局」の啓発：地元紙へ投稿

・古謝真己理事執筆：沖縄タイムス 令和元年10月16日（水）掲載

・盛本直也理事執筆：琉球新報 令和元年10月17日（木）掲載

○全国健康保険協会沖縄支部連絡調整会議参加（西川 裕常務理事）令和元年12月5日

○おきなわ津梁ネットワークの推進協議会に参加（吉田洋史理事）令和2年1月27日

○かかりつけ薬剤師・薬局推進指導者協議会参加（西川 裕常務理事）令和2年2月3日

3. 生涯学習

(1) 新任・新人薬剤師研修会

令和元年8月4日（日）に沖縄県薬剤師会館ホールで開催され、35名の参加があった。

研修会では、「医薬品情報業務について」を浦添総合病院の宮里弥篤氏が担当し、DI業務、情報検索の基本、検索サイト紹介など多岐にわたる有益な講義であった。「薬歴の書き方について」は、すこやか薬局グループの喜屋武芳美氏に保険調剤薬局での薬歴の書き方について講義いただいた。「疑義照会について」は、学術研修委員会委員で保険薬局薬剤師でもある中尾滋久氏に講義いただいた。

講義後は各部会について、行政薬剤師部会から沖縄県保健医療部衛生薬務課薬務室技師の宮城隼人氏、学校薬剤師部会から知名博樹副部会長、女性薬剤師部会部から村田美智子部会長、青年部会から上原卓朗部会長が部会の紹介をした。

講師やテーマを工夫することにより、連続聴講しても実りのある研修会となるよう今後も努力したい。

(2) 第33回沖縄県薬剤師会学術大会

令和元年11月17日（日）、「モノからヒトへ 薬の先を見据える新時代の展望」をテーマに、沖縄県看護協会館に於いて開催した。参加者は274名（県薬198名、病薬75名、非会員1名）で、知名博樹大会実行委員の司会進行のもと、中村克徳大会副会長と亀谷浩昌大会会長の挨拶が続いた。会員発表の部では、那覇市立病院の永井賢作氏、会営薬局うえはらの上里美矢子氏、レモン薬局の松本圭吾氏、琉球大学医学部附属病院の橋田律氏が座長を務め、病院薬剤師関連から7演題、保険薬局・その他部会関連から10演題の合計17演題が発表された。大会奨励賞は、病院薬剤師関連部門では浦添総合病院の玉城聖佳氏による「ポリファーマシー対策への取り組み～医師・薬剤師連携による患者中心の医療を実践する～」が、保険薬局・その他関連部門ではすこやか薬局野嵩店の石田浩氏による「薬剤師、管理栄養士、事務による三者協働訪問事業」が受賞した。ランチョンセミナーは東和薬品株式会社共催で、横浜市立大学附属病院の小池博文副薬剤部長に「薬剤師が行う抗菌薬、酸分泌抑制剤等の薬剤選択～安定供給と経営改善の観点を踏まえて～」、特別講演では琉球大学医学部附属病院の大屋祐輔病院長に「未来の琉球大学病院、未来の沖縄の脳卒中・循環器病対策」を講演いただき、大変好評であった。その他、機器展示では自動調剤ロボット機器や調剤支援技術ソフト等、9社の展示・紹介があり、潮平英郎大会実行委員長による閉会の辞で盛会の内に幕を閉じた。九州山口地区において学術大会を継続開催している県は沖縄、大分、佐賀、熊本の4県のみで、令和元年で33回目を迎えられたことは大変誇れることである。

(3) 第80回九州山口薬学大会実行委員会の設置

令和2年11月22・23日に沖縄コンベンションセンターで開催予定の第80回九州山口薬学大会に向けて、実行委員会を設置し、ホームページの立ち上げ、プログラム作成などの準備を着々と進めた。同大会の成功のために、会員一人一人の協力および演題発表が不可欠である。

4. 医療安全対策

(1) 令和元年度医療安全講習会を開催

令和2年2月9日（日）に本会館ホールで次の内容で開催し、114名が受講した。

○講義1：「官民一体となったテロ対策の推進について」 沖縄県警察本部外事課・那覇警察署

○講義2：「薬局における事故・過誤の事例」 中尾滋久担当理事

(2) D E M事業への参加案内

令和2年2月1日より開始されたD E M事業への周知を一斉同報F A Xにて行い、報告を促した。

協力案内：令和2年1月7日

調査開始案内：令和2年1月31日

調査終了案内：令和2年2月25日（終了日：2月29日）

5. 医療保険

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、九州厚生局主催の集団指導が中止になり、3月29日に、かでな文化センターで予定していた令和2年度調剤報酬改定等説明会も中止となった。そこで、会員へ周知するために本会担当部分「調剤報酬改定について」をYouTubeにて3月28日から5月7日まで配信し公開した。また、10月の消費税率引き上げに伴う調剤報酬改定時には新しい点数表の配布と周知を行った。

令和元年度に実施された指導は、九州厚生局による集団的個別指導38薬局、個別指導19薬局、新規個別指導28薬局、集団指導（新規指定）14薬局、集団指導（新規登録）49名、更新時集団指導41薬局であった。また、厚生労働省による共同指導は2薬局（12月12日、13日）であった。

また、おきなわ薬剤師会報に「調剤報酬請求業務Q&A」を掲載し、会員へ周知した。

6. 地域保健

(1) 健康とおくすり相談事業

例年のように各地区薬剤師会が主体となって下記の通り実施された。

なごみ会主催県民健康フェア2019では、かかりつけ薬剤師の届け出要件の一つである地域貢献事業の参加に該当することを証明する参加証を参加者に発行した。

一般用医薬品セルフメディケーション振興財団の助成で、昨年度に引き続き、同事業を多良間村にて宮古地区薬剤師会の協力の下、実施した。

毎年開催される薬と健康の週間におけるメインイベント“くすりと健康フェア”で同事業を実施、多くの参加があり、大変好評であった。

回	開催日	担当	開催場所	相談員数	参加者数
169	6月9日	那覇地区	サンエー那覇メインプレイス	13	36
170	7月28日	宮古地区	多良間村役場	6	45
171	8月4日	那覇地区	サンエー経塚シティ	5	52
172	10月20日	南部地区	沖縄県立図書館	17	80
173	10月27日	南部地区	武富ハイツ自治会館	8	35
174	11月10日	南部地区	糸満市西崎総合体育館	5	1
175	11月10日	那覇地区	沖縄セルラーパーク那覇	5	85
176	11月23日	中部地区	うるマルシェ	16	90
177	12月1日	那覇地区	久米島ホテルドーム	3	80
178	2月2日	那覇地区	サンエー那覇メインプレイス	9	30
179	2月23日	八重山地区	川平公民館	12	6

(2) 自殺予防・対策事業

2019年の全国自殺者数は10年連続の減少で2万169人となり、1978年の統計開始以来、過去最小となった。国は平成18年に自殺対策基本法を成立、自殺予防総合対策センターを設置した。平成21年地域自殺対策緊急強化基金（100億円）設置に伴い、沖縄県も自殺対策連絡協議会を立ち上げ、本会も同協議会に参加し自殺予防対策事業に協力してきた。

沖縄県の自殺者数は、平成10年から平成23年までは14年連続で300人を超えていたが年々減少し、平成30年は、男性（172人）、女性（49人）、計（221人）であった。全国の自殺死亡率（人口10万人当たりの自殺者数を指す）でみると、少ない順で10位であり、前年平成29年の順位30位に比べると、良い傾向となった。これも、各関係機関等による相互の連携と協力の結果であると考えられる。しかしながら、まだ多くの自殺者がおり、沖縄県自殺対策連絡協議会は、引き続き関係機関と連携し自殺対策に取り組むことになっている。

2019年度の自殺予防対策事業は、例年のように国が制作した啓発ポスターを会員薬局等へ配布し周知活動を行った。また、薬剤師がゲートキーパーとしてのスキルアップのための研修会を例

年のように開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大を懸念し中止とした。2020年度はより充実させたゲートキーパースキルアップ研修会を開催できるよう企画したい。

(3) 薬剤師認知症対応力向上研修（講師：中尾滋久）

平成28年度より沖縄県の委託事業として行っている認知症対応力向上研修会を、令和元年12月1日に開催した。参加者は21名で、のべ511人の薬剤師が研修し、修了者には沖縄県より修了証が発行されている。

(4) 禁煙事業について

平成19年に発足した禁煙支援薬局・薬剤師の認定制度(3年毎更新)は、現在、認定薬剤師は82名、禁煙サポート薬局は16軒である。以前より、禁煙支援に携わる薬剤師のモチベーションを高く維持するための工夫が必要であることが本年度も確認され、薬局における禁煙補助薬の販売ならびに指導について取り組むこととした。また、平成31年（令和元年）度も、禁煙サポート薬局支援継続事業として、7月に「第256回禁煙アドバイザー育成講習会」を日本禁煙科学会と共催で実施した。

また、県内の禁煙事業を多職種で集まって報告を行う“沖縄県禁煙協議会総会”に継続して参加し、本会の取り組みを報告した。

一方、学校薬剤師を中心とした教育現場における防煙(初めの1本を吸わせない)活動については継続して行われた。これらの活動が小学校から高等学校の児童・生徒に対して継続して展開していることは、喫煙防止に大いに貢献するものである。加えて、「新型タバコ（加熱式タバコ、電子タバコ等）」についての情報提供も行った。さらに、健康増進法改正に伴う受動喫煙対策ならびにタバコはCOPDの大きなリスクファクターとしての位置づけからの禁煙・防煙活動の啓発も視野に取り組む。

(5) 薬剤師のためのフィジカルアセスメント

平成24年度（2012年）より本会と沖縄県病院薬剤師会が共同で行っている継続事業である。おきなわクリニカルシミュレーションセンターにて医療シミュレーター（心音や呼吸音、腹部音など聴診ができる人体模型など）を用いた、薬剤師が直接患者から情報を収集する方法や他の医療者が収集した情報をどのように活用するのが良いのかを実技を交えて習得することを目的とした研修会である。期間は1年間で、2019年度は7回の講義があり、そのうち1回を、医師がフィジカルアセスメントを用いた副作用モニタリングのポイントなどについての特別講義とした。受講生は病院薬剤師20名と開局薬剤師5名で、受講を修了した者が次年度以降のインストラクターとして講習の実施・運営を引き継いでいる。修了者は、自身が勤務する薬局での業務に生かすだけでなく、会員に対しても受講内容を広めていけるよう努めていく。

(6) 地域ケア会議

平成30年度より全面実施の運びとなっている地域包括ケアに基づいた地域ケア会議において、薬剤師は“専門職アドバイザー、助言者”として参加が要請される。本年度は、那覇市、浦添市、沖縄市、宮古島市、宜野湾市、糸満市、うるま市、嘉手納町、北谷町、八重瀬町、読谷村に薬剤師の派遣を行った。これらの会議への参加依頼ならびに参加報告は可能な限り本会で集約している。

昨年度より、地域ケア会議に参加した薬剤師のために助言記録シートを本会ホームページにアップして活用を図っている。

また、沖縄県内における当事業の専門職アドバイザーの養成のための講習会は、沖縄県リハビリテーション専門職協会が県より委託を受けた事業を行っており、当会は当初よりこの協力メンバーの団体の一つとなっている。本年度もこれらの事業の研修会（多職種コンソーシアム実践研修会：1月18日 於 沖縄県総合福祉センターゆいホール）に参加した。さらに、地域支援体制加算の要件の一つとして助言者のレベルを上げる講習会の開催を実施する予定である。

7. 健康サポート薬局推進

(1) 健康サポート薬局のモデル薬局整備事業（令和元年度沖縄県地域医療介護総合確保基金事業）

昨年度に引き続き、健康サポート薬局届け出数の増加を目的とし、それをめざす会員の便に供するために当事業に取り組んだ。すなわち、会営薬局うえはらを健康サポート薬局として届け出、そこを研修場所とし、在宅訪問、OTC取扱いならびに健康相談等の“健康サポート機能”を展開することをめざした。今回は、届け出はできなかったものの、健康相談のために使用する機器の整備ならびに研修会『会営薬局うえはら無菌調剤室共同利用に関する講習会』（1月30日、参加者15名）を実施した。引き続き、モデル事業に取り組んでいく。

(2) 「健康サポート薬局県内100軒実現に向けて」の取組み（研修会等）

前期(1)の事業と並行して、昨年度に引き続き下記の研修会を実施した。

「経営面から健康サポート薬局実現を考える」（8月21日、講師：仲真良重氏、又吉章元氏）、「OTC導入における経済効果とその現状」（11月28日、講師：盛本直也氏）および「健康サポート薬局の活用・推進について」（令和2年2月6日、講師：道明雅代氏）であった。

(3) 健康サポートのための多職種連携研修会の実施

『健康サポートのための多職種連携研修会A（以下研修会A）』及び『健康サポートのための薬剤師の対応研修会B（以下研修会B）』を沖縄本島で2回（11月24日、1月26日）実施した。昨年度と同様に1日で研修会A、研修会Bを連続して行った。内容は、研修会Aの講義については2回の実施で一部講師を変えて実施した。研修会Bについてはグループワークを実施した。参加者のグループは地域ごとに分けて編成し、地域の社会資源について効果的に討論できるよう配慮した。受講者人数は（第1回11月24日、研修会A：19名、研修会B：16名）、（第2回1月26日、研修会A：17名、研修会B：18名）であった。平成28年度から実施しているA・B研修の累積修了者人数は502名、沖縄県内における健康サポート薬局軒数は10軒となった。（令和2年3月末時点）。この10軒については、本会ホームページに掲載している。今後は、県民に対する「健康サポート薬局」の周知活動に取り組んでいく予定である。

(4) 訪問薬剤管理指導推進事業（令和元年度沖縄県地域医療介護総合確保基金事業）

健康サポート薬局をめざす薬局・薬剤師ならびに在宅医療を担う薬剤師の養成・支援を目的として本事業を行なった。参加希望者に対して指導薬剤師が同行し、患者宅または施設を訪問しながら学んでいく事業で、11件実施した。また、離島へき地に薬剤師が在宅医療でできることの啓発も行った（2月23日、石垣島）。

(5) 在宅医療支援薬局の広報周知活動

以前より本会ホームページに在宅医療を支援できる薬局の一覧を掲載していたが、内容が細かくて使いにくい、掲載している薬局に問い合わせをしたら断わられた等の苦情に対処するため、リニューアルを行った。すなわち、項目を簡略化して、毎月1回情報を更新するようにした。薬局数は104軒から63軒と減少したが、責任を持った情報提供を行うことができると考えている。

(6) 在宅医療支援のための講演会・講習会

①「在宅医療推進研修会」

3月26日実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止とした。

②「在宅同行訪問座学研修会」

前記(4)の事業が、前記①と同理由で実施困難と判断されたために、訪問実践に代わって座学方式とし、3月27日に開催した。(講師：西川裕常務理事、笠原大吾理事、石田浩・玉城武範健康サポート薬局推進委員会委員、鈴木直志氏、)参加者36名

8. 薬学生実務実習受入

実習生受け入れ10年目になるこの年は、11大学より1期21名、2期26名、3期3名の過去最高人数である50名の実習受入を行った。大学の内訳は以下の通りである。第一薬科大学5名、九州保健福祉大学8名、福岡大学5名、長崎国際大学6名、崇城大学4名、徳島文理大学10名、明治薬科大学2名、神戸学院大学3名、武蔵野大学1名、名城大学5名、愛知学院大学1名。

また、薬学教育に於けるコアカリキュラムが変更(新コアカリキュラム)になり「薬剤師として求められる基本的な10の資質」を意識し、より参加体験型の実務実習が期待される初年度でもあった。

認定実務実習指導薬剤師養成のための講座は、新規2回、更新2回開催した。

他に、早期体験実習5名を受け入れた。

認定実務実習指導薬剤師の養成のためのワークショップへは7名派遣した。

9. 災害支援対応

沖縄県災害対策本部設置運営訓練(7月12日、23日)、沖縄DMAT・災害拠点病院等連絡会議(11月13日、2月13日)、美ら島レスキュー頭上訓練及び実動訓練(12月17日、18日)、沖縄県災害医療コーディネート研修会(1月18日、宮古地区1月26日)、沖縄県災害医療マニュアル検討会議(2月13日)に本会も参加した。

本会会館、会営薬局うえはら、会営薬局とよみの3箇所に設置されているAEDが使用期限のため、本体を再購入し、設置した。

台風15号19号被災者支援義援金募集を行い、12月末に日本薬剤師会へ243,083円を届けた。

BLS講習会(成人編)を開催(1月20日)し、8名が参加した。

沖縄県医薬品卸業協会の会員5社との災害時における医薬品等供給に関する情報交換会(3月12日)を開催した。

新型コロナウイルス(COVID-19)感染症への対応を、随時、会員や県民向けにFAX一斉同報や本会ホームページを通して情報提供した。

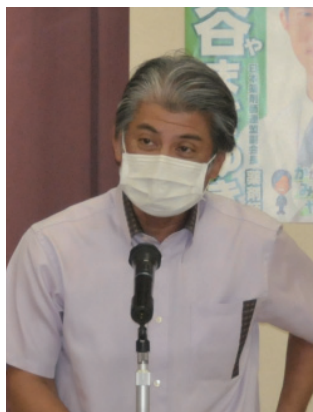
10. その他関連事業

- (1) 「薬と健康の週間」事業（10月17日～10月23日）
- (2) 各種関連協議会への参加協力
- (3) 関連機関団体との協議及び懇談
- (4) 関係行政当局との定期的連絡協議会
- (5) おきなわ薬剤師会報の発行
- (6) 薬剤師求人求職斡旋事業・薬剤師確保対策事業
- (7) 日薬年金及び賠償責任保険・個人情報漏えい保険の加入促進
- (8) 麻薬覚せい剤及び薬物乱用防止対策行事への参加協力
- (9) 公共関連機関団体等への寄附
 - ・ 沖縄県へ首里城火災復旧支援金を寄附
 - ・ 台風15号19号被災者支援義援金
 - ・ 沖縄県交通遺児育成会募金 など

< 地区薬剤師会代表質問 >



玉城 武範 沖縄支部代議員
(中部地区代表)



下地 仁 平良支部代議員
(宮古地区代表)



宮本 直樹 那覇北支部代議員
(那覇地区代表)



屋嘉比 康作 名護支部代議員
(北部地区代表)



吉田 洋史 理事
(新型コロナウイルス感染症
対策関連質問回答)



物故会員へ黙祷

第82回総会資料 令和元年度 薬事情報センター事業報告

1. 情報提供業務

- (1) 質疑応答業務（集計内容の詳細は別紙参照）
 - ・調査件数：571件／年（医療関係者247、医療関係者以外324） 48件／月
 - ・質問者数：475人／年 40人／月
- (2) WEBサイト（ホームページ）による情報提供
- (3) 会報「薬事情報おきなわ」の編集・発行（隔月刊）No. 254～No. 258を発行
- (4) 会員向けメール配信業務（Weekly News）

2. 情報収集業務

1. 新規図書総数
2. 購読雑誌
3. 各都道府県薬剤師会機関誌
4. 業界新聞：4紙（薬事日報、薬局新聞、薬事ニュース、国保新聞）
5. メーカー・卸機関誌
6. 厚生労働省および日薬からの各種情報・通知
7. 製薬企業からの情報
8. 医療安全レポート（一般社団法人 医療安全全国共同行動発行）

3. 情報管理業務

- (1) 当センターで独自に入力・管理を行なっているデータベース
 1. 薬事情報センター質疑応答事例（ファイルメーカー Pro）
 2. 購読雑誌、文献データベース
- (2) 日本薬剤師会と協同作成のデータベース（文献書誌情報検索システム：Bunsaku）
 - 担当雑誌（「新薬と臨床」「総合診療」「臨床薬理」「おきなわ県薬会報」「産科と婦人科」）
- (3) 子ども医療電話相談事業（＃8000）の質問記録の管理

4. 学会・日本薬剤師会関連研修会等

- (1) スポーツファーマシストのための情報提供研修会 Live On Seminar（第1回）
 - ～大塚製薬（株）Live On Seminarシステムを用いた対象拠点会場とのweb研修会
 - （主催：公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構）
 - 「国体に向けたTUE（治療使用特例）申請手続きの要点と事例紹介」
 - 日時：令和元年6月28日（金）（於：県薬ホール）
- (2) 令和元年度 名城大学薬学部公開講座（主催：名城大学薬学部）
 - 日時：令和元年9月1日（日）（於：県薬研修室）
 - 演題「うっかりドーピング防止に向けて～薬剤師ができる事」（演者：吉田）
- (3) スポーツファーマシストのための情報提供研修会 Live On Seminar（第2回）
 - 「国体開催県による情報共有」
 - 日時：令和元年11月20日（水）（於：県薬ホール）

- (4) 令和元年度 都道府県薬剤師会アンチ・ドーピング活動担当者研修会（参加：笠原大吾・吉田）
日時：令和元年11月29日（金）（於：日本薬剤師会）
- (5) スポーツファーマシストのための情報提供研修会 Live On Seminar（第3回）
「症例検証」
日時：令和元年12月11日（水）（於：県薬研修室）
- (6) 令和元年度 第1回日本薬剤師会 薬事情報センター実務担当者研修会（参加：吉田）
日時：令和2年2月7日（金）（於：日本薬剤師会）

5. 沖縄県体育協会関連研修会等

- (1) 2019年度 沖縄県体育協会 スポーツ医・科学サポートプログラム説明会（発表：笠原大吾）
日時：平成31年4月16日（火）（於：沖縄県体育協会スポーツ会館大会議室）
- (2) 国民体育大会に向けたアンチ・ドーピング講師養成講習会（主催：日本アンチドーピング機構）
（参加：吉田）
日時：令和元年6月20日（木）（於：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE（東京））
- (3) 国民体育大会 監督者会議（主催：沖縄県体育協会）（於：体協大会議室）
「アンチ・ドーピングに係る留意点～“うっかりドーピング”を防ぐために～」
 - ①令和元年度第39回国民体育大会九州ブロック大会 監督会議（夏季大会）（参加：吉田）
日時：令和元年7月3日（水）
 - ②令和元年度第38回国民体育大会九州ブロック大会 監督会議（秋季大会）（参加：笠原大吾・吉田）
日時：令和元年7月25日（木）
 - ③第74回国民体育大会（福井国体）監督会議（参加：吉田）
日時：令和元年9月13日（金）
- (4) 国民体育大会 監督者会議（主催：沖縄県体育協会）（参加：笠原大吾・吉田）
「沖縄県内のアンチ・ドーピング活動の取り組み等について」
日時：令和2年1月26日（日）（於：沖縄県体育協会）

6. 会議等

- (1) 令和元年度 第1回スポーツファーマシスト連絡会議（薬事情報センター小委員会）
日時：令和元年5月14日（火）（於：県薬）
- (2) 全国総体九州大会におけるアンチ・ドーピング活動のための打ち合わせ会議
日時：令和元年8月2日（金）（於：県薬会議室）
- (3) 令和元年度 第1回薬事情報センター委員会
日時：令和元年8月27日（火）（於：県薬）
- (4) 令和元年度 第1回スポーツ医・科学委員会（参加：笠原大吾・吉田）
日時：令和元年9月4日（火）（主催・場所：沖縄県体育協会）
- (5) 令和元年度 第2回薬事情報センター委員会
日時：令和2年1月21日（火）（於：県薬）
- (6) サポートプログラム調整会議（参加：笠原大吾）
日時：令和2年2月27日（木）（主催・場所：沖縄県体育協会）
- (7) 令和元年度 第2回スポーツ医・科学委員会（参加：笠原大吾・吉田）
日時：令和2年3月25日（水）（主催・場所：沖縄県体育協会）

7. その他

(1) DI業務支援

- ・平良恭子：平成31年4月～（半日／週）
- ・金城みどり：平成31年4月～（平日：8時半～17時半）
- ・赤嶺朝健：平成31年4月～（2～3日／月：1日2時間）

(2) 会営薬局とよみへ出向

- ・吉田典子（週1-2回（約2時間/日））

(3) 沖縄県難病支援センター「アンビシャス」の原稿執筆（月1回：令和元年12月～）

- ①「食間」とは、食事中に飲む事？
- ②インフルエンザワクチンを受けたら完璧？
- ③冬に多い胃腸炎
- ④水なしで薬を飲んでもいいですか？

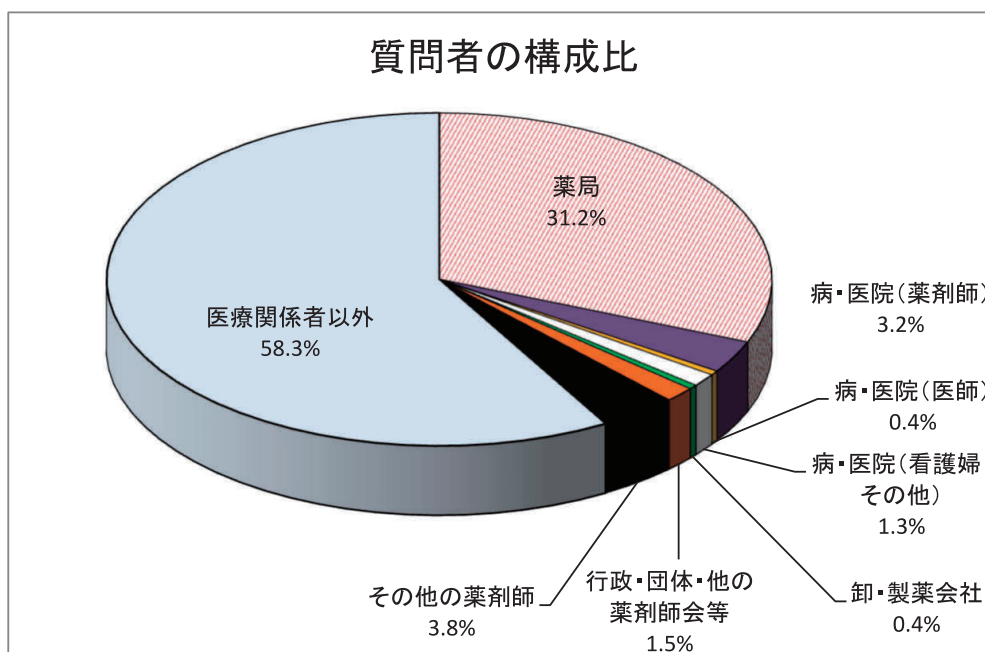
2019年度（平成31・令和元年度）：質問者数集計

（質問者別）

分 類		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	%
医療関係者	薬局	17	13	14	6	11	7	9	10	16	10	15	20	148	31.16%
	病・医院(薬剤師)	2	2	0	0	1	1	0	0	2	0	2	5	15	3.16%
	病・医院(医師)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0.42%
	病・医院(看護婦・その他)	1	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1	6	1.26%
	卸・製薬会社	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0.42%
	行政・団体・他の薬剤師会等	0	0	0	1	0	1	0	0	4	0	0	1	7	1.47%
	その他の薬剤師	0	2	0	1	0	1	0	0	1	7	3	3	18	3.79%
医療関係者以外		30	28	18	27	25	18	31	17	15	23	26	19	277	58.32%
合 計		50	46	32	36	37	28	43	27	39	41	47	49	475	100.0%

2019年：年間総質問者数 475 人

2019年：月平均質問者数 40 人

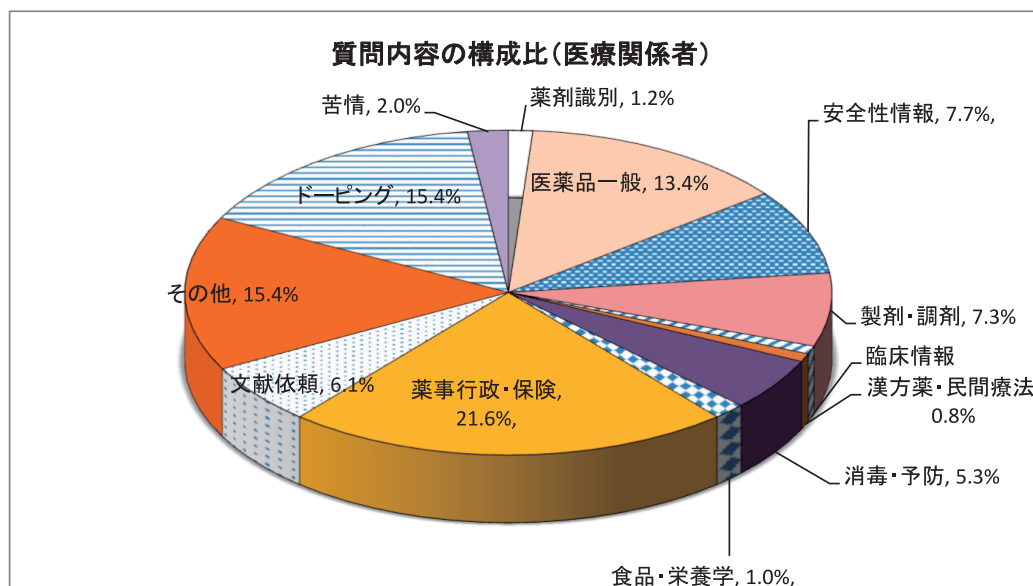


2019年度(平成31・令和元年度)：調査件数集計

医療関係者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	(%)
薬剤識別	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	3	1.2%
医薬品一般	5	1	9	1	1	0	1	1	5	1	4	4	33	13.4%
安全性情報	4	1	2	1	0	2	0	3	2	3	2	1	21	8.5%
製剤・調剤	1	0	0	2	2	1	0	2	2	4	1	3	18	7.3%
臨床情報	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0.8%
漢方薬・民間療法	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.8%
消毒・予防	1	1	1	2	0	0	0	0	0	4	3	1	13	5.3%
食品・栄養学	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	4	1.6%
薬事行政・保険	7	10	3	1	3	0	9	3	4	3	4	8	55	22.3%
文献依頼	1	3	1	0	6	1	1	0	1	1	0	0	15	6.1%
その他	2	1	2	1	1	3	1	2	6	8	5	6	38	15.4%
ドーピング	8	2	0	1	5	3	1	0	1	2	6	9	38	15.4%
苦情	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	5	2.0%
合計	31	20	18	9	19	11	13	12	24	29	25	36	247	100.0%

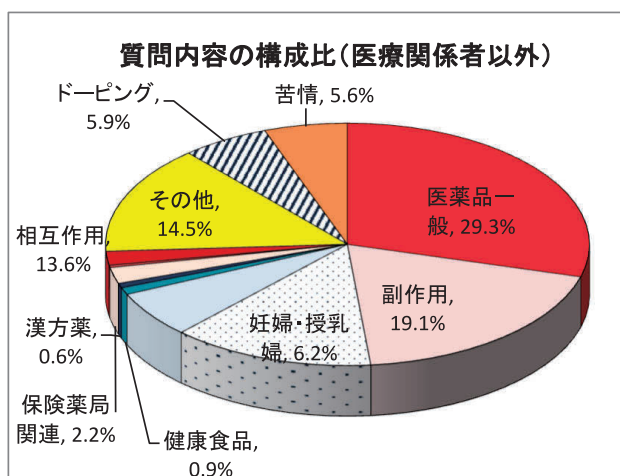
医療関係者以外(件数)	41	34	24	28	35	19	37	18	15	25	29	19	324
-------------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

2019年：年間総調査件数 571 件
2019年：月平均調査件数 48 件



2019年(平成31・令和元年度)：医療関係者以外からの質問の内訳

	合計	(%)
医薬品一般	95	29.3%
副作用	62	19.1%
相互作用	44	13.6%
妊婦・授乳婦	20	6.2%
健康食品	3	0.9%
漢方薬	2	0.6%
保険薬局関連	7	2.2%
中毒	1	0.3%
公衆衛生	6	1.9%
その他	47	14.5%
ドーピング	19	5.9%
苦情	18	5.6%
合計	324	100.0%



第82回総会資料 令和元年度 試験検査センター事業報告

I. 医薬品検査について

1) 計画的試験

* 令和元年度の計画的試験検査については、令和元年12月19日に試験検査センター委員会で討議され、1) アロプリノール錠の溶出試験、2) エテンザミドの定量試験及び3) 漢方薬の細菌試験が選定された。検体の提出は169検体であった。

また、漢方薬の細菌試験については第17改正日本薬局方「参考情報」を結果判定の参考とした。

検査対象	検査項目	検体数
アロプリノール錠	溶出試験	122
エテンザミド	定量試験	10
漢方薬	細菌試験	37
		169

2) 統一試験（日薬）；令和元年度医薬品精度管理試験

*日薬より試験実施要領及び検体が配布された後、下記の試験を行った。

*エテンザミドの定量試験（分析法）HPLC法

令和元年11月25日提出

3) 外部精度管理（厚生労働省）；令和元年度登録試験検査機関技能試験

*国立医薬品食品研究所より検体及び試験法が配布され、下記の試験を行った。

*プロブコールの定量試験及び確認試験（分析法）HPLC法、UV法

令和2年4月2日提出

4) 依頼医薬品・化粧品検査

*主に、化粧品の細菌検査及び医薬品の規格試験等の依頼を受けた。

	検査数	検査料金
依頼	11	158,840

5) 令和元年度粘着力試験 予備調査（日薬）

*日薬より試験実施要領及び検体が配布された後、下記の試験を行った。

*貼付剤の粘着力試験（分析法）日本薬局方 粘着力試験法

令和元年11月25日提出

Ⅱ. 水質検査について

1) 学校関係水質検査

*学校関係の水質検査は以下のとおりである。

県立学校及び市町村の水質検査、また、琉球大学附属小学校・中学校等の水質検査を行った。

	検査数		検査料金
	飲料水	プール水	
県立学校	78	113	2,785,652
市町村 など	476	272	8,377,278
計	554	385	11,162,930

2) 依頼水質検査

*依頼検査は以下のとおりである。八重瀬町営プール、認定こども園等の水質検査等を行った。

	検査数	検査料金
一般依頼	120	1,318,468

Ⅲ. 空気環境検査について

1) ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の検査

* 県立学校及び那覇市 等より空気環境検査の委託を受け、検体を取りまとめ、財団法人東京顕微鏡院へ分析を依頼した。

	検査数	検査料金
県立学校	82	1,045,716
市町村 など	127	1,918,032
計	219	2,963,748

ただし、東京顕微鏡院への外注費は、2,061,756円。

2) ダニ又はダニアレルゲン検査

*県立学校、豊見城市及び国立沖縄工業高等専門学校の検査を行った。

	検査数	検査料金
県立学校	231	633,384
市町村 など	267	728,012
計	498	1,361,396

Ⅳ. 随時の調査等依頼への対応

○学校環境衛生や医薬品等の検査に関する問い合わせについて、資料提供を行った。

1) プール施設の点検について

2) 水道工事後の水質検査について など 7 件

V. 研修

1) 日薬技術講習会

講習日 令和元年12月5日・6日
講習会場 日本薬剤師会 会議室
出席者 小泉 宝之

～研修内容～

- 1 錠剤・カプセル状の健康食品の品質等実態調査と健康被害について
- 2 第十七改正日本薬局方第二追補の概要について
- 3 日本薬局方理化学試験法の現況について
- 4 定量 NMR ～基礎と日本薬局方試薬への応用～
- 5 試験検査センター委員会報告
平成 30 年度医薬品精度管理試験結果
令和元年度医薬品精度管理試験
令和元年度粘着力試験予備調査（中間報告）

VI. 試験検査センター委員会

日時 令和元年12月19日
場所 沖縄県薬剤師会 会議室

1 報告事項

- 1) 平成30年度報告及び令和元年度中間報告（医薬品検査・水質検査等）
- 2) 試験検査センター連絡協議会について
- 3) 登録試験検査機関における外部精度管理（平成29年度）について

2 議題

- 1) 令和元年度計画的試験について
- 2) 令和2年度 事業計画(案) について
- 3) 試験検査センターの今後について〈又吉事務局長〉

VII. 令和元年度試験検査センター連絡協議会（日薬）

日時 令和元年5月30日・31日
場所 沖縄県市町村自治会館

【1日目】5月30日

- 1 登録検査機関（医薬品）における意義と役割
- 2 パネルディスカッション
 - 1) 試験検査センターの事業紹介、試験検査業務の事例の発表
 - （一社）沖縄県薬剤師会試験検査センター
 - （一社）佐賀県薬剤師会検査センター
 - （一社）大阪府薬剤師会試験検査センター
 - （公社）東京都薬剤師会衛生試験所
 - （一社）福島県薬剤師会医薬品試験検査センター

2) 総合討論

【2日目】5月31日

- 1 「平成30年北海道胆振東部地震」の発生とその対応について
- 2 災害時における事業継続について
- 3 試験検査センター委員会報告
 - ・粘着力試験パイロットスタディ
 - ・医薬品形状の機能性表示食品を対象とした崩壊試験

第82回総会資料

<議案第1号 令和元年度決算承認の件>

正味財産増減計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

一般社団法人 沖縄県薬剤師会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特 定 資 産 運 用 益	1,488	1,420	68
特 定 資 産 受 取 利 息	1,488	1,420	68
受 取 入 会 金	850,000	960,000	△ 110,000
受 取 入 会 金	850,000	960,000	△ 110,000
受 取 会 費	105,207,909	109,346,672	△ 4,138,763
正 会 員 受 取 会 費	53,427,600	57,899,700	△ 4,472,100
賛 助 会 員 受 取 会 費	51,470,309	51,100,972	369,337
特 別 会 員 会 費	310,000	346,000	△ 36,000
事 業 収 益	1,925,845,355	1,773,553,434	152,291,921
出 版 物 事 業 収 益	3,911,409	5,844,477	△ 1,933,068
広 告 料 事 業 収 益	470,000	590,000	△ 120,000
そ の 他 事 業 収 益	9,674,707	12,701,111	△ 3,026,404
調 剤 報 酬 収 入	1,674,710,311	1,517,306,932	157,403,379
一 部 負 担 金 収 入	184,637,898	180,250,470	4,387,428
小 分 治 療 剤 収 入	10,971,807	11,329,760	△ 357,953
保 険 外 料	11,942,451	19,520,576	△ 7,578,125
受 取 手 数 料	5,772,791	8,291,858	△ 2,519,067
保 険 等 調 整 増 減	900,944	△ 939,368	1,840,312
新 規 契 約 賦 課 金	40,000	30,000	10,000
利 用 契 約 金	2,400,000	2,310,000	90,000
医 薬 品 検 査 手 数 料	158,840	265,906	△ 107,066
水 質 検 査 手 数 料	15,978,194	10,420,704	5,557,490
空 気 検 査 手 数 料	4,269,003	5,631,008	△ 1,362,005
衛 生 検 査 手 数 料	7,000	0	7,000
受 取 補 助 金 等	6,020,908	10,217,405	△ 4,196,497
受 取 地 方 公 共 団 体 補 助 金	3,990,000	7,968,000	△ 3,978,000
受 取 民 間 助 成 金	900,000	950,000	△ 50,000
受 取 補 助 金 等 振 替 額	1,130,908	1,299,405	△ 168,497
受 取 寄 付 金	725,207	465,736	259,471
寄 付 金 収 入	460,000	146,148	313,852
寄 付 金 等 振 替 額	265,207	319,588	△ 54,381
貸 倒 引 当 金 戻 入 益	20,000	0	20,000
雑 収 益	4,183,289	3,313,472	869,817
受 取 利 息	2,937	2,803	134
雑 収 入	844,079	176,680	667,399
事 務 受 託 金 収 益	3,336,273	3,133,989	202,284
経常収益計	2,042,854,156	1,897,858,139	144,996,017

科 目					当年度	前年度	増 減
(2)経常費用							
事	業	費			1,960,330,275	1,824,774,573	135,555,702
期	首	棚	卸	高	66,599,827	63,124,046	3,475,781
仕		入		高	1,624,944,983	1,477,618,344	147,326,639
期	末	棚	卸	高	△ 77,300,313	△ 67,957,556	△ 9,342,757
役	員	報		酬	4,263,796	4,295,400	△ 31,604
給	料	手		当	92,376,453	93,061,612	△ 685,159
雑				給	81,011,847	76,354,268	4,657,579
賞				与	15,624,151	17,133,069	△ 1,508,918
退	職	給	付	費	2,798,590	3,252,927	△ 454,337
法	定	福	利	費	24,385,914	24,101,336	284,578
福	利	厚	生	費	1,076,679	1,218,773	△ 142,094
会		議		費	1,909,830	2,895,357	△ 985,527
旅	費	交	通	費	16,063,267	20,283,084	△ 4,219,817
通	信	運	搬	費	5,259,141	6,072,984	△ 813,843
減	価	償	却	費	12,043,277	14,328,372	△ 2,285,095
消	耗	品		費	12,779,228	11,188,437	1,590,791
修		繕		費	362,400	192,724	169,676
研		修		費	20,140	51,400	△ 31,260
出	版	物	印	刷	7,611,570	8,728,538	△ 1,116,968
地	代	家		賃	21,772,277	21,799,355	△ 27,078
光	熱	水	料	費	6,185,010	6,258,587	△ 73,577
賃		借		料	2,065,794	2,122,957	△ 57,163
広		報		費	4,141,274	4,965,943	△ 824,669
保		険		料	1,314,699	1,327,233	△ 12,534
諸		謝		金	791,930	884,335	△ 92,405
租	税	公		課	3,095,204	3,200,163	△ 104,959
支	払	負	担	金	990,180	1,192,080	△ 201,900
支	払	補	助	金	6,000,000	6,000,001	△ 1
支	払	寄	附	金	1,093,324	143,000	950,324
外		注		費	2,061,912	2,226,960	△ 165,048
支	払	手	数	料	9,748,776	8,876,386	872,390
交		際		費	37,714	87,583	△ 49,869
管	理	維	持	費	5,124,756	5,578,347	△ 453,591
新	聞	図	書	費	959,342	1,087,106	△ 127,764
貸	倒	引	当	金	240,000	210,000	30,000
支	払	利		息	873,519	1,511,593	△ 638,074
商	品	廃	棄	損	1,994,289	1,357,729	636,560
雑		損		失	9,495	2,100	7,395
管		理		費	37,828,861	38,154,389	△ 325,528
役	員	報		酬	1,756,204	1,724,600	31,604
給	料	手		当	6,963,360	7,559,383	△ 596,023
退	職	給	付	費	327,506	388,438	△ 60,932
法	定	福	利	費	1,174,707	1,445,690	△ 270,983
福	利	厚	生	費	75,538	36,737	38,801

科 目				当年度	前年度	増 減
会 議 費				974,864	1,016,669	△ 41,805
旅 費	交 通 費			4,413,272	3,988,436	424,836
通 信 運 搬 費				871,107	711,083	160,024
減 価 償 却 費				1,066,068	994,702	71,366
消 耗 品 費				1,079,330	391,161	688,169
修 繕 費				66,739	288,564	△ 221,825
研 修 費				4,950	0	4,950
光 熱 水 料 費				647,335	682,694	△ 35,359
賃 借 料				321,377	280,822	40,555
保 険 料				177,447	179,606	△ 2,159
租 税 公 課				426,349	468,437	△ 42,088
支 払 負 担 金				14,776,200	15,640,654	△ 864,454
支 払 寄 附 金				20,000	33,000	△ 13,000
支 払 手 数 料				1,318,133	1,363,190	△ 45,057
交 際 費				726,572	558,904	167,668
管 理 維 持 費				156,178	183,701	△ 27,523
新 聞 図 書 費				359,595	0	359,595
支 払 利 息				125,930	217,918	△ 91,988
雑 損 失				100	0	100
経常費用計				1,998,159,136	1,862,928,962	135,230,174
評価損益等調整前当期経常増減額				44,695,020	34,929,177	9,765,843
評価損益等計				0	0	0
当期経常増減額				44,695,020	34,929,177	9,765,843
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計				0	0	0
(2) 経常外費用						
固 定 資 産 除 却 損				1	2	△ 1
什 器 備 品 除 却 損				1	1	0
建 物 付 属 設 備 除 却 損				0	1	△ 1
経常外費用計				1	2	△ 1
当 期 経 常 外 増 減 額				△ 1	△ 2	1
税引前当期一般正味財産増減額				44,695,019	34,929,175	9,765,844
法 人 税 等				10,214,500	7,012,800	3,201,700
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額				34,480,519	27,916,375	6,564,144
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高				741,229,229	713,312,854	27,916,375
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高				775,709,748	741,229,229	34,480,519
II 指定正味財産増減の部						
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額				△ 1,396,115	△ 1,618,993	222,878
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額				△ 1,396,115	△ 1,618,993	222,878
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額				△ 1,396,115	△ 1,618,993	222,878
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高				25,335,643	26,954,636	△ 1,618,993
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高				23,939,528	25,335,643	△ 1,396,115
III 正味財産期末残高				799,649,276	766,564,872	33,084,404

貸借対照表

令和2年3月31日現在

一般社団法人 沖縄県薬剤師会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現 金 預 金	292,144,202	312,583,774	△ 20,439,572
未 収 入 金	317,221,476	293,441,176	23,780,300
商 品	75,306,024	66,599,827	8,706,197
立 替 金	2,486,815	542,726	1,944,089
前 払 費 用	687,693	867,131	△ 179,438
仮 払 金	274,846	145,743	129,103
貸 倒 引 当 金	△ 3,310,000	△ 3,090,000	△ 220,000
流動資産合計	684,811,056	671,090,377	13,720,679
2. 固定資産			
(2)特定資産			
退 職 給 付 引 当 資 産	64,969,036	69,942,299	△ 4,973,263
九 山 積 立 預 金	11,360,796	11,360,700	96
法 務 対 策 積 立 預 金	5,002,626	5,002,584	42
会 館 修 繕 積 立 預 金	44,749,017	41,748,663	3,000,354
災 害 対 策 積 立 預 金	3,001,693	3,001,669	24
移 転 積 立 預 金	50,004,239	50,003,808	431
特定資産合計	179,087,407	181,059,723	△ 1,972,316
(3)その他固定資産			
建 物	132,508,155	137,646,615	△ 5,138,460
造 作 物	1,543,698	1,918,766	△ 375,068
建 物 付 属 設 備	7,938,837	10,167,854	△ 2,229,017
構 築 物 具	4,158,193	4,667,267	△ 509,074
車 両 運 搬 具	1,322,088	4	1,322,084
什 器 備 品	10,367,436	4,444,212	5,923,224
土 地	157,097,850	157,097,850	0
電 話 加 入 権	2,765,413	2,765,413	0
ソ フ ト ウ ェ ア	342,396	970,999	△ 628,603
敷 金	1,250,000	1,250,000	0
差 入 保 証 金	5,081,850	5,081,850	0
その他固定資産合計	324,375,916	326,010,830	△ 1,634,914
固定資産合計	503,463,323	507,070,553	△ 3,607,230
資産合計	1,188,274,379	1,178,160,930	10,113,449
II 負債の部			
1. 流動負債			
買 掛 金	203,493,730	212,252,427	△ 8,758,697
未 払 金	19,121,204	22,057,080	△ 2,935,876
前 受 金	280,000	270,000	10,000
預 り 金	4,011,808	3,301,473	710,335
賞 与 引 当 金	4,416,400	4,219,949	196,451
未 払 法 人 税 等	10,214,500	7,012,800	3,201,700
流動負債合計	241,537,642	249,113,729	△ 7,576,087

科 目	当年度	前年度	増 減
2. 固定負債			
長 期 借 入 金	89,211,000	99,207,000	△ 9,996,000
退 職 給 付 引 当 金	57,876,461	63,275,329	△ 5,398,868
固定負債合計	147,087,461	162,482,329	△ 15,394,868
負債合計	388,625,103	411,596,058	△ 22,970,955
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
地 方 公 共 団 体 補 助 金	17,096,826	18,227,734	△ 1,130,908
寄 付 金	6,842,702	7,107,909	△ 265,207
指定正味財産合計	23,939,528	25,335,643	△ 1,396,115
2. 一般正味財産	775,709,748	741,229,229	34,480,519
(うち特定資産への充当額)	114,118,371	111,117,424	3,000,947
正味財産合計	799,649,276	766,564,872	33,084,404
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	1,188,274,379	1,178,160,930	10,113,449

会 報 原 稿 募 集 の ご 案 内

広 報 委 員 会

おきなわ薬剤師会報は皆様の会報です。
広報委員会では、会員の皆様からの原稿や作品を多方面にわたり募集致します。活発な御投稿をお待ち致しておりますので、是非、御協力下さいますようお願い致します。

【会報表紙及びカット写真】

写真にタイトルを付けて奮ってご応募願います。写真の採否、掲載月については広報委員会に一任頂きますのでご了承下さい。表紙写真はカラー、カットについては白黒印刷となります。

【会員からの意見箱】

皆様の質問、意見、主張を掲載します（薬剤師会活動や社会に対する本音など何でも結構です）。日常業務の中での疑問、薬剤師会活動、賠償責任保険、医薬分業、一般薬販売等について質問を受け付けます。

- ・誌上匿名は可能です。
- ・回答者を指名されても結構です。

【寄稿コーナー】

勤務薬剤師としての立場から見られた日常業務、過去、現在の職場に対する長短所・要望等。若い先生方からの御意見、御投稿をお待ちしております。

同時にベテランの先生方からの店舗経営に関する事、開業顛末記等、今後の進路を決める若い先生方へのアドバイス等についても募集します。

【会員作品・趣味のコーナー】

会員からの作品・趣味等を随時募集しております（手記、随筆、紀行文、詩、短歌、俳句、川柳、写真、絵画、毛筆等の作品、スポーツ同好会や趣味の集い等の紹介や活動状況報告など何でも歓迎します）。



☆原稿送付先（会報に関する問い合わせ）

沖縄県薬剤師会事務局 大城まで 〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川 218-10
TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

健康サポート推進

薬剤師の臨床判断に基づく 要指導医薬品・一般用医薬品の適切な販売等に関する研修会

日時：令和2年2月23日（日）10:00～13:00

会場：沖縄県薬剤師会館ホール

研修内容は、現在の第1類医薬品販売・要指導医薬品販売が適切に行われているか覆面調査による実態報告。また、販売時に必要な書面での説明、確認事項などが行われていないケースが見受けられる点など指摘事項がありました。それにより、再度販売時の内容を確認するよう指摘されています。

後半は、薬物依存・若年者の薬物乱用などが挙げられました。特にドラッグストアなどで簡単に入手できる依存性のある医薬品の問題、販売方法についての説明がなされました。若年者（10代）の自殺時に用いる方法の一つとして自宅にある一般用医薬品を用いた自殺企図も挙げられ衝撃を受けました。薬の専門家として販売後の薬の保管方法、不要な規格での販売についても注意を払い、販売時に説明をする責任があることも感じました。

その他には、副作用について、特に重篤な副作用が列挙され販売時にきちんと説明すること、副作用発現・副作用症状などの説明不足によって娘さんを亡くされた母親の言葉には感慨深いものがあります。一般用医薬品を販売する際の薬剤師・薬の専門家としての知識やコミュニケーション能力を問われているように感じました。

この後、DVDを用いたグループディスカッションを行いました。DVD中で演じられた来局者と薬剤師のわずか数分間の会話の中からSOAP方式をもとに状態を書き出し、その後B研修で行ったLQTSFAをもとにトリアージを行い、その結果を基にこの来局者に相応しい一般用医薬品を選定していきます。その際に来局者の年齢・仕事・生活環境・予測される基礎疾患などをイメージ。来局者の想定が50代男性でしたので、前立腺の薬は？血圧は？等も想定しなければいけない場

健康サポート推進委員会委員
盛本 直也



面もありました。また、風邪症状ではあるがインフルエンザなどの可能性も考慮しつつ、選択項目の中で使用できない薬効群を選び出し、その理由を記載。服用できる薬効群を選び出し、その理由を選択し販売するという流れでした。

参加された先生方の中には、一般用医薬品の販売経験が無いような方もおられたこと、選択肢も少なかったこともあり、かなりハードルが高かったのではないのでしょうか。そのような中でも、グループディスカッションにて意見交換をしながらお薬を選ばれていました。選んだお薬は同じものでしたが、他のグループが選ばなかった薬の中でも、考え方やリスクを考えながらあえて選んだグループもありました。薬の選定は複雑で困難を極めたと思います。また、リスク優先で選ぶのか、リスクを来局者に説明したうえで選択するのかによっても選ぶ薬の内容が異なりました。

前半にお伝えしたようにリスク管理はとても大切なことでもあります。その反面、来局者は少しでも早く良くなりたい、改善してほしいという気持ちで来られますので、今後、調剤薬局にて一般用医薬品を販売する際に薬剤師の責任というものがさらに重くのしかかってくると感じます。しかし、適切な薬の選択、適切な説明、適切なリスク管理ができ、販売ができたならば、薬剤師の職能が認められ、信頼されると思います。かかりつけ薬剤師・健康サポート薬局として、今後ますます薬剤師の必要性が高まり求められると感じますので、今回受講できなかった先生方もぜひ一度は参加していただければと思います。

実務実習

令和元年度第Ⅲ期薬学生実務実習報告

薬学生実務実習受入委員会
委員長 佐藤 雅美



実務実習第Ⅲ期は、2大学（福岡大学・神戸学院大学）から3名の学生の受入を行いました。受入薬局は2薬局（たいせい堂薬局、すこやか薬局松島店）で、期間は8月26日～11月10日でした。

I期・Ⅱ期の実習後にも報告したとおり、新コアカリキュラム（以下、新コア）による実務実習が本年度からスタートしました。新コアの中では、これまでの医療人としての心構えや調剤業務、リスクマネジメント、コミュニケーション能力は基本としながら、

○安全で有効な薬物療法の提案とそれを実施・評価できる能力の修得

○チーム医療・地域医療への「参画」能力の修得

に力点が置かれた設計になっています。そのため、学生は実習の早い時期から患者と接

し、患者の状態や薬剤の特徴に基づき適切な処方提案ができることを目標にします。また、チーム医療や地域の保健・医療・福祉への参画に関わる事を求められます。指導薬剤師の先生方には、新コアの特徴をよく理解して頂き変化に即した実習をして頂きました。

学生の感想文で、患者と多く接したことや在宅への同行、地域ケア会議の見学、健康サポート薬局というワード等が出て来ることで、その事を確認することができます。学生達の生き生きとした実習の様子をご一読頂ければと思います。

以下に、実習生の感想文と実習薬局、実習協力機関を掲載いたします。

紙面をもって御礼に変えさせていただきます。ありがとうございました。

実習薬局（2薬局）

○たいせい堂薬局 ○すこやか薬局松島店

協力施設・委員会・団体

○ぼたん薬局 ○（株）スズケン沖縄 ○薬正堂（すこやか薬局グループ）
○会営薬局医療センター前 ○ドラッグイレブン薬局 新都心おもろまち店
○学校薬剤師部会 ○学校薬剤師の先生方

令和元年度第Ⅲ期実務実習薬学生からの体験記・感想

神戸学院大学 5年 譜久原 朝也

(たいせい堂薬局 首里店 実習 指導薬剤師 大塚 成一郎)

まず始めに、忙しい中一つ一つ丁寧に教えて頂いた、たいせい堂薬局の皆さんや、わざわざ時間を割いて指導して頂いた外部実習の先生方に心から感謝を申し上げます。

実習が始まるまでは緊張や不安がありましたが、いざ始まるとあっという間に感じてしまうほど充実した11週間でした。

調剤では、散剤、水剤、軟膏など基本的なものから複雑なものまで幅広い種類の処方を体験させて頂きました。特に、たいせい堂薬局は施設の処方せんも多く、一包化や粉碎などの作業や薬の種類が多い処方を学ばせて頂きました。初めての投薬では、事前に話し方や患者さんからの質問に対する想定問答を指導してもらい、実際に投薬をする中でとても役立ちました。また、多く投薬をさせて頂くことで自信が持て、何より実際の患者さんと話すことにより、多くの事を学ぶことができました。

在宅も同行させて頂き、服薬状況の確認や

服薬カレンダーのセットを行いました。中でも1番印象に残っているのが地域包括ケア会議を見学させて頂いた事です。1人の患者さんに対して、薬剤師以外に医者やケアマネジャー、栄養士など色々な人が関わり、支えていく会議にはとても感銘を受けました。私も将来、この会議に参加できる薬剤師になれるよう努めようと思いました。その他にも、疑義照会や麻薬、毒物・劇物の管理、在庫管理など薬局で必要なことを忙しい合間を縫って教えて頂きました。

外部実習では、漢方や学校薬剤師、OTC実習や薬局製剤など貴重な体験をさせて頂き、多くの事を学びました。

この3期の実習を通して、様々な事を学び、経験させて頂きました。この経験を活かして次に繋げることが重要だと思いますので、次の4期の病院や今後においても繋げられるよう頑張りたいと思います。

福岡大学 5年

(すこやか薬局 松島店 実習

匹田 麻友

指導薬剤師 古堅 直也)

私は実習が始まるまで、薬局は処方薬を渡す場所というイメージしかなかったのですが、11週間の薬局実習で現場に立ち、薬剤師と関わることで、薬局、薬剤師の職務についてイメージが大きく変わりました。

お世話になった、すこやか薬局松島店は健康サポート薬局の認定を受けています。OTC医薬品や介護用品、健康食品なども置いており、ただ陳列しているだけではなく、患者さんに分かりやすいように工夫して商品のポップを貼っており、薬剤師や登録販売者のもと、患者さんの症状に合った商品を購入できるようになっていました。また、血圧や血糖値などの検査も気軽に受けることができました。そして、薬剤師が患者さんから薬についての不安や生活習慣、健康のことなどの相談を受け、薬の専門知識を用いてアドバイスし、受診を提案するなどの健康面をサポートしていました。

セルフメディケーションが推奨されているなか、OTC医薬品を購入する際に、患者さん自身で薬の選択をするのは容易ではないと思

いますし、服用薬がある場合には飲み合わせなども薬剤師に確認してもらえるため、患者さんにとってはすごく良い環境であると感じました。

漢方実習でお世話になった『ぼたん薬局』では、漢方に詳しい薬剤師が患者さんの悩みや気になる症状を詳しく聞き取り、症状や体質に合った漢方薬や健康食品などを提案していました。

薬の選択や患者さんにアドバイスするには、正確で豊富な知識が必要であり、OTC医薬品販売の実習で患者さんの症状に合ったOTC医薬品を選ぶという課題では、まだまだ知識の浅い私には少々難題でした。

以上より、実習を通して、薬局薬剤師の職務について詳しく知ることができ、患者さんのために何ができるのかを考え、患者さんに寄り添った医療が行われているのだと実感しました。この先、かかりつけ薬剤師も必要とされてくると思うので、日々勉強に励み、経験を積み、患者さんに信頼される薬剤師を目指していきたいです。

その他会務報告 沖縄戦殉職医療人之碑へ慰霊

令和2年6月23日（火）慰霊の日〔ひめゆりの塔構内〕



沖縄県内各地で開催される各慰霊碑への参列には、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う感染防止対策のため、参列の自粛が呼びかけられ、大幅に縮小した異例の開催となった。

例年、梅雨明けして晴天となる慰霊の日だが、今年は朝から大雨となった。本会の沖縄戦殉職医療人之碑への慰霊は、例年通り、合同参拝時間を午前10時30分としていたため、悪天候を心配したが、現地に着いた時には嘘のように晴れ上がった。

沖縄戦殉職医療人之碑には、毎年、本会と沖縄県医師会、沖縄県歯科医師会の供花が添

えられている。本会会員の長田紀昭氏は、御尊父の長田紀助氏（本会第2代会長）が合祀されていることから、毎年、親族を伴い参拝されている。しかし、体調不良のため参列できなかったが、娘の長田久美子氏が参列された。本会からは、亀谷浩昌会長、神村武之相談役、吉田洋史理事が、参列した。また、同時時間帯に参拝に来られた沖縄県医師会の安里哲好会長とも参列することができた。

本会の沖縄戦殉職医療人への慰霊は、毎年、午前10時30分に行っており、ぜひ、ご参拝いただきたい。（文：事務局 大城 喜仁）

<沖縄戦殉職医療人之碑>

沖縄戦殉職医療人之碑は、昭和23年10月28日に沖縄医療団により建立され、ひめゆりの塔と並んで建てられている。

沖縄戦で軍に協力し、住民の衛生、保健、治療に活動し、各地で戦死した医師、歯科医師、薬剤師、看護婦等、約50余名を合祀している。戦時体制となった時、住民の生命を預かる医師の大半は日本本土へ疎開したが、自分たちの郷土は自分たちの手で守り抜こうと覚悟を決めた医師達は、郷土に踏み止まって住民の治療、衛生に努力した。戦局は不利となり、日を追って増加する傷病者の治療、看護に疲れて倒れる者、さらに、敵陣に斬り込み、自決する者等、実に仁術を天命として尽くし、最後まで闘って戦没した。

薬剤師は、県内・県外合わせて10人近くになると思われる。その内の1人、本会第2代会長の長田紀助氏（会員の故久場トヨ氏、長田紀昭氏の御尊父）は、厚生大臣任命で、佐官待遇の軍属として南部戦線に向かわれ、玉城村（現南城市）字糸数付近で戦没された。喜瀬乗垣氏（キセ薬局・故喜瀬乗惟先生の御令兄）は中国大陸の山野で没された。

地区だより

一般社団法人那覇地区薬剤師会 第7回通常総会

日時：令和2年5月23日（土）19：30～20：15

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

令和2年5月23日（土）19時半より沖縄県薬剤師会館において一般社団法人那覇地区薬剤師会第7回通常総会が開催された。今回の総会は、新型コロナウイルス感染症防止のため、受け付けに消毒液・マスクを設置し、座席の間隔を広げての開催となった。出席者は、例年の半数以下の17名だったが、委任状288名を合計し305名の出席となり、定款に定める定足数に達しているため総会が成立した。司会は那覇北支部の宮本直樹先生が務め、金城雄一副会長の開会の辞で総会が始まった。

冒頭の会長挨拶では吉田洋史会長より「会長職を1年務めてきて、事務職員の業務が多忙であることを感じた。業務負担軽減のため、今年度の予算に正職員1名増員の人件費を組み込んでいる。また、支部会議で検討してきた個人会費徴収については、新型コロナウイルス感染症の影響により総会の参加者が少ない中で、十分な審議・質問が受けられないことから、今回は個人会費徴収案を見送り、次年度検討していきたい」と述べた。

議事は、那覇東支部の西川裕先生が議長に選出され進められた。最初に報告第1号「令和元年度会務・事業経過報告」を金城雄一副会長より資料に沿って説明が行われ、続けて報告第2号「令和元年度監査報告」を大城博

次監事より令和元年度の会計及び事業執行状況について、その内容が適正かつ妥当なものであったことが報告された。

次に議案第1号「令和元年度決算承認について」を、盛本直也副会長より説明が行われ、赤字決算となったが、役員報酬等の支出が減少したため、赤字幅が予算より大幅に縮小されたことが報告された。議長より議案第1号について賛否を諮ったところ意義なく可決された。

次に報告第3号「令和2年度事業計画について」を吉田洋史会長より説明が行われ、前年度の事業計画を基本に「病院薬局との人材交流」「薬と健康の週間への参加」「薬剤師向け広報活動」「FAX一斉同報からメール配信への切り替え」の4項目が新たに追加され取り組んでいくことが報告された。

次に報告第4号「令和2年度予算について」を盛本直也副会長より説明が行われ、人件費、保守料等の増額を見込んだ予算となっていることが報告された。最後に、盛本直也副会長の閉会の辞で総会は無事終了した。

総会終了は例年特別公演会を開催しているが、今回は新型コロナウイルス感染症拡大の懸念から残念ながら中止となった。

（報告：那覇地区薬剤師会事務局）



県民の皆様へ

薬剤師会をご活用ください！

やくたっ
薬達ちゃーより

あまくま^{やくだ}薬立つ情報

➡ 健康とおくすり相談会

健康とおくすり相談会は、県内各地（離島も含む）の公共の施設や広場、デパート、ショッピングセンターにおいて、毎月開催！薬剤師がアドバイザーとして、直接、お薬や健康について無料で相談に応じています。また、相談会場では体成分測定機や動脈硬化度チェックなどの機器も備え、皆様の健康維持に役立つように取り組んでいます。（会場によっては、測定機器の内容が変わることがあります。）

開催日時や会場、相談会内容などについて、お気軽にお問い合わせください。

電 話 098-963-8930

➡ おくすり相談室

県民の皆様からのお薬に関する疑問、質問にお答えしています。お気軽にご相談ください。（薬局・薬店で販売されているお薬や調剤されたお薬についてのご相談など）

電 話 098-963-8935

➡ 試験検査センター

試験検査センターでは、薬事法施行規則第12条第1項に関する試験検査機関の登録機関として、医薬品等の検査を行っています。

薬局で調剤されたお薬について検査を行いたい時にご相談をお受けします。（検査の際は、調剤した薬局やその他の機関への協力を仰ぐことがあります。）

なお、当センター施設設備では対応が難しい場合がありますのでご了承ください。

電 話 098-963-8934

e-mail siken@okiyaku.or.jp

➡ 薬局情報・その他

沖縄県薬剤師会から県内の「薬局マップ」が得られます。禁煙サポート薬局や訪問服薬指導実施（在宅支援）薬局などの薬局情報もお知らせします。ぜひ、あなたの“かかりつけ薬局”をおもちになってください。（詳細は沖縄県薬剤師会ホームページを閲覧ください。）

沖縄県薬剤師会ホームページでは、「沖縄の薬草」や「サプリメント」などの情報も随時アップ
＜ホームページアドレス <http://www.okiyaku.or.jp>>

薬事情報おきなわ No.260

2020年5-6-7月号 : Vol.35 No.2

薬事情報センター TEL : 098-963-8931

FAX : 098-963-8937

薬価基準追補収載品目

●新医薬品 2020年4月22日付

区分	販売名 ()内は識別コードまたは製剤表示	規格単位	薬価	会社名	成分名・適応症・効能効果
内 用 薬	フィコンパ細粒1%	1%1g	1,068.90	エーザイ	ペランパネル水和物: 抗てんかん剤(○てんかん患者の部分発作(二次性全般化発作を含む) ○他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の強直間代発作に対する抗てんかん薬との併用療法)(新効能、新用量、剤形追加)
	デエビゴ錠2.5mg (LEM/2.5)	2.5mg1錠	57.30	エーザイ	レンボレキサント: 不眠症治療薬(不眠症)(新有効成分)
	デエビゴ錠5mg (LEM/5)	5mg1錠	90.80		
	デエビゴ錠10mg (LEM/10)	10mg1錠	136.20		
	ユリス錠0.5mg (FY321/0.5)	0.5mg1錠	30.00	富士薬品	ドチヌラド: 選択的尿酸再吸収阻害薬-高尿酸血症治療剤-(痛風、高尿酸血症)(新有効成分)
	ユリス錠1mg (FY322/1)	1mg1錠	54.80		
	ユリス錠2mg (FY323/2)	2mg1錠	100.20		
	リンパノック錠7.5mg (@7.5)	7.5mg1錠	2,550.90	アッヴィ	ウパダシチニブ水和物: ヤヌスキナーゼ(JAK)阻害剤(既存治療で効果不十分な関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む))(新有効成分)
	リンパノック錠15mg (@15)	15mg1錠	4,972.80		
	ニューベコ錠300mg (300/BAYER)	300mg1錠	2,311.00	バイエル薬品	ダロラタミド: 前立腺癌治療剤(遠隔転移を有しない去勢抵抗性前立腺癌)(新有効成分)
注 射 薬	ノクサフィル錠100mg (100)	100mg1錠	3,109.10	MSD	ボサコナゾール: 深在性真菌症治療剤(○造血幹細胞移植患者又は好中球減少が予測される血液悪性腫瘍患者における深在性真菌症の予防 ○次の真菌症の治療(フサリウム症、ムーコル症、コクシジオイデス症、クロモブラストミコーシス、菌腫))(新有効成分)
	チラージンS静注液200μg	200μg1mL1管	20,211	あすか製薬	レボチロキシナトリウム水和物: 甲状腺ホルモン製剤(粘液性腫性昏睡 甲状腺機能低下症(ただし、レボチロキシナトリウム経口製剤による治療が適さない場合に限る))(新投与経路)
外 用	コレクチム軟膏0.5%	0.5%1g	139.70	日本たばこ産業	デルゴシチニブ: 外用ヤヌスキナーゼ(JAK)阻害剤(アトピー性皮膚炎)(新有効成分)

●新医薬品 2020年5月20日付

区分	販売名 ()内は識別コードまたは製剤表示	規格単位	薬価	会社名	成分名・適応症・効能効果
内 用 薬	ラツダ錠20mg (ラツダ20)	20mg1錠	178.70	大日本住友製薬	ルラシドン塩酸塩: 抗精神病薬/双極性障害のうつ症状治療薬(○統合失調症 ○双極性障害におけるうつ症状の改善)(新有効成分)
	ラツダ錠40mg (ラツダ40)	40mg1錠	328.90		
	ラツダ錠60mg (ラツダ60)	60mg1錠	469.90		
	ラツダ錠80mg (ラツダ80)	80mg1錠	493.40		

●新医薬品 2020年5月20日付

区分	販売名 ()内は識別コードまたは製剤表示	規格単位	薬価	会社名	成分名・適応症・効能効果
内 用 薬	メラトベル顆粒小児用0.2%	0.2%1g	207.80	ノーベル ファーマ	メラトニン :メラトニン受容体作動性入眠改善剤(小児期の神経発達症に伴う入眠困難の改善)(新有効成分)
	ロケルマ懸濁用散分包5g	5g1包	1,095.20	アストラゼネカ	ジルコニウムシクロケイ酸ナトリウム水和物 :高カリウム血症改善剤(高カリウム血症)(新有効成分)
	ロケルマ懸濁用散分包10g	10g1包	1,601.00		
	キャブピリン配合錠 (@375)	1錠	130.30	武田薬品工業	アスピリン/ボノブラザンフマル酸塩 :アスピリン/ボノブラザンフマル酸塩配合剤(次の疾患又は術後における血栓・血栓形成の抑制(胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の既往がある患者に限る)・狭心症(慢性安定狭心症、不安定狭心症)、心筋梗塞、虚血性脳血管障害(一過性脳虚血発作(TIA)、脳梗塞)・冠動脈バイパス術(CABG)あるいは経皮経管冠動脈形成術(PTCA)施行後)(新医療用配合剤)
	カボメティクス錠20mg (XL/20)	20mg1錠	8,007.60	武田薬品工業	カボザンチニブリンゴ酸塩 :抗悪性腫瘍剤/キナーゼ阻害剤(根治切除不能又は転移性の腎細胞癌)(新有効成分)
	カボメティクス錠60mg (XL/60)	60mg1錠	22,333.00		
	テボミトコ錠250mg (テボミトコ250)	250mg1錠	14,399.00	メルクバイオ ファーマ	テボチニブ塩酸塩水和物 :抗悪性腫瘍剤/チロシンキナーゼ阻害剤(MET遺伝子エクソン14スキッピング変異陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌)(新有効成分)
	ベレキシブル錠80mg (ono401)	80mg1錠	5,067.40	小野薬品工業	チラブルチニブ塩酸塩 :抗悪性腫瘍剤 プルトン型チロシンキナーゼ阻害剤(再発又は難治性の中枢神経系原発リンパ腫)(新有効成分)
	アネレム静注用50mg	50mg1瓶	2,218	ムンディファーマ	レミゾラムベシル酸塩 :全身麻酔剤(全身麻酔の導入及び維持)(新有効成分)
	ベオビュ硝子体内注射用キット 120mg/mL	6mg0.05mL1筒	142,784	ノバルティス ファーマ	ブロルシズマブ(遺伝子組換え) :眼科用VEGF阻害剤(ヒト化抗VEGFモノクローナル抗体一本鎖Fv断片)(中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性)(新有効成分)
注 射 薬	ビルテブゾ点滴静注250mg	250mg5mL1筒	91,136	日本新薬	ビルトラルセン :デュシェンヌ型筋ジストロフィー治療剤(エクソン53スキッピングにより治療可能なジストロフィン遺伝子の欠失が確認されているデュシェンヌ型筋ジストロフィー)(新有効成分)
	オゼンピック皮下注 0.25mgSD	0.25mg0.5mL1 キット	1,547	ノボ ノルディ スク ファーマ	セマグルチド(遺伝子組換え) :2型糖尿病治療剤 持続性GLP-1受容体作動薬(2型糖尿病)(新有効成分)
	オゼンピック皮下注 0.5mgSD	0.5mg0.5mL1 キット	3,094		
	オゼンピック皮下注 1.0mgSD	1mg0.5mL1キッ ト	6,188		
	ルムジェブ注カート	300単位1筒	1,175	日本イーライリ ラー	インスリン リスプロ(遺伝子組換え) :抗糖尿病剤(インスリン療法が適応となる糖尿病)(新剤形)
	ルムジェブ注ミリオペン	300単位1キット	1,400		
	ルムジェブ注ミリオペンHD	300単位1キット	1,400		
	ルムジェブ注100単位/mL	100単位1mLバ イアル	277		
	ソリクア配合注ソロスター	1キット	6,497	サノフィ	インスリン グラルギン(遺伝子組換え)/リキシセナチド :持効型溶解インスリンアナログ製剤/GLP-1受容体作動薬(インスリン療法が適応となる2型糖尿病)(新医療用配合剤)
	オニバイド点滴静注43mg	43mg10mL1瓶	128,131	日本セルヴィ エ	イリノテカン塩酸塩水和物 :抗悪性腫瘍剤(がん化学療法後に増悪した治療切除不能な肺癌)(新効能、新剤形)
	エンハーツ点滴静注用100mg	100mg1瓶	165,074	第一三共	トラスツズマブ デルクステカン(遺伝子組換え) :抗悪性腫瘍剤-抗HER2抗体トポイソメラーゼⅠ阻害剤複合体(化学療法歴のあるHER2陽性の手術不能又は再発乳癌(標準的な治療が困難な場合に限る))(新有効成分)

●新医薬品 2020年5月20日付

区分	販売名 ()内は識別コードまたは製剤表示	規格単位	薬価	会社名	成分名・適応症・効能効果
注射薬	ステボロニン点滴静注バッグ 9000mg/300mL	9,000mg300mL 1袋	444,215	ステラファーマ	ボロファラン :抗悪性腫瘍剤(切除不能な局所進行又は局所再発の頭頸部癌)(新有効成分)
	ボンベンディ静注用1300	1300国際単位1 瓶(溶解液付)	146,288	シャイアー・ ジャパン	ボニコグ アルファ(遺伝子組換え) :遺伝子組換えヒトvon Willebrand因子製剤(von Willebrand病患者における出血傾向の抑制)(新有効成分)
外用薬	アイラミド配合懸濁性点眼液	1mL	492.20	千寿製薬	プリモニジン酒石酸塩・プリンプラミド : α_2 作動薬/炭酸脱水酵素阻害薬配合剤 緑内障・高眼圧症治療剤(次の疾患で、他の緑内障治療薬が効果不十分な場合:緑内障、高眼圧症)(新医療用配合剤)
	ゾルゲンスマ点滴静注	1患者当たり	167,077,222	ノバルティス ファーマ	オナセムノゲン アベパールボベク :ウイルススペクター(脊髄性筋萎縮症(臨床所見は発現していないが、遺伝子検査により脊髄性筋萎縮症の発症が予測されるものも含む)ただし、抗AAV9抗体が陰性の患者に限る)(新再生医療等製品)

●報告品目・新キット製品 2020年5月27日付

区分	販売名 ()内は識別コードまたは製剤表示	規格単位	薬価	会社名	成分名・適応症・効能効果
内用薬	ディナゲスト錠0.5mg (ディナゲスト 0.5)	0.5mg1錠	166.50	持田製薬	ジェノゲスト :月経困難治療剤(月経困難症)(新効能、新用量・再生審査期間中の規格追加)
	イブランス錠25mg (@/PBC25)	25mg1錠	5,679.70	ファイザー	パルボシクリブ :抗悪性腫瘍剤(CDK 4/6阻害剤)(ホルモン受容体陽性かつHER2陰性の手術不能又は再発乳癌)(新効能、新剤形)
	イブランス錠125mg (@/PBC125)	125mg1錠	22,978.10		
注射薬	ビムパット点滴静注100mg	100mg10mL1瓶	2,459	ユーシービー ジャパン	ラコサミド :抗てんかん剤(一時的に経口投与ができない患者における、次の治療に対するラコサミド経口製剤の代替療法 てんかん患者の部分発作(二次性全般化発作を含む))(再審査期間中の規格追加)
	アイリーア硝子体内注射用キット 40mg/mL	2mg0.05mL1筒	137,292	バイエル薬品	アフリベルセプト(遺伝子組換え) :眼科用VEGF阻害剤(○中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性 ○網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫 ○病的近視における脈絡膜新生血管 ○糖尿病黄斑浮腫 ○血管新生緑内障)(新キット製品)
	ヌーカラ皮下注100mgシリンジ	100mg1mL1筒	179,269	グラクソ・スミス クライン	メボリズマブ(遺伝子組換え) :ヒト化抗IL-5モノクローナル抗体(○気管支喘息(既存治療によっても喘息症状をコントロールできない難治の患者に限る) ○既存治療で効果不十分な好酸球性多発血管炎性肉芽腫症)(新キット製品)
	ヌーカラ皮下注100mgペン	100mg1mL1キット	179,269		
	インスリン リスプロBS注カート HU「サノフィ」	300単位1筒	586	サノフィ	インスリン リスプロ(遺伝子組換え)[インスリン リスプロ後続1] :抗糖尿病剤(インスリン療法が適応となる糖尿病)(バイオ後続品)
	インスリン リスプロBS注ソロスター HU「サノフィ」	300単位1キット	1,258		
	インスリン リスプロBS注100単位/mL HU「サノフィ」	100単位1mLバイアル	194		
	治療用ダニアレルゲンエキスパ下注 「トリイ」1,000JAU/mL	2mL1瓶	4,301	鳥居薬品	なし(コナヒョウヒダニエキスを及びヤケヒョウヒダニエキスを含有する水性注射剤) :ダニアレルギーの減感作療法(アレルゲン免疫療法)薬(ダニ抗原による次のアレルギー性疾患に対する減感作療法 アレルギー性鼻炎、気管支喘息)(再審査期間中の規格追加)

* 識別記号の「@」は製薬会社のマークの代用としています。

●後発医薬品 2020年6月19日付

後発医薬品収載は65社73成分130規格415品目。初の後発医薬品収載は、アルツハイマー型認知症治療薬「メマンチン塩酸塩」(先発品:メマリ)、抗アレルギー薬「レボセチリジン塩酸塩」(先発品:ザイザル)、アルツハイマー治療薬「ガラタミン臭化物」(先発品:レミニール)、過活動膀胱治療薬「イミダフェナシン」(先発品:ウリス/ステープラ)、前立腺肥大症に伴う排尿障害改善薬「ザルティア」(タダラフィル)など18成分292品目。オーソライズドジェネリック(AG)の収載は、「セレコキシブ」、「エゼチミブ」、「デュタステリド」、「メマンチン塩酸塩」、「レボセチリジン塩酸塩」、「イミダフェナシン」など6成分10規格13品目。



Medical News

●後発品切り替えに報奨金 - 窓口負担の2割以内で可能 経済産業省 (薬事日報6月3日)

経済産業省は、患者や医療機関が医療用医薬品を後発品に切り替えることを促すため、患者が病院の窓口で支払う医療費の20%以内であれば、保険者向けのサービスとして金銭や商品券、ポイント等のインセンティブを患者に提供する事は認められるとの見解を示した。

●ラミクタール最大16倍投与で患者死亡～東京地裁判決 (薬事日報6月5日)

東京女子医科大学病院に入院していた女性(当時43歳)が2014年に用法用量の16倍の抗てんかん薬ラミクタール(一般名ラモトリギン)を投与され、中毒性表皮壊死症(TEN)で死亡したとして、遺族が損害賠償を求めていた訴訟の判決が4日東京地裁であり、同大学と医師2人に計1548万円の支払いを命じた。

●コロナ拡大期の医療機関・薬局の経営状態が明らかに (薬事ニュース6月12日)

日本医師会、日本薬剤師会は本年2～4月における医療機関・薬局における医薬品供給状況などをまとめた。日本医師会は病院、診療所等合計614施設にアンケートをとり、外出自粛期間で経営状況が著しく悪化した施設と、コロナ対応に全力を尽くして疲弊した医療機関との二極化していることを明らかにしている。また、日本薬剤師会は日薬役員店舗における52薬局の「処方箋受付回数」「調剤報酬・技術料・薬剤費・特定保健医療材料料」等を調べ、コロナによる長期処方増加による在庫数の増加、キャッシュフローの悪化で夏前には薬局を閉める事態が続発してもおかしくないと窮状を説明、貸付でなく支援策が重要との考えを示している。

●薬局の慰労金支給対象外 - 厚労相「高リスク患者と接触せず」 (薬事日報6月12日)

加藤厚労相は9日の衆議院予算委員会で、新型コロナウイルスの追加対策を盛り込んだ今年度第2次補正予算案のうち、薬局が感染リスクの高い医療者等に対する慰労金の支給対象外となった理由について「必ずしも、感染すると重症化のリスクが高い患者と触れ合う状況にはない」と述べ、定期的な清掃や消毒の実施といった感染防止にかかる費用の補助は医療機関と同様に行う考えも強調した。

●新型コロナワクチンの早期接種へ「加速平行プラン」 (薬事ニュース6月12日)

厚生労働省は、新型コロナウイルス感染症ワクチンの早期実用化に向けた「加速平行プラン」を示した。ワクチンの研究から薬事承認、生産体制整備までの全課程を加速化し、接種開始までの期間を大幅に短縮させる。加藤厚労相、「接種開始時期は来年前半を目標に」。

●処方箋枚数、約9割が減少～新型コロナ、薬局業務に影響～ NPhA (薬事日報6月16日)

日本保険薬局協会(NPhA)は11日、会員薬局の管理薬剤師を対象に行った新型コロナウイルス感染症に関する調査結果を公表した。4581件の有効回答件数のうち、月間処方箋受付枚数が前年同時期と比べ「減少」したとの回答は86.9%と9割近くに上った。

●ロート製薬、細胞製剤8月に治験開始 重症コロナ患者に投与へ (薬事日報6月22日)

ロート製薬は23日、新型コロナウイルス感染症の重症肺炎患者を対象にした細胞製剤「ADR-001」の治験を始めると発表。国内初。間葉系幹細胞を患者に投与して、免疫反応の暴走で肺が傷つけられることを抑える。来年12月まで治験を実施、安全性評価を中心に有効性も確認する。

●禁煙治療アプリの承認了承-国内初、行動変容を促す (薬事日報6月22日)

薬事・食品衛生審議会医療機器・体外診断薬部会は19日、禁煙治療補助システム「キューアップSCニコチン依存症治療アプリおよびC0チェッカー」の製造販売承認を了承した。医療機器分野で患者の行動変容を促すアプリの登場は初めて。患者が呼吸をチェッカーに吹き込むことで測定結果が表示され、医師が患者情報を把握した上でアドバイスする。

●アンジェス～コロナDNAワクチン、国内初の治験スタート (薬事日報7月3日)

大阪大学発バイオベンチャーのアンジェスは6月30日、同大と共同開発した新型コロナウイルス感染症向けのDNAワクチンの治験を開始したと発表した。国内では新型コロナウイルスワクチンの治験は国内初となる。

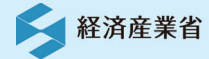
●ワクチン優先順を検討へ 政府、医療従事者ら先行 (共同通信7月10日)

菅義偉官房長官は10日、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の優先順位を巡り、新設された政府の分科会で在り方を議論すると明らかにした。政府は医療従事者や、重症化のリスクが高い高齢者らを先行させる意向。

●アビガン国内RCTの最終結果発表、無症状・軽症COVID-19患者でウイルス消失効果1.4倍 (Medical Tribune 7月10日)

藤田医科大学は7月10日オンライン記者会見で、ファビピラビル(商品名アビガン)の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する有効性を検証した非盲検ランダム化比較試験(RCT)の最終結果を発表。試験は無症状・軽症のCOVID-19患者89例を対象としたもので、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の累積消失率は、ファビピラビル投与群でハザード比(HR)1.4と高い傾向を示したが、有意差には達しなかった。研究責任医師の土井氏は、「ファビピラビルがCOVID-19に有効な可能性もあるが、この試験の結果からは有効とも有効でないとも結論できない」と述べ、主要評価項目で有意差が付かなかった理由として、「症例数の少なさ」を挙げた。

新型コロナウイルスに有効な消毒・除菌方法（一覧）



（独）製品評価技術基盤機構（N I T E）が実施した有効性評価の結果等を踏まえ、新型コロナウイルスに対して有効な消毒・除菌方法を紹介します。

従来から推奨してきた消毒方法

石けん・ハンドソープによる手洗い

手指

アルコール（60%以上95%以下）

手指
物品

熱水

物品

塩素系漂白剤等

（次亜塩素酸ナトリウム 0.05%以上）

物品

家庭用洗剤等

（界面活性剤・第4級アンモニウム塩）

物品

一部手指も

- ▶ 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム（0.1%）
- ▶ アルキルグリコシド（0.1%）
- ▶ アルキルアミンオキシド（0.05%）
- ▶ 塩化ベンザルコニウム（0.05%）
- ▶ 塩化ベンゼトニウム（0.05%）
- ▶ 塩化ジアルキルジメチルアンモニウム（0.01%）
- ▶ ポリオキシエチレンアルキルエーテル（0.2%）
- ▶ 純石けん分（脂肪酸カリウム）（0.24%）
- ▶ 純石けん分（脂肪酸ナトリウム）（0.22%）

次亜塩素酸水

拭き掃除に使うとき

- ▶ 有効塩素濃度80ppm（=0.008%）以上のもの

※ジクロロイソシアヌル酸ナトリウムを水に溶かしたものは100ppm以上
※元の汚れがひどい場合は200ppm以上が望ましい
※その他の製法によるものは、製法によらず、必要な有効塩素濃度は同じです。

流水で掛け流すとき

- ▶ 有効塩素濃度35ppm（=0.0035%）以上のもの

※ このほかにも、新型コロナウイルスに対して有効な消毒・除菌方法が存在する可能性があります。

※ 対象物と接触させて消毒する場合の効果は評価したものです。

※ 手指等への影響、空間噴霧の有効性・安全性は評価していません。

使用方法

・住宅・家具用洗剤は、製品に記載された使用方法に従ってそのまま使う。



・台洗剤は、100分の1に薄めて、（水500mlに小さじ1杯）きれいな布などに浸して拭き取る。



・有効な界面活性剤が含まれる「家庭用洗剤」の製品リストを公開しています。



使用方法

・汚れをあらかじめ落としておく。十分な量の次亜塩素酸水で消毒したいモノの表面をヒタヒタに濡らし、拭き取る。

使用方法

・汚れをあらかじめ落としておく。次亜塩素酸水の流水で、消毒したいモノに掛け流し、拭き取る。



今回の評価事業を通じて、あらたに有効性が確認された方法

薬事情報センターに寄せられた質問から

はい、薬事情報センターです。



薬事情報センターでは、会員の方々を対象に、医薬品に関するお問い合わせや、文献入手サービスなどに応じております。どうぞお気軽に御利用ください。

〔質問〕蟻虫やアタマジラミに感染した児童に対するプールの指導について（学薬）

〔回答〕蟻虫やアタマジラミ等の寄生虫感染では患部に強い痒みを伴うため、かきむしり、細菌の2次感染を起こすことがある。家族内感染や周囲への感染を防ぐためにも、発覚後は速やかに駆除することが大切である。保虫児童のプール入水については、最終的に学校の判断となるが、日本学校保健会は蟻虫に感染した児童へのプール入水を禁止する必要はないとしている。プールにおいて蟻虫卵が感染した児童のお尻から離れ、他の児童の口に入る確率は極めて低いと考えられており、保虫児童は水泳のある日の朝、肛門周囲をシャワーできれいに洗い流しておくだけで十分としている。また、アタマジラミについては、厚生省の統計でプールでの感染は極めて少ないとされている。ただ児童らは頭を近づけて抱きついたりするため、そうやってうつる可能性の方が多いと考えられている。プールの際は帽子の着用を義務づけ、更衣室でのくしやタオルの貸し借りはしない、ロッカーや籠は個別にするなどの指導を徹底し、更衣室などの掃除はこまめに行う事が重要である。最近、蟻虫やアタマジラミ感染によるいじめや差別などの方が問題となっている。

参考：日本寄生虫学会HP、豊島区池袋保健所の「アタマジラミ対応マニュアル」、日本学校保健会「学校における水泳プールの保健衛生管理」

〔質問〕蜂窩織炎に使用するアクリノールが発売中止のため、代用になるものはないか。（薬局）

〔回答〕アクリノールは低刺激で血清やタンパク質の存在下でも殺菌力が保たれるため、化膿局所の消毒に有効とされている。連鎖球菌や黄色ブドウ球菌などに対して、殺菌消毒作用を示すため蜂窩織炎などの治療にも使用されていたが、医療用製剤は2018年末ごろから各社販売終了となっている。メーカーは類似効能・効果品目としてオキシドール、複合ヨード・グリセリン、ベンザルコニウム塩化物液、ヨードチンキ等をあげている。同一成分としては指定医薬部外品の「0.2%アクリノール液」、「アクリノール液P」、一般用医薬品では「新リパガーゼA」（0.4%）等が現在も販売されている。

〔新型コロナウイルス関連〕

〔質問〕高濃度エタノールを溶かす場合は精製水でなくてはいけませんか？（薬局）

〔回答〕手術野、創傷面等以外の一一般的な手指・皮膚

の消毒に使用する場合は、精製水の代わりに水道水で薄めることでも差し支えない。

参考：高濃度エタノール製品の使用の手引き（令和2年4月22日版）

〔質問〕薬局で次亜塩素水を噴霧してきたが、効果はないのか（薬局）

〔回答〕一定濃度以上の「次亜塩素酸水」が新型コロナウイルスの量を減少させることが独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）にて確認されている。ただ、空気や環境の表面の除染方法として有効かつ安全な噴霧が科学的に証明された事実は確認されていないため、人がいる状況下での空間噴霧は推奨されないとしている。現時点において「空間噴霧用の消毒剤」として承認が得られた製品はありません。

〔質問〕新型コロナウイルスに対する手指の消毒とドアノブや机の消毒など消毒には、アルコール以外に何が使えますか？（薬局）

〔回答〕手指消毒については、石鹸やハンドソープを用いた丁寧な手洗いを行う。また、ドアノブや物品の消毒には、熱水（煮沸消毒）やハイターなどの市販の塩素系漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム）に加え、台所用洗剤や家庭用洗剤などに含まれる塩化ベンザルコニウム等一部の界面活性剤にも有効性が示されたため、経済産業省がホームページに製品一覧の最新情報を提供している。

〔質問〕アビガン（一般名：ファビピラビル）は一般の医者でも処方できるのか？（薬局）

〔回答〕アビガンは、もともと、一般的な抗インフルエンザウイルス薬が効かないような新型インフルエンザの流行に備えて、国が備蓄する場合に限って承認された抗ウイルス薬であり、一般には流通していない。RNAポリメラーゼを阻害し、ウイルスの複製を抑制する効果が期待されているが、副作用として催奇形性等が明らかになっており、妊娠の可能性のある方（妊娠をさせる可能性のある男性も含む）は服用できません。現在、多施設共同で臨床研究や治験を行い有効性や安全性の検証を進めている。観察研究に参加登録を行った医療機関において、医師の判断のもと、研究への参加に患者が同意した場合に使用することができる。

参考：経済産業省HP「よくあるお問い合わせ」、厚生労働省HP「新型コロナウイルスに関するQ&A」、「高濃度エタノール製品の使用の手引き」



沖縄県薬剤師会・消費者くすり相談窓口
「おくすり相談室」受付事例から
 消費者専用電話：098-963-8935

●医薬品一般●

[質問] 去年とびひでもらったゲンタマイシン軟膏をやけどに使ってもいいですか？（女性）

[回答] ゲンタマイシン軟膏は抗生物質を含む塗り薬です。皮膚の病気の原因菌を抑える効果があり、とびひ以外にもおできや赤ニキビ等色々な皮膚感染症の治療に用いられています。やけどへの使用は認められておりません。やけどの状態によっては傷跡が残る恐れもあるため、冷やすなどの応急処置をして早めに医療機関を受診してください。

[質問] ペピオゲル（一般名：過酸化ベンゾイルゲル）が合わず、クリンダマイシン1%を出してもらった。この薬も普通にニキビに使われる薬ですか？（女性）

[回答] クリンダマイシンゲルは化膿したニキビや炎症を起こしたニキビを治療するお薬です。安心してお使いください。

[質問] 带状疱疹でバラシクロビル錠を7日間もらった。飲み切って、再度带状疱疹になっても同じ薬を飲めるのか。（女性）

[回答] 带状疱疹は再発した場合、同じ薬または同様のウイルスの増殖を抑える薬が処方されます。50歳以上の方の罹患率が高く、ストレスや加齢、体が疲れているときなどに再発しやすいため、日頃から食生活や睡眠、疲れやストレス等の体調管理に気をつけることが大切です。

●安全性情報●

[質問] 2～3日咳と痰が続いていて、全身がだるい。コロナかなと思ったりするけど、今熱もないため受診できない。ジキニン顆粒を飲もうと思うが、アリナミンEXゴールドとの飲み合わせは大丈夫ですか。（女性）

[回答] 重複する成分はなく、飲み合わせについても問題ありません。用法用量を守って服用してください。

○ジキニン顆粒（成分）

アセトアミノフェン、ジヒドロコデインリン酸塩、dlメチルエフェドリン塩酸塩、クロルフェニラミンマレイン酸塩、無水カフェイン、甘草エキス

○アリナミンEXゴールド（成分）

フルスルチアミン、ピリドキサル酸エステル水和物、メコバラミン、コハク酸トコフェロール、ガンマーオリザノール、葉酸

[質問] デノタスチュアブル（一般名：沈降炭酸カルシウム、コレカルシフェロール、炭酸マグネシウム）を1日1回朝かみ砕いて飲んでいる。飲みあわせの悪い食べ物がありますか。歯の治療中ですが大丈夫ですか。（女性）

[回答] デノタスチュアブル配合錠は大量の牛乳と一緒に飲むと頭痛、吐き気などの副作用が出やすくなることが報告されています。大量の牛乳とは具体的には500mL程度とされています。また、このお薬自体は抜歯などの歯の治療による顎の骨への影響はありませんが、デノタスチュアブル配合錠と併用する骨粗しょう症のお薬には、あごの骨の壊死等の副作用が報告されている薬剤もありますので、その旨歯科医師にお伝えください。

[質問] 3週間前に4歳の子供（体重14Kg）にテオフィリンドライシロップが処方された。よくならないため3週間前には1日0.23gだったのが今回1日0.45gに増えた。2回飲ませた後から膝の痛みで歩けず、手も痛みと泣いてずりばいしている。薬のせいですか。（女性）
 ＊ずりばい：お腹を床につけて手やひじを使って前進・後退すること。

[回答] テオフィリンは同じ年齢でも個人差があり、同じ量でも人によっては効果が現れなかったり、副作用が出たりすることがあります。今の体重に対する薬の量は問題ありませんが、副作用には吐き気や頭痛等の他、四肢痛なども報告がありますので、早急に担当医にご相談ください。

●ドーピング●

[質問] ツロブテロールテープはドーピングにかかりますか。（男性）

[回答] ツロブテロールは内服、外用など投与経路に関わらずドーピング禁止物質です。ツロブテロール等のβ2作用薬に分類されるお薬は、交感神経興奮作用、蛋白同化作用による筋肉量の増加が期待されるため禁止となっています。どうしてもツロブテロールを使用しなければならない場合には、TUE申請が必要です。TUEは禁止物質・禁止方法を治療目的で使用したい競技者が申請し、認められたら使用できる手続きです。ただし、TUEが認められなかった場合に、その禁止物質・禁止方法の使用を続けることはアンチ・ドーピング規則違反になります。

今月の特集・論文

*薬事情報センターで購読している雑誌の中より文献情報を掲載しました。

【今月の特集】

- ◇エキスパートナース 35 巻 5 号
 - *高齢者ケア
- ◇エキスパートナース 35 巻 6 号
 - *新型コロナウイルス感染症
- ◇きょうの健康 5 月号
 - *脳の血管が破れる病気
- ◇きょうの健康 6 月号
 - *シニアの食事でフレイル予防
- ◇月刊薬事 61 巻 6 号
 - *いつでも出会う起因物質をはずさない！急性薬物中毒の臨床推論と治療薬
- ◇月刊薬事 61 巻 7 号
 - *小児疾患の薬物治療 ガイドライン総まとめ
- ◇月刊薬事 61 巻 8 号
 - *悩ましい局面で薬をどう使う？せん妄薬物療法のリスク・ベネフィット
- ◇産科と婦人科 86 巻 5 号
 - *妊娠糖尿病の理解を深めよう
- ◇産科と婦人科 86 巻 6 号
 - *婦人科がん臨床研究のトレンドを知る
- ◇総合診療 30 巻 5 号
 - *誌上 Journal Club 私を変えた激アツ論文 〈ビジュアルアブストラクト付き〉
- ◇総合診療 30 巻 6 号
 - *下降期慢性疾患患者の“具合”をよくする ジェネラリストだからできること！
- ◇調剤と情報 26 巻 5 号
 - *薬局・薬剤師発の費用対効果評価とは？安全性・有効性の、さらに一歩先
- ◇調剤と情報 26 巻 6 号
 - *薬剤師はどう向き合う？患者背景から考える高齢者の皮膚管理
- ◇調剤と情報 26 巻 7 号
 - *薬局薬剤師の専門性ファーストガイド
- ◇調剤と情報 26 巻 8 号
 - *薬局業務はどう変わる？改正薬機法
- ◇治療 102 巻 5 号
 - *実践！スポーツ医学
- ◇治療 102 巻 6 号
 - *プライマリ・ケア医が知っておくべき心不全診療
- ◇日経ドラッグインフォメーション 271 号
 - *新型コロナウイルス感染症 今、薬局にできること
- ◇日経ドラッグインフォメーション 272 号
 - *広がる！経皮吸収型製剤

- ◇日経メディカル 630 号
 - *難敵「心不全」に立ち向かう
- ◇日経メディカル 631 号
 - *オンライン診療が目指す未来
- ◇日本医事新報 5002 号
 - *足白癬を完治させる 7 の極意
- ◇日本医事新報 5004 号
 - *ステップアップ ESD- 上部消化管編
- ◇日本医事新報 5006 号
 - *新型タバコ時代の禁煙支援・禁煙指導 - 現状を知ることから始めよう
- ◇日本医事新報 5007 号
 - *インスリン療法導入の実際
- ◇日本医事新報 5009 号
 - *POCUS のはじめ方 - 診療所での消化管エコー活用術
- ◇日本医事新報 5012 号
 - *準備で決まる抗がん薬治療 - 有効性と安全性を最大限に高めるために
- ◇日本医事新報 5014 号
 - *糖尿病 & CKD
- ◇日本医事新報 5015 号
 - *腹膜透析の最前線
- ◇薬局 71 巻 4 号 (増)
 - *病気とくすり 2020
- ◇薬局 71 巻 6 号
 - *治療薬を活用するための基礎と実践総まとめ
- ◇薬局 71 巻 7 号
 - *がん薬物療法と腎機能低下

【今月の論文等】

■薬物療法■

- ▶超高齢社会シコウの利尿薬適正使用シコウ (11) 体液過剰状態の高齢うつ血性心不全患者の入院 (再入院) が繰り返される現状, なんとかならないのか？治療 102 (5) p.611
- ▶超高齢社会シコウの利尿薬適正使用シコウ (12) 利尿薬の適正使用を目指して The use of diuretic regimens remains an art rather than science 治療 102 (6) p.771
- ▶腎機能低下・透析患者での経口抗真菌薬投与をどう考える？薬局 71 (6) p.131
- ▶腎機能低下患者 (保存期) および透析患者における抗がん薬の投与量調整薬局 71 (7) p.35

- ▶ミケルナとヒアレインの点眼順序
日経ドラッグインフォメーション (271) p. PE027
- ▶ワルファリン服用患者に併用注意薬をあえて処方
日経ドラッグインフォメーション (271) p. PE017
- ▶水虫を合併した蜂窩織炎に抗真菌薬を塗るタイミングがカギ
日経ドラッグインフォメーション (272) p. PE025
- ▶聞いてみよう 薬剤師の知りたいこと 薬剤師が実践したい地域住民への健康増進活動
調剤と情報 26 (6) p.75
- ▶聞いてみよう 薬剤師の知りたいこと 医療問題を機械と人間で解決するために - 相談アプリ LEBER を用いた取り組み
調剤と情報 26 (8) p.51
- ▶帰ってきた 処方箋の“なぜ”を病態から推論する 第4回 歯科からラフチジン・・・胃酸症状での処方！？
調剤と情報 26 (6) p.126
- ▶帰ってきた 処方箋の“なぜ”を病態から推論する 第5回 皮膚科からステロイドが処方。受診理由はぶどう膜炎！？
調剤と情報 26 (8) p.129
- ▶貼付部位による貼付薬の効果の違い
日本医事新報 (5007) p.52
- 新薬■
- ▶審査報告書から見る新薬の裏側 [40] フィアスプ® 注フレックスタッチ®、同注ペンフィル®、同注 100 単位 / mL [インスリン アスパルト (遺伝子組換え)]
月刊薬事 62 (6) p.133
- ▶審査報告書から見る新薬の裏側 [41] エクフィナ® 錠 50mg (サフィナミドメシル酸塩)
月刊薬事 62 (8) p.161
- 安全性情報■
- ▶抗がん薬による腎機能障害の予防・対応策
薬局 71 (7) p.16
- ▶薬剤師のための特別講義！ 専門医が教える薬疹、薬剤性皮膚障害 7 薬剤による接触皮膚炎
調剤と情報 26 (6) p.100
- ▶薬剤師のための特別講義！ 専門医が教える薬疹、薬剤性皮膚障害 8 健康食品、漢方薬の薬疹
調剤と情報 26 (8) p.16
- ▶柑橘類の摂取と薬剤服用の問題点は？
日本医事新報 (5007) p.53
- ▶プロトンポンプ阻害薬と関連する有害事象
日本医事新報 (5012) p.46
- ▶睡眠薬の長期服用が症のリスクとなる根拠は？
日本医事新報 (5014) p.51
- ▶鉄剤にビタミン剤を併用しない理由
日経ドラッグインフォメーション (272) p. PE039
- 薬剤師業務■
- ▶現場の困った！ にエキスパートが答える Q&A 簡易懸濁法

- 調剤と情報 26 (6) p.104
- ▶現場の困った！ にエキスパートが答える Q&A 簡易懸濁法
調剤と情報 26 (8) p.106
- ▶まぜるな危険？ 知って得するシロップ・ドライシロップの配合変化 アンブロキシソール塩酸塩ドライシロップ
調剤と情報 26 (6) p.160
- ▶まぜるな危険？ 知って得するシロップ・ドライシロップの配合変化 アンブロキシソール塩酸塩シロップ
調剤と情報 26 (8) p.123
- 産科・婦人科■
- ▶一步踏み込む 妊婦・授乳婦の服薬指導 妊娠中の放射線の影響は？
日経ドラッグインフォメーション (271) p. PE010
- ▶一步踏み込む 妊婦・授乳婦の服薬指導 にきび治療中に妊娠が判明した妊婦
日経ドラッグインフォメーション (272) p. PE018
- 新型コロナウイルス感染症関連■
- ▶新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のウイルス学的特徴と感染様式の考察
日本医事新報 (5004) p.30
- ▶ COVID-19 治療候補薬アビガンの特徴
日本医事新報 (5005) p.25
- ▶ COVID-19 を含むウイルス感染症と抗ウイルス薬の作用の特徴
日本医事新報 (5006) p.34
- ▶ COVID-19 に対する漢方の役割
日本医事新報 (5008) p.44
- ▶ COVID-19 治療候補薬として注目の「アビガン」、投与開始は「早ければ早いほどいい」
日本医事新報 (5014) p.14
- ▶手指消毒用エタノールが不足 自施設で調整する方法は
日経ドラッグインフォメーション (272) p. PE030
- その他■
- ▶進め!! 医療薬学研究 [7] 臨床疫学に関連した研究——大規模医療情報を活用したドラッグリポジショニング研究
月刊薬事 62 (6) p.125
- ▶進め!! 医療薬学研究 [8] カナダにおける薬局薬剤師による実務と介入研究
月刊薬事 62 (8) p.156
- ▶薬局発！学会発表を行うための 12 ステップ 解析 その1
調剤と情報 26 (6) p.145
- ▶薬局発！学会発表を行うための 12 ステップ 解析 その2
調剤と情報 26 (8) p.91
- ▶アンチ・ドーピング
治療 102 (5) p.542
- ▶酢の血圧降下作用の科学的根拠と有効な摂取方法は？
日本医事新報 (5014) p.52

医薬雑誌ひろい読み

Medical Magazines Browsing

食物アレルギー[私の治療]

日本医事新報 4991号

食物アレルギーはIgE依存性反応と非IgE依存性反応にわけられ、即時型はIgE依存性のことが多い。免疫学的機序によらないものは乳糖不耐症などが挙げられる。【即時型反応】原因食摂取2時間以内に消化器症状、蕁麻疹、咳嗽などの全身症状を呈する。学童までに8～9割が改善するが、その理由として食物感作が皮膚で成立し、経口免疫寛容が成立しうると考えられている。【食物依存性運動誘発アナフィラキシー】特定の食物摂取後の運動負荷によってアナフィラキシーが誘発される。食物単独、運動負荷単独では誘発されない。NSAIDs内服等、運動以外でも誘因になりうる。原因食物の6割が小麦、ついで甲殻類。発症機序はIgE依存性で、食後2時間以内の運動による発症が大部分である。皮膚症状はほぼ全例、呼吸器症状は7割、ショック症状を約5割で認めるが、同じ運動負荷で必ず発症するとは限らない。【ラテックス・フルーツ症候群】ラテックスアレルギー患者が交差反応のある抗原性を持つ野菜、果物（アボカド、クリ、バナナ、キウイフルーツ等）で起こす。患者の30～50%に発症。

防衛医科大学校消化器内科
穂苅量太

市販薬の依存

治療 3号

2018年の調査において、市販薬関連障害患者で特に多くみられた乱用市販薬は「ブロン」「ウット」「ナロンA錠」「イブA錠」である。2013年を境にカフェイン含有市販薬の過剰摂取が急増しているのには、エナジードリンクが関係している可能性がある。おそらくエナジードリンク常用からカフェインへの耐性を生じ、より効率よく大量のカフェインを摂取する目的から、エスタロンモカ錠等の市販薬の乱用へと発展しているのであろう。カフェイン摂取量が1g/日を超えると、動悸やパニック発作といった急性カフェイン中毒が発症と言われており、5g/日以上で、致死的な不整脈を生じ、生命的な危機に瀕する可能性が高い。彼らの薬物摂取行動を強化する報酬は、快楽ではなく「苦痛が一時的に緩和されること」にある。薬物乱用以前よりリストカットや、「消えてしまいたい」「死にたい」という気持ちを抱え、自身の気分の落ち込みや不安感を紛らわせたり、仕事や友人との遊び、勉強などの意欲を出すために、市販薬を「目的外使用」している。彼らに必要なのは精神保健的支援なのである。

国立精神・神経医療研究センター
松本俊彦

薬局薬剤師のためのCOVID-19対策

調剤と情報 8月号

京都大学SPH健康情報学薬局研究グループは現場の最前線で働く薬局薬剤師の方に少しでも貢献できることはないかと考え、地域住民から必要とされるCOVID-19関連の信頼できる情報を集めたWebサイト「COVID-19薬局で働く皆様へ」を立ち上げ、情報提供を開始した。サイトでは1. 薬局で使える資料・ポスター2. 感染症専門医による解説動画3. 信頼できる情報源のリンク集などを提供し、信頼できる情報として、米国疾病予防管理センター（CDC）、感染症関連の学会や海外の薬剤師会などのガイドを活用しています。Webアンケートから、薬局で患者からよく受ける質問とその回答を紹介している。Q1:「重症化」を予防する方法はありますか？国内では、飛沫感染が重視され、「三密」を避ける事が協調されています。一方海外では、「社会的距離」に加え、コロナウイルスの特性として「接触感染」にも注意が飛鳥で、現金やエコバックの使用を避け、薬局内も血圧計や雑誌類は片付け、ペンなどを共用しないなど、薬局の実情を踏まえた具体的な注意点を記載しています。

京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系
健康情報学分野
岡田 浩

高齢者におけるベンゾジアゼピン系薬常用量依存からの離脱・減量

新薬と臨床 6月号

BZ系薬の問題点は筋弛緩作用の過剰による転倒リスクの増大、鎮静・催眠効果の過剰による認知機能の低下や健忘の発生、交通事故リスクの増大などが指摘されている。これらは高用量や多剤併用で生じやすく、高齢者になれば顕在化しやすい。長期的な使用になる理由の1つには依存性が関与していると考えられ、依存への対処、BZ系の離脱が求められている。当院では、症例個別においてのBZ系薬の減量対策とともに、病院・病棟単位でBZ系薬の適正使用を目指す取り組みを行った。

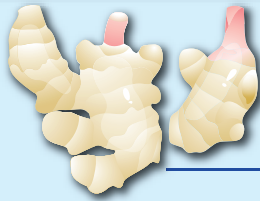
①情報提供活動：啓発冊子の作成と配布2. 職員対象の広報活動3. 採用医薬品の見直し。取り組みの前後で処方患者数は病院全体で18%減少した。

②多職種で治療方針の情報共有：週1回多職種カンファレンスにおいて薬剤部でBZ系薬の処方量が多剤である患者とジアゼパム換算量が1日20mg以上である患者を報告、処方意図と今後の治療方針を確認。

BZ系薬の平均剤数は1.6剤から1.0剤へ、平均ジアゼパム換算量は1日12mgから6.32mgへ減量された。

東京女子医科大学医学部 精神医学講座
稲田 健

健康食品の安全性情報 (2)



生姜(ジンジャー)

Key word: 冷え性改善、血行促進、辛味

健康食品については、医薬品と比べ多くのデータがないのが実情です。情報が氾濫する中、健康食品による健康被害の報告もあります。普段から信頼できる情報をもとに選択することが大切です。

【概要】

生姜は熱帯アジアを原産とするショウガ科の多年草で、根茎は食用、料理の香辛料としても親しまれている。また、中国、ヨーロッパでは古くから薬草としても用いられている。ショウガの根茎のクルク皮を除き乾燥させたものを生姜(ショウキョウ)、ショウガの根茎を湯通し又は蒸したものを乾姜(カンキョウ)と呼び医療用漢方薬の成分として高頻度で配合されている。沖縄では昔から風邪の引き始めに効果があると言われ、生のショウガを刻んで黒砂糖と一緒に煎じて服用したり、食欲低下や胃のむかつき、腹痛等にはショウガをすりおろし、汁を湯で薄めて飲用している。独特の辛味と香りは食欲を増進させる効果もある。

(沖縄の方言名(ソーガー、ショウガー))

【1日の摂取量の目安】

民間療法では生のショウガ1日10g程度が用いられている。サプリメントに含まれる乾燥生姜だと1日1g程度。

【医薬品との飲み合わせ】(相互作用リスク)

1. 血液凝固抑制薬(アスピリン・ワルファリンカリウム・クロビドグレル等)⇒あざや出血を起こす可能性があるため、大量摂取を避ける。
2. 高血圧治療薬(ニフェジピン・アムロジピン等⇒血圧が過度に低下、不整脈が生じる可能性がある。
3. 解熱鎮痛薬(ジクロフェナクナトリウム・イブプロフェン等)⇒血圧が過度に低下、不整脈が生じる可能性がある。
4. 糖尿病治療薬(グリメピリド・メトホルミンインスリン等)⇒血糖値が過度に低下する可能性がある。

【有効性】

- ・医療用漢方製剤ではかぜ薬、健胃消化薬、鎮吐薬、鎮痛薬とみなされる処方等に配合されている。
- ・妊娠初期のつわりによる吐き気、術後等の吐き気、嘔吐の軽減、月経困難症、めまい、変形性関節症に対して有効性が示唆されている。
- ・乗り物酔いについては効果がないことが示唆されている。

【安全性】

- 通常食品として適切に摂取すればほぼ安全だが、過剰な摂取で腹部の不快感、胸やけ、下痢、口やのどの刺激感、鎮静、眠気が報告されている。
- 血液疾患の人は出血のリスクを増加、糖尿病の人は低血糖を起こす可能性、心臓疾患のある人は多量摂取で症状が悪化する可能性があるため摂取しない。
- 授乳中の安全性については十分な情報がないため、避けること。

【生姜の主な成分】

精油(ジンギベレン・フェランドレン・カンフェン・シトラール等)、辛味成分(ショウガオール・ジンゲロール・ジンゲロン)、黄色素(クルクミン)

●健康食品は、あくまでも食品であって、たとえ健康に良いとされる効果が表示されている場合であっても、薬のように、痛みの症状を軽くしたり、病気を治したりする効果が期待できるものではありません。(消費者庁)

●生姜(ショウキョウ)

・発汗作用 ・健胃作用 ・止嘔作用(強) ・水分のバランスを整える ・解毒作用
→初期の風邪や発熱、胃の冷えによる吐気、嘔吐を抑える。
含有する漢方薬:「葛根湯」「半夏厚朴湯」「補中益気湯」等

速攻性

●乾姜(カンキョウ)

・温熱作用(体を温める) ・健胃作用 ・止嘔作用(弱) ・去痰作用 ・新陳代謝機能不全
→下痢、痰、唾液過多、手足の冷え、疼痛、強い倦怠感を改善させる。
含有する漢方薬:「半夏瀉心湯」「小青竜湯」等

じっくり

・・・参考文献・・・

1. 国立健康・栄養研究所「健康食品の安全性・有効性情報」(国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所)
2. 健康食品・サプリ「成分」のすべて 第6版(同文書院)
3. サプリメント図鑑:日経 Drug Information (99), 2006(日経BP社)
4. 生姜・乾姜:薬局 64(11), 2013
5. 生姜:医薬ジャーナル 46(11), 2010
6. ショウキョウ、カンキョウ:第十七改正日本薬局方



『ジンジャーブレッドマン』

14~16世紀頃のベスト大流行の際、イギリスでは生姜に予防効果があると推奨された。その名残の生姜入りクッキーは伝統菓子の1つ。人形型のクッキーが有名。

Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

★印は事務局カウンターまたは、情報センターに見本があります。

【日薬幹旋図書】調剤報酬点数表の解釈 令和2年4月版

【発行】社会保険研究所 【発行日】2020年6月下旬発刊予定

【版型/頁】A4判/約860頁予定 【定価】4,290円(税込) 【幹旋価格】3,650円(税込)

○調剤報酬の算定・請求に必要な情報を、実務上活用しやすいよう編集し、法令上の根拠とともに示している。

○調剤報酬点数表に関する疑義解釈(Q&A)については、今回改定関連に加え、従来示されたものの内容を整理して掲載、調剤薬局での実務に必要な情報を網羅している。

○「関係法規・通知編」では、保険調剤や病院薬剤部に関連する保険情報(療養担当規則、施設基準等)をまとめるとともに、処方せんや介護保険までの関連情報を掲載。

【日薬幹旋図書】新人薬剤師・薬学生のための医療安全学入門〔改定版〕

【発行】株式会社薬ゼミ情報教育センター 【発行日】2020年3月

【版型/頁】B5判/133頁 【定価】3,300円(税込) 【幹旋価格】2,860円(税込)

「調剤過誤防止から副作用の早期回避まで」として初版を発刊してから10年以上がたち、医療安全における薬剤師実務は「副作用回避に向けた処方提案」を行うまでに拡大。そこで、今回新たに薬剤師に期待される「患者安全のための薬剤師実務」の項を設けるとともに、「WHO患者安全」をはじめとする国内外の「医療安全」の最新情報を学べるよう、大改訂を行った。

腎不全と薬の使い方 Q&A 第2版

【編著】平田 純生、竹内 裕紀、古久保 拓 他 【発行】じほう 【発行日】2020年4月

【版型/頁】B5判/912頁 【定価】7,700円(税込)

「腎臓」「透析」「薬」をキーワードに、幅広い視点から腎臓病患者の薬物療法を理解できるようQ&A形式で分かりやすくまとめた。腎機能に応じた薬物投与設計、腎機能低下の進行を抑制するための介入、腎臓を傷めない対策、透析性の適切な評価による投与法の適正化や中毒治療への対応、CKD合併症の理解と治療など、薬剤師として必要不可欠な知識が満載。

逆転発想法で攻略

医学英語執筆のためのときめく実践例文集

【著者】小出 徹 【発行】じほう 【発行日】2020年4月

【版型/頁】A5判/850頁 【定価】7,480円(税込)

製薬企業で約40年間医薬品創製や臨床医学研究に携わるとともに、国際学会での発表や国際学術誌への投稿などの実績をもつ著者が「医学英語学術論文の執筆」について新たな執筆方法論を提案する1冊。

これからはじめる 非がん患者の緩和ケア

【編集】松田 能宣、山口 崇 【発行】じほう 【発行日】2020年3月

【版型/頁】A5判/208頁 【定価】3,850円(税込)

非がん患者の緩和ケアにこれから関わろうとしている医療従事者、プライマリ・ケアや緩和医療に携わる医療従事者に向けて、心不全・慢性閉塞性肺疾患(COPD)・慢性腎臓病(CKD)・肝硬変・認知症・神経難病の緩和ケアを分かりやすく解説。

Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

★印は事務局カウンターまたは、情報センターに見本があります。

がん化学療法ワークシート 第5版

【編集】池末 裕明、伊藤 善規、大石 了三 【発行】じほう 【発行日】2020年4月

【版型/頁】B5判/480頁 【定価】5,720円(税込)

がん化学療法を安全により効果的に進めるためには、抗がん薬の使い方と副作用の知識が不可欠です。がん種ごとに治療を、副作用ごとに副作用の予防と対策を解説。さらに最新の知見をエビデンスとして盛り込んだ。

薬剤師のための ナレッジベース

【編著】石井 伊都子、鈴木 貴明 【発行】じほう 【発行日】2020年5月

【版型/頁】A5変型判/704頁 【定価】5,500円(税込)

“薬のスペシャリスト”としての役割が求められる薬剤師ですが、医療用医薬品の品目数は約16,000。この膨大な薬剤情報に加え、“医療のスペシャリスト”として疾患・症状を網羅するには、途方もない時間と労力が必要。薬剤師がよく出会う55疾患のガイドライン情報や、各疾患で使用される薬剤情報を「特徴」、「処方監査」、「モニタリング」、「服薬指導」といった薬剤師業務の流れに沿って解説した。

教科書やガイドラインではわからない！糖尿病薬物療法の裏ワザ、豆知識

【著者】弘世 貴久 【発行】南江堂 【発行日】2020年5月

【版型/頁】A5判/124頁 【定価】3,080円(税込)

糖尿病専門医として臨床経験豊富な著者が糖尿病治療薬の各薬剤について、その作用機序、適応となる患者、患者に応じた使い方などをわかりやすく解説。著者自身の経験や臨床研究に基づく、教科書やガイドラインには載っていない薬剤の使い方や知識が満載。専門医はもちろんのこと、非専門医も知っておきたい処方内容を紹介する。臨床現場で糖尿病治療薬の選択に自信がもてるようになる一冊。

薬局・ドラッグストアのための らくらくコミュニケーション BOOK

【編著】廣瀬 明香、二見 茜、富田 茂 他 【発行】じほう 【発行日】2020年6月

【版型/頁】A6判/128頁 【定価】2,200円(税込)

来局・来店した患者は外国人！英語に自信がなくて、どうやってコミュニケーションをとればいいのかかわからない・・・!? そんなあなたに、外国人診療や対応に精通した著者陣が、薬局・ドラッグストア内での対応にフォーカスを当てたコミュニケーションツールを作りました。症状や欲しい薬のヒアリング、処方箋対応などの一連の流れを英語・中国語で全面カバー。

実践 小児薬用量ガイド 第3版

【監修】甲斐 純夫、加賀谷 肇、佐藤 透 【発行】じほう 【発行日】2020年3月

【版型/頁】A6変型判/480頁 【定価】3,300円(税込)

小児であっても年齢や体重は患者によってさまざま。そんな小児薬用量の処方や監査を行ううえで大きなポイントとなるのが、患児の体重。体重kgあたりの小児薬用量をまとめた好評書の第3版。

薬事情報センターの利用のしかた

○業務内容

(1)医薬品情報の提供 (2)「薬事情報おきなわ」の編集・発行 (3)医薬品に関するお問い合わせ (4)県薬ホームページの制作・管理 (5)消費者薬相談業務「おくすり相談室」 (6)ドーピング防止ホットライン業務

○業務時間

(会員対象) 平日 午前：8時30分～12時 午後：1時～5時30分 (土・日・祝日休業)

(一般対象) 「おくすり相談室」・「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」

平日(月～金) 午前：9時～12時 午後：1時～5時

※おくすり相談室及びドーピング防止ホットラインの電話は **098-963-8935** になります。お気軽にご利用ください。

○会員の利用方法

医薬品等に関するご質問は、電話、ファクシミリで受付けています。また、情報センター所蔵図書の閲覧、文献調査、オンラインデータベース・インターネット利用等の目的で直接お越しいただく場合は、係の者が対応致しますので、なるべく事前にご連絡下さい。

TEL : 098-963-8931 FAX : 098-963-8937

沖縄県薬剤師会 薬事情報センター

* * 海外文献から (JAPIC 医薬情報より) * *

●英国における妊娠中のマクロライド系抗生物質処方と児の有害転帰との関連:集団ベースのコホート研究 (BMJ 368(8234)m331-(2020.2))

UK Clinical Practice Research Datalink から, macrolide (erythromycin, clarithromycin, azithromycin) 単剤療法, または penicillin 単剤療法を, 妊娠4週-出産まで処方された母親から 1990年-2016年に出生した小児 104605例を組み入れた。妊娠前に macrolides または penicillins を処方された母親の小児 82314例および試験コホートの兄弟小児 53735例を陰性対照として組み入れた。主要転帰の指標は, 妊娠第一期, 妊娠第二期-第三期, または全ての妊娠期間中における macrolide または penicillin 処方後の重大奇形および全身の特異的的重大奇形(神経, 心血管, 胃腸, 生殖器および尿路)のリスク, および脳性麻痺, てんかん, 注意欠陥多動性障害および自閉症スペクトラム障害のリスクとした。その結果, 妊娠中に macrolides を処方された母親の小児 8632例中 186例, penicillins を処方された母親の小児 95973例中 1666例に重大奇形が記録された。妊娠第一期の macrolide 処方, penicillin と比較して, 重大奇形および心血管奇形のリスク増大と関連していた。全ての妊娠期間中に処方された macrolide は, 生殖器奇形のリスク増大と関連していた。妊娠第一期の erythromycin は, 重大奇形リスクの増大と関連していた。妊娠中は可能であれば他の抗生物質を処方すべきである。

●湿疹予防のための乳児期の毎日の皮膚軟化剤:BEEP 無作為化比較試験 (395(10228)962-(2020.3.21))

英国にて, アトピー性疾患の家族歴のある正期産児を, 生後1年間の毎日の皮膚保湿剤(Diprobase クリームまたは DoubleBase ゲル)に加えて, 標準スキンケアアドバイスを受ける群(皮膚保湿剤群)と標準スキンケアアドバイスだけを受ける群(対照群)に無作為に1対1に割り付けた。主要アウトカムは, 層別変数で調整した2歳時の湿疹でケアの遵守に関係なく解析した。期間は2014年11月19日-2016年11月18日, 1394例の新生児を無作為に割り付け, 皮膚保湿剤群は693例, 対照群は701例であった。皮膚保湿剤群の遵守率は, 3ヵ月で88%(466/532例), 6ヵ月で82%(427/519例), 12ヵ月で74%(375/506例)だった。2歳時点における湿疹発症率は, 皮膚保湿剤群 23%(139/598例), 対照群 25%(150/612例)であった。他の湿疹の定義による副次的評価(出生から2歳までの両親による評価, 看護師の視覚的評価, 発症までの時間, 重症度等)の結果も, 主要アウトカムの解析結果を支持していた。生後1年間の1人当たりの皮膚感染症平均発生数は, 皮膚保湿剤群で0.23(SD 0.68), 対照群で0.15(SD 0.46)であった。その結果, 生後1年間の毎日の皮膚保湿剤が高リスクの小児の湿疹を予防するというエビデンスは得られず, 皮膚感染のリスクの増加を示唆するエビデンスを見出した。

●糖尿病患者における結核および帯状疱疹のリスクに及ぼす Statins の相反する影響:集団ベースのコホート研究 (British Journal of Clinical Pharmacology 86(3)569-(2020.3))

糖尿病患者 240782人年の観察において, statin 使用(17696例)では, 非 statin 薬使用(5327例)および脂質降下薬非使用(22316例)よりも結核発症リスクが低かった。statin 使用による帯状疱疹リスクは, 非 statin 薬使用および脂質降下薬非使用よりも高かった。非 statin 使用と比較して, statin 使用では結核リスクが低減するが, 帯状疱疹のリスクは中等度に増大した。



一年目を終えて

事前にお話をもらった時に何か勉強会に参加して学んだことでもと思っていたのですが、最近では新型コロナウイルスの影響でイベントの中止が重なり、テーマに困っていただけで、前回に引き続き今回も1年目の感想を書こうと思います。

私は今年で2年目になります。早いものでもう4月が来てしまい社会人の1年目はあっという間に過ぎていきました。今年から先輩だ！と思っていたのですが私の店舗には新人が配属されなかったで、まだ私は後輩です。1年前の4月は1週間ほど研修を受けた後、店舗に配属されて職場に慣れるのを目標に日々の業務に努めてきました。初めは緊張もしていて分からない事や失敗する事も多く心細かったこともあったのですが、その度に先輩方にフォローしていただき多くの事を教わりました。東京であった全国の新人薬剤師が集まる研修では私と同じ悩みや不安を抱えている人がいたことに少しほっとしたことを覚えています。少しずつ職場の雰囲気にも慣れてきたころに勉強会や地域のイベントに参加する機会があり、他店舗の先輩方や他職種の方々との交流で積極性やコミュニケーションの大切さに改めて気づきました。また窓口での患者対応では、分かり易い言葉で説明する時に伝えることの難しさを感じました。私は初対面ではとても緊張してしまい、あまりコミュニケーションが得意ではないのですが、この1年を通して何かにチャレンジすることに対し少しだけ抵抗がなくなってきた気がします。

みさと虹薬局
具志堅 咲



年末には店舗の引っ越しを経験しました。段々と建物が出来上がってきて、内装の配色なども皆さんで相談して決めたり、新しく調剤ロボットが導入されるということもあり、とても待ち遠しかった半面、機械を使いこなせるか心配になったりもしました。薬局の引っ越しなどあまりないと思っていたのですが、貴重な経験をすることができたと思っています。調剤ロボットはあらかじめ中に充填されているPTPシートをピックアップしてくれるという機械で、初めて機械が動いているのを見たときはとても感動しました。薬剤師の仕事の在り方が変わっていくように調剤の在り方もニーズに合わせて変わっていくのだと感じました。

1年間で色々な経験をさせてもらったのも先輩方の大きな支えがあってこそだと感じました。まだまだ勉強不足な点もありますが、これからは色々なことに取り組んでいけたらと思っていますので、ご指導よろしくお願いします。



次号には、湧田 英恵 先生がバトンを受けて下さいました。ご期待下さい！

第45回 暮らしの中の薬草学 身近な薬草を知ろう

女性薬剤師部会 狩俣 イソ



COVID-19 禍でどこにも出かけられず、家と職場の往復ですが、その沿道に色とりどりのキンレンカが咲き乱れています。サラダやお浸しにして美味しく食べられるようです。

キンレンカ：金蓮花

学名 *Tropaeolum majus* L.
科名 ノウゼンハレン科 *Tropaeolaceae*
属名 ノウゼンハレン属 *Tropaeolum*
使用部位 花・蕾・葉・種子・塊茎
有効成分 鉄・ビタミンC・シュウ酸・ルテイン
グルコトロペオリン・グルコシノレート



【キンレンカの特徴】

学名 *Tropaeolum majus*、キンレンカ(金蓮花)は、南米ペルー原産のノウゼンハレン科で、熱帯性気候の地域では多年生として、温帯性気候の地域では一年生植物として成長する。ヨーロッパには、16世紀にスペインの探検家によってもたらされた。日本には江戸時代にオランダ人によって渡来した。

アンデス山脈などの熱帯高地原産のため25度を越える暑さに弱く、寒さにも強くはない。夏場は日差しのあたらない明るい日陰の涼しい場所で、冬は霜にあたらないように栽培する。葉は互生、ハスなどに似て円形で中央付近に葉柄がつく。キンレンカの花の色はオレンジ、黄、赤、ピンク色など暖色系が中心で、左右相称で、花弁5枚が基部で合着し、そのうち1枚は距(キョ)と呼ばれる長い蜜壺になっている。がく片5枚、雌蕊1(柱頭3裂)、雄蕊8で、花期は5月から11月頃と長く、子房は3心皮からなり、果実は分果で3個に分かれ各1個の種子を含む。種子で増える。

茎はつる性で肉質があり、品種は100種類以上あり、つる性のものと、草丈が低く改良された矮性(ワイルド)のものがある。草丈はつる性のもので1～2m、矮性のもので20cm～60cmになる。園芸用として矮性のものが親しまれ

ている。

【キンレンカの名称】

ノウゼンハレン(凌霄葉蓮)という名もあり、2つの和名は黄色や橙色の花がノウゼンカズラに似て、葉はハスに似ることからつけられた。

ナスタチウムとも呼ばれるが、この名は正式にはオランダガラシ(クレソン)属を指す学名であって、似た味をもつために転用された通称である。

クレソンによく似た風味があることから、インディアンクレスと呼ばれることもある。

【キンレンカの利用】

昔からアンデスの人々に消毒液や呼吸器の不快感を和らげる薬として使われていた。

美しい花を観賞したり、茎葉や花をハーブとして食用にするために栽培される。ヨーロッパでは古くから食用(エディブルフラワー)として親しまれている。花や若葉はサラダなどの食用にでき、わずかにクレソンを思わせる辛味がある。未熟の種子を塩漬けにしてケッパーの代りに使うこともある。ピクルス・ビネガーの調味用に用いられる。またすりおろすとワサビの代用としても利用できる。華麗な花は、野菜料理、魚料理、赤肉料理、飲み物に添えて装飾として用いられる。

*Tropaeolum tuberosum*は、いもを食用とするために栽培され、アンデス地方の一部ではMashuaマシュアと呼ばれる重要な作物である。

【キンレンカの効能・効果】

- ・抗菌効果がある。抗生物質と異なり、腸内細菌叢に損傷を与えない。
- ・育毛を促進する効果がある。
- ・葉の浸出液で気管支炎、生殖器の感染症を抑制する。
- ・傷の治りを早める効果がある。
- ・美肌効果：線維芽細胞のコラーゲン産生量を増加させ、皮膚のしわ・たるみを改善する。

- ・赤血球の形成を促進する。
- ・種子には瀉下作用がある。

【肥満の治療】

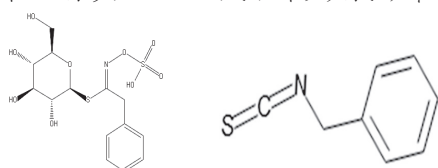
ヒトにおける消化管ホルモンの循環レベルに及ぼす食餌性キンレンカの影響を調べた研究では、キンレンカ接種はペプチドYY(小腸に多く分布するホルモンの分泌を増強し、キンレンカを含む特別食、またはベンジルイソチオシアネート補給は、肥満の治療に利用できる可能性があることが示唆された。

【キンレンカの有効成分】

キンレンカには、グルコトロペオリン、グルコシノレート、シュウ酸、ビタミンC、鉄分が含まれている。紫外線によって発生する活性酸素を消去するルテイン、β-クリプトキサンチンといった橙色の色素成分であるカロテノイドや、紫色の色素成分であるアントシアニン、クロロゲン酸などの、抗酸化物質が含まれていると報告されている。

【グルコトロペオリン：配糖体】

グルコトロペオリン ベンジルイソチオシアネート



グルコトロペオリンは加水分解して抗生物質のイオウ化合物を生じる。グルコトロペオリンを含有するキンレンカ摂取後の、ヒトの血漿と尿中にベンジルイソチオシアネート(グルコトロペオリンの酵素的加水分解物)が検出された。

ベンジルイソチオシアネートは、イソチオシアネートのひとつで、マスタードの辛味成分である。辛味は比較的弱く揮発性も低い。癌化学的予防と抗炎症特性に関して集中的に研究されている。転写因子であるNF-κBを活性化することで、大腸がんのがん細胞の増殖を抑える効果が確認されている。

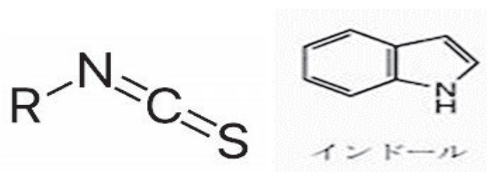
【グルコシノレート】

グルコシノレートは植物体の柔組織に含まれ、その分解酵素のミロシナーゼは、篩部にある特殊なミロシン細胞に含まれている。植物体が昆虫などによって食害を受けると組織が破壊されて、グルコシノレートがミロシナーゼと接触して加水分解される。これに伴い、グルコースと硫酸塩に加えて、イソチオシアネート、ニトリル、イソチオシアネートアシルなどの、刺激的な臭いや辛みを有する殺

菌、殺虫作用を持った物質が遊離する。

グルコシノレートは、側鎖によって、脂肪族、芳香族及びインドールグルコシノレートに区別される。側鎖が脂肪族と芳香族のグルコシノレートだけが、加水分解でイソチオシアネートを放出し、側鎖がインドールのものはイソチオシアネートを生じない。

グルコシノレートには生物活性がなく、抗ガン作用はない。対照的にその分解産物のイソチオシアネートは非常に強力な発ガン作用の3つのフェーズのいずれにも作用する。最も研究されているイソチオシアネートは、ブロッコリー由来のスルフォラファンである。



イソチオシアネートの基本骨格

グルコシノレートから生じたインドールも抗ガン作用を有している。

【薬学的利用】

キンレンカの葉のグルコシノレート代謝産物が尿管で抗細菌作用を発揮するのに十分な量になるようにするための生化学的パラメータを検討した。グルコトロペオリン含量の高い8品種を選び、圃場試験用のクローンとして繁殖させた。

【コンパニオンプラントとしてのキンレンカ】

コンパニオンプラント(共栄作物)とは農学や、園芸学において、近傍に栽培することで互いの成長に良い影響を与えあうとされる2種以上の植物の組み合わせ、またはそれらの植物のことである。

キンレンカはアブラムシを遠ざける防虫効果があるため、りんごの木と一緒に植えると被害を防ぐことができる。キャベツ、カイラン、カブ、スティックセニョール、ダイコン、ブロッコリーなどのアブラナ科野菜につくアブラムシ・コナジラミ・ハモグリバエを遠ざけて、生育を助ける。キュウリなどのウリ科、白菜の病虫害を減らし、生育を助け、地面を覆い土の乾燥を防ぐ。ナス、トマト、レタス類、カボチャ、スグリ類とも相性がよく生育を助ける。

参考 わかさの秘密、ナオルコム、J-Global、
沖縄園芸植物大図鑑、食の研究所、東京農業大学、
西尾道徳の環境保全型農業レポート



令和2年度 沖縄県薬剤師連盟評議員会報告

日時：令和2年6月21日（日）13:00～13:35

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

＜式次第＞		司会	副幹事長	名 嘉 紀 勝
会長あいさつ			会 長	亀 谷 浩 昌
議題				
報告	第1号	沖縄県薬剤師連盟役員の件について	会 長	亀 谷 浩 昌
	第2号	令和元年度会務経過報告について	幹 事 長	石 川 恵 市
	第3号	令和元年度会務並びに会計監査報告について	監 事	江 夏 京 子
議案	第1号	令和元年度決算承認の件について	会計担当	川 満 直 紀
	第2号	令和2年度活動計画案の件について	幹 事 長	石 川 恵 市
	第3号	令和2年度予算案の件について	会計担当	川 満 直 紀
	第4号	沖縄県神谷まさゆき後援会設立の件	幹 事 長	石 川 恵 市

沖縄県薬剤師会定時総会に先立ち、沖縄県薬剤師連盟評議員会が開催された。

司会進行は、名嘉紀勝副幹事長が務めた。司会より、新型コロナウイルス感染症の発生を踏まえた同評議員会の開催の取扱いについて、事前に案内したが、書面による議決行使権（委任状）を利用した参加者を含め、過半数以上の評議員が参加されたことへの御礼が述べられ、配布資料の確認を行った。

亀谷浩昌会長の挨拶では、「昨年7月の参議院議員通常選挙では、会員皆様の協力・奮闘により本田顕子氏が当選し、薬剤師会の夢であった、参議院に2人の薬剤師議員が存在する体制が実現した。本田氏は既に国会で活躍しており、薬剤師の声を届ける議員の存在は大きな力になる。2022年の参議院選挙には、藤井基之議員は退任を予定しており、新たに日本薬剤師連盟は次期参議院議員選挙組織内統一候補者として神谷政幸氏を擁立することにした。当選させるためにも会員が一丸となって活動しないといけないため、その際には協力いただきたい。今回の新型コロナウイルス感染症が薬局経営等に及ぼす影響に関して厚生労働大臣へ要望書を提出した際にも薬

剤師参議院議員の力は大きかった。本会も地元国会議員へ同要望書を提出したが、県への働きかけには国会議員も大事だが、県議会議員の力添えも重要である。先の県議会議員選挙では本連盟が推した議員が落選してしまった。県に薬剤師の声を届けるためにも本会は県議会議員選挙をもっと重要視すべきである。」と述べられた。

報告第1号「沖縄県薬剤師連盟役員の件について」では、亀谷浩昌会長が、本連盟役員内の役職の変更があり、幹事長に石川恵市氏、副幹事長に名嘉紀勝氏が新しく就任したこと、日本薬剤師連盟から組織強化担当役員の設置要請があり、幹事長に就任した石川恵市氏を選任した旨の報告をした。

報告第2号「令和元年度会務経過報告」では、石川恵市幹事長が、昨年7月の第25回参議院議員通常選挙において、本田顕子氏が自民党比例区候補者33人中14番目で当選を果たしたこと、同選挙期日前の数ヶ月の間、地区薬剤師会担当者、連盟役員、事務局と共に、薬剤師職能の確立のために政治の必要性の理解をしていただき、会員皆様の一票一票の積み上げにより、結果を得ることができたこと、今



亀谷 浩昌 会長あいさつ



司会
名嘉 紀勝 副幹事長



報告第2号、議案第2・4号
石川 恵市 幹事長



報告第3号
江夏 京子 監事



議案第1・3号
川満 直紀 会計担当

後、国の医療政策において薬剤師職能が充分に発揮できるよう本田顕子氏と共に頑張っていきたい、と述べた。

報告第3号「令和元年度会務並びに会計監査報告」では、江夏京子監事が次のように報告した。

本連盟規約第8条1項に基づいて、令和元年度監査を、神谷朝雄監事と共に、令和2年5月28日に本会館にて、亀谷浩昌会長、川満直紀会計責任者、関係職員同席のもと、決算報告書内訳および予算執行状況等関係書類を基に監査を行った。財務及び事業については適正に実施されていると認めた。監査意見については、

- (1) 収支決算書、貸借対照表、財産目録等は、会計帳簿の記載金額と一致し、収支状況及び財政状態を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。

(3) 役員の職務執行に関する不正の行為等の重大な事実はないと認める。

と、報告書を読み上げて監査報告とした。

議案に入り、議案第1号「令和元年度決算承認の件」を川満直紀会計責任者、議案第2号「令和2年度活動計画案」を石川恵市幹事長、議案第3号「令和2年度予算案の件」を川満直紀会計責任者、議案第4号「沖縄県神谷まさゆき後援会設立の件」を石川恵市幹事長が説明した。

各議案について、挙手による採決で賛成多数で決議された。

閉会前に、日本薬剤師連盟次期参議院議員選挙組織内統一候補者の神谷政幸氏からのメッセージ動画を閲覧し、司会より、神谷政幸氏を応援していくよう述べられ、令和2年度沖縄県薬剤師連盟評議員会は終了した。

(報告：事務局 大城 喜仁)

薬連だより

本田あきこ オレンジ日記

～緊急事態宣言の期間延長～

自民党女性局次長・厚生関係団体委員会副委員長
参議院議員・薬剤師 本田 顕子



令和2年5月4日、安倍総理は、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の期間を5月31日まで延長することを決定しました。4月7日の緊急事態宣言以降の感染拡大防止対策にもかかわらず、感染者の減少が十分といえないこと、医療体制のひっ迫の改善に1か月程度の期間が必要であること、新規感染者を1日当たり一定のレベル以下に減らす必要があることなどを延長の主な理由として挙げています。その上で、5月14日を目途に専門家が地域ごとに分析し、可能であれば緊急事態を解除することにも言及されました。一刻も早い収束を願っています。

一方、国会においては、令和2年度補正予算案を審議し、4月30日の参議院本会議において可決され、歳出総額約26兆円の追加予算が成立しました。医療提供体制の強化の中に、治療薬・ワクチンの開発加速に必要な経費（約830億円）とともに、薬局における薬剤交付事業費約4.6億円も含まれています。また、サプライチェーン改革として、生産拠点の国内回帰支援に必要な経費として約2,230億円が計上され、海外依存度が高い医薬品原料の国内製造拠点の整備を支援するために必要な経費も盛り込まれています。

さて、新型コロナウイルス感染症への対応としては、2月初旬以降の大型クルーズ船における感染者対策が注目されましたが、5月1日に厚生労働省のダイヤモンド・プリンセス号現地対策本部が報告書をまとめて公表しています。（<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000627363.pdf>）「医薬品ニーズへの対応について」の項目では、薬剤師会、病院薬剤師会、薬局、卸売業連合会等多くの方々の支援があったことが記載されています。ご協力いただいた関係者の皆さんに改めて敬意を表したいと思います。

～新型コロナウイルス感染症対策とこれから 女性局での活動～

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が5月25日にすべての都道府県で解除されました。一方で、外来患者の減少、長期投薬の増加等により、医療機関のみならず薬局の経営状況も厳しくなっていることから、党内や国会で薬局への支援を訴えてきており、早期支援のための第二次補正予算を成立させることができました。積極的な活用がなされますことを願っております。

さて、今月のオレンジ日記は、自民党の女性局における活動の一部を報告させていただきます。月刊女性誌「りぶる」の特集企画「新型コロナウイルス感染症対策とこれからのこと」をテーマに、医療系の女性議員座談会が行われ、私も薬剤師議員として参加することになりました。女性薬剤師の先生方から寄せてくださった現場の声をこの座談会で紹介させていただくことができました。私からは次のような発言をさせていただきました。

- 緊急事態宣言の解除は、国民の皆様の正しい行動の結果であり、医療従事者の使命感と行動のおかげである。
- 薬局は、予約もなく様々な方々が来られるので、常に感染のリスクにさらされている。
- 子育て中の女性薬剤師の場合、保育園からの呼び出しで早退せざる場合が多く、肩身の狭い思いをしているとの声が届いている。
- 国から届けられた布マスクにより、医療用マスクは医療現場に回そうとの意識が高まった。
- メディアによる報道の在り方の問題として、科学的根拠のない情報の発信が見られ、医療の現場に混乱が見られたとの声がある。 等

この座談会の模様は、7月号の「りぶる」に掲載される予定ですので、ぜひご覧になってください。

国政の場において、薬剤師会はもちろん、SNSを通してつながる皆様方からの貴重なご意見を踏まえ、自信をもって現場の声を発言できています。これからも頑張っていきたいと思います。



国会レポート ～令和2年度補正予算～

自由民主党政務調査会会長代理
参議院議員・薬剤師
藤井 もとゆき



日本の新型コロナウイルスによる感染者は3月末頃から急速に増加しはじめ、爆発的な感染拡大も心配されましたが、緊急事態宣言の発令により、新規感染者数は減少傾向となっています。しかしながら、政府は未だ十分な減少には至っていないとして、緊急自体宣言の期間を5月31日迄、約1か月間延長することを決定しました。

緊急事態宣言を受けた、不要不急の外出自粛や店舗等の営業自粛により、社会生活や事業活動は制約を受けるところとなり、経済の下振れが顕著となっています。

政府は「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」の早急な実施のため、令和2年度補正予算(案)を4月27日に国会に提出しました。国会では祝日の29日も審議を行い、4月30日の参議院本会議にて可決、成立しました。

今回の補正予算は 当初予定した収入減少世帯への30万円の給付に代えて、国民全てに一律10万円を給付するとしたことから、雇用の維持と事業の継続に19兆4,905億円を計上するなど、総額は25兆6,914億円となっています。厚生労働省関連では、医療提供体制の整備を支援する新型コロナウイルス感染症緊急包括支援基金(仮称)の創設に1,490億円、国立病院機構・地域医療機能推進機構の医療提供体制の整備に65億円、患者の入院医療費の公費負担やオンライン服薬指導時の薬剤配送費等、新型コロナウイルス感染症患者の支援に188億円等が盛り込まれています。

医療機関や薬局で働く薬剤師の皆さんには厳しい業務が続いていることと思いますが、人々の命を守るために引き続きのご尽力をお願いいたします。

～ 5月25日決算委員会～

開会中の通常国会は、閉会まで残すところ1週間程となりました。今国会は、新型コロナウイルス感染症拡大を防止するための対処方針や厳しい経済状況に対応するための補正予算の審議等の緊急案件が加わり、各委員会の審議にも少なからず影響を及ぼすところとなりました。

私の所属する決算委員会は、審議日程がずれ込み5月25日に準総括審議が行われ、質問の機会を得ました。質疑では新型コロナウイルス感染症に関する問題を取り上げ、政府の考えを質しました。

まず、国民や患者が新型コロナウイルス感染症への不安から、受診を控える状況が生じ、病院のみならず薬局の経営にも影響を与えていることを提示し、継続的な医療提供体制を確保するための対策実施を要請しました。

次に、新型コロナウイルスの検査について、唾液検体を用いるPCR検査の実施、抗原検査薬、抗体検査薬の利用等、効率かつ迅速な検査体制の整備を要望しました。

最後に、新型コロナウイルス感染症の予防薬や治療薬の開発状況を確認するとともに、ワクチン開発への政府の助成策が欧米等に比べ見劣りすることを指摘し、支援拡充の必要性を指摘しました。また、アビガンについて動物実験で催奇形性が認められていることから、その使用にあたっては慎重を期するよう求めました。

新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言は解除されましたが、まだ油断できる状況にはありません。医療機関や薬局は、如何なる状況においても業務の継続が求められるところとなっています。医療関係者の皆さんには、出来る限りの予防策を講じ、適切な医療の提供にご尽力下さいますようお願いいたします。

藤井もとゆきホームページ <http://mfujii.gr.jp/>

令和元年度第9回理事会議事概要

日時：令和元年 11 月 2 日（土）19:00 ～ 21:00

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

出席者：亀谷浩昌、川満直紀、金城雄一、佐藤雅美、村田美智子、吉田洋史、笠原大吾、幸地良信、島袋さゆり、知名博樹、中尾滋久、盛本直也、浅沼健一（北部地区代理）

監 事：江夏京子

事務局：又吉章元、大城喜仁、花城拓希

欠席者：中村克徳、前濱朋子、西川裕、宮城幸枝、友寄安彦、新垣秀幸、古謝真己、上原卓朗

議題

(1) 令和2年度日本薬剤師会有功賞（個人）推薦について

＜資料配布＞

（又吉事務局長）

日本薬剤師会より、標記授賞候補者の推薦依頼が届いている。「日本薬剤師会に引き続き30年以上正会員として在会し、永年に亘り相応の功績があった者」「令和2年3月末日に、満80歳以上となる者（昭和15年4月1日以前に生まれ会員）」の2つが該当事項となっており、本会より、上原正徳、小渡宏二、小波蔵智恵子、渡久山京子、義元愛俱の5氏が以上の条件を満たすことから表彰選考諮問委員会から推薦案が提示されている。

表彰選考諮問委員会からの推薦案について、特に異議無く全会一致で承認された。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等について

＜資料配布＞

（又吉事務局長）

会営薬局うえはら、会営薬局センター前は前年の同時期に比べて伸びている状況。会営薬局とよみに関しては、3ヵ月前までは落ち込んでいたが、先月は落ち着いている状況である。

(2) 社会保険診療報酬支払基金幹事会

＜資料配布＞

10月9日（水）社会保険診療報酬支払基金沖縄支部

（大城次長）

亀谷会長が出席。内容については資料を確認いただきたい。

(3) 沖縄県地域包括ケアシステム推進会議 第3回在宅医療・介護連携部会

＜資料配布＞

10月10日（木）沖縄県産業支援センター

（笠原理事）

沖縄県地域包括ケアシステム推進会議の第3回在宅医療介護連携部会に初めて参加した。同推進会議には今回参加した部会の他に、認知症施策推進部会と地域づくりのあり方検討部会の計3部会があり、これらの部会で議論を踏まえ、医療や介護の関係団体や市町村、県などが具体的に取り組んで行くべき事項を纏めた報告書を策定している。今回は、策定までのスケジュールと主な行程について議論した。

(4) 薬と健康の週間

10月17日～23日＜資料配布＞

(大城次長)

本年度も全国統一事業を「決めよう！探そう！活用しよう！かかりつけ薬剤師を～もっと身近に、ずっとそばに～」とし、「薬と健康の週間」が10月17日（木）～23日（水）に沖縄県・那覇市・沖縄県薬剤師会の主催で実施された。標記週間は、薬祖祭を皮切りに、メインイベントのくすりと健康フェアを始め、街頭キャンペーン、沖縄県薬事功労者知事表彰、地元紙への投稿等を行った。

くすりと健康フェアは10月20日（日）に沖縄県県立図書館で開催された。午後12時45分に沖縄県立図書館入口前で開会セレモニーが執り行われた。午後1時より館内の「健康とおくすり相談会」「薬剤師になろう！こども向けの調剤体験＆楽しい実験」「薬と健康のミニ講話」が開始された。「健康とおくすり相談会」コーナーは待合室では対応できないくらい多くの相談者が訪れたため、午後2時には整理券配布を止め、結局、終了予定の午後3時を軽く超える午後4時終了した。「薬剤師になろう！こども向け調剤体験＆楽しい実験」コーナーは、参加の子供には子供用白衣を着用させ、薬の実験、薬の一包化、薬剤師の仕事紹介、アンケートの記入・回収までの流れで対応した。80余名の子供が体験した。「薬と健康のミニ講話」は、本会の西川常務理事の司会進行で執り行われた。「かかりつけ薬局・薬剤師について」をそうごう薬局安里店の坂口和志氏、「薬物の害について」を本会の知名博樹理事、「薬の正しい使い方」を本会の上原卓朗理事が講話された。熱心な聴講者から質問もあり、活発な質疑応答が交わされ、充実したミニ講話となった。各講話に20余名が聴講していた。

これまでの同フェアの趣向を変え、開催前は企画した関係者も不安視していたが、近年には無い多くの参加者が訪れたことにより、来年の同フェアはもちろん、今後の薬剤師職能の啓発・普及活動の励みになる良い一日となった。

(5) 沖縄県振興審議会 第3・4回福祉保健部会

10月11・30日（金・水）＜資料配布＞

(亀谷会長)

今回は第3回の10月11日と第4回の10月30日の2回分がまとめて行われた。第3回では本会の薬学部創設に向けての活動の紹介があり、第4回では21世紀ビジョンについて議論された。

(6) 令和元年度第3回日本薬剤師会都道府県会長協議会

＜資料配布＞

10月12日（土）シーモールパレス

(亀谷会長)

JPALSに関して、使用した参考資料等を明確に記入しないと認めないなど、今後は審査を厳しくすること。

日本薬剤師会専務理事に、厚生労働省の医薬・生活衛生局監視指導・麻薬対策課長をしていた磯部総一郎氏を就任させることが決定した。山本会長は会長職を続投することである。

(7) 第52回日本薬剤師会学術大会

10月13・14（日・月）山口県下関市＜資料配布＞

(大城次長)

本会から、参加者26名、発表者は3名であった。第80回九州山口薬学大会PRブースにて、試験検査センターの小泉主任技師と広報活動をした。懇親会においても九州山口薬学大会次回開催PRとして、プロモーションビデオの放映および亀谷会長の挨拶があった。

(8) 管理者会議

10月15日（火）県薬＜資料配布＞

(又吉事務局長)

会営薬局うえはらで、台風による雨漏りがおき漏電した。電気屋に直してもらったが、大雨

のたびに漏電が起きる。家主には雨漏りの原因と思われる壁の修繕を依頼したが、改善されていない状況。改めて依頼する前に、責任の配分を確認する。パート事務職員を募集したが、アクション無しであったため、時給を上げ募集をかけ直したところ2名の応募があった。来週にでも面接を行う。

(9) 令和元年度薬事功労者厚生労働大臣表彰

10月15日(火) <資料配布>

(大城次長)

標記表彰を山里勇氏が受賞した。

(10) 令和元年度学校保健および学校安全文部科学大臣表彰

10月16日(水)

(大城次長)

標記表彰を照屋勝健氏が受賞した。

(11) 令和元年度第7回学校薬剤師部会役員会

10月20日(日) 県薬<資料配布>

(知名理事)

10月17日に佐賀県で開催された令和元年度学校環境衛生・薬事研究協議会に参加した。同協議会において、長崎県から、小学生の頃からくすり教育が必要ではないかとの意見があったが、文部科学省から小学生には現段階では必要ないのではないかと返答があったことを役員会で伝えた。

(12) 令和元年度第1回医療安全対策委員会

10月24日(木) 県薬<資料配布>

(中尾理事)

同委員会の役職について、委員長は名嘉紀勝委員、副委員長は島袋さゆり委員、書記は安次富唯委員と中村昌義委員に決定した。令和2年度医療安全講習会を2月9日(日)13時から開催することに決定した。講習内容・講師について各委員から提案してもらうことになった。

(13) 令和元年度第2回財務委員会

10月25日(金) 県薬<資料配布>

(川満副会長)

各事業の収支推移、今後の課題について又吉事務局長が、財務面から各会計の過去からの推移及び、課題・問題点に関する資料の説明をした。同資料を基に、次年度予算作成等を今後の委員会で検討していくことにした。今後、検討すべき事項は次の通り。

<会営薬局うえはら>

①次年度にかけ2～3名の薬剤師の退職者が想定される。早急に薬剤師確保の検討を要する。

②健康サポート薬局モデル薬局ではあるが、後任の認定薬剤師の確保対策が必要。

<会営薬局とよみ>

①次年度夏の豊見城中央病院の移転を控え、今後の抜本的な運営体制見直しが必要。

②健康サポート薬局として、最も好条件であり、その体制づくりを急ぐ必要がある。

<会営薬局医療センター前>

沖縄県立南部医療センターこども医療センターの職務を補完する公的な目的があるが、毎年赤字が膨らんでいるので、更なる補助金受入れ策や、収益改善策を検討する必要がある。

<試験検査センター>

①学校薬剤師の依頼による水質検査等が主な業務となっているが、収益源として新たな分野の開拓を図る必要があるのではないか。

②人件費率がかなり高いので、何らかの見直しが必要ではないか。

(14) 令和元年度学校薬剤師九州ブロック連絡会議

10月26日(土) 鹿児島県薬剤師会館<資料配布>

(亀谷会長)

前濱副会長、村田成夫学校薬剤師部会長と参加した。

(15) 女性薬剤師部会研修会「女性の健康サポートセミナー」 10月27日(日) 県薬<資料配布>

(村田常務理事)

大塚製薬株式会社との共催。参加者は51名。愛媛大学医学系研究科抗加齢医学講座教授の伊賀瀬道也氏を講師に、「エクオール産生能とアンチエイジング～動脈硬化予防、認知症予防の観点から～」の演題で講演いただいた。

(16) 第173回健康とおくすり相談会

10月27日(日) 武富ハイツ自治会館<資料配布>

(盛本理事)

相談員8名、相談者35名であった。通常、相談会には女性が多くみられるが、今回の参加者は男性が多かった。相談員が少ないと、依頼内容等の要望に応えられないことがあるため、より多くの相談員を確保できるように今後考えていきたい。

(17) 令和元年度第1回沖縄県医療保健連合(なごみ会)幹事会・懇談会

10月29日(火) ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー<資料配布>

(亀谷会長)

中村克徳副会長、前濱朋子副会長、川満直紀副会長、金城雄一常務理事、西川裕常務理事、宮城幸枝常務理事と参加した。役員の改選があった。来年の九州山口薬学大会のPRをした。

(18) 令和元年度第3回学術研修委員会

10月29日(火) 県薬<資料配布>

(大城次長)

11月17日開催の第33回沖縄県薬剤師会学術大会について、要旨集の表紙のデザインは、「でいごの花」のイラスト、大会テーマ「モノからヒトへ、薬の先を見据える新時代の展望」に決定。参加申込は現時点で299名である。座長は、永井賢作氏(那覇市立病院)、上里美矢子氏(会営薬局うえはら)、松本圭吾氏(レモン薬局)、橋田律氏(琉球大学医学部付属病院)に決定した。

(19) 令和元年度沖縄県学校保健会表彰審査会

10月31日(木) 県庁<資料配布>

(亀谷会長)

標記表彰に、会員の勢理客由美子氏、座喜味美智子氏、金城守氏が本会から推薦されており、推薦どおりに表彰されることが決定された。

(20) 第80回九州山口薬学大会 進捗状況

<資料配布>

(大城次長)

準備スケジュール表の10月に、第53回日薬大会(北海道開催)を記載したほうがよい。また、同時期に開催される他学会より準備期間が短いため、日程を早めるべきと意見があった。

シンポジウムについて、2時間に縮小することや開始時間を会場毎にずらしてもよいのではと意見があった。

ポスター発表について、2日目の午後に集中しているため、一部を1日目にシフトしてもよいのではと意見があった。

OIST見学ツアーについては、大会会場の参加者が少なくなることも考えられることから、2日目の午後にシフトすべきではないかと意見があった。

(21) その他

<資料配布>

(佐藤常務理事)

令和元年度がんじゅうさびら表彰に、会員の玉城武範氏（ミドリ薬局美里店）が準グランプリ受賞が決定している。明日11月3日に、イオンモール沖縄ライカムで表彰式と受賞作品の発表が行われる。

(中尾理事)

本会ホームページのリニューアルについて、担当している薬事情報センターに、会員管理システムを構築した会社と他社に見積書を提出させ価格に大きな差異が無かったことから、前回理事会でA社を選定することが決定されたが、A社の見積もり間違いや、webサイト構築方法に疑問点が多いため、別会社からも見積書を提出させ改めて選定したい。

報告（薬連）

(1) 玉城デニー沖縄県知事就任1周年激励会 10月28日（月） ロワジールホテル那覇 <資料配布>

(亀谷会長)

前濱幹事長と参加した。玉城デニー沖縄県知事に薬学部創設を要請した。

お知らせ

Facebook をご覧下さい！



下記アドレスより、お待ちしております。ホームページからも閲覧できます。

<https://www.facebook.com/okinawaopa>

令和元年度第10回理事会議事概要

日時：令和元年12月14日（土）19:00～21:00

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

出席者：亀谷浩昌、川満直紀、中村克徳、前濱朋子、金城雄一、佐藤雅美、西川裕、村田美智子、
新垣秀幸、上原卓朗、笠原大吾、幸地良信、古謝真己、島袋さゆり、知名博樹、中尾滋久、
盛本直也、吉田洋史

監事：神谷朝雄

事務局：又吉章元、大城喜仁、稲嶺有紀

欠席者：宮城幸枝、友寄安彦

議題

(1) 日本薬剤師会第94回臨時総会代表質問事項について

（大城次長）

令和2年3月14日に開催される日本薬剤師会第94回臨時総会において、質問事項があれば提出するよう通知がきている。九州山口各県薬剤師会から提出された質問事項は、同総会開催前の2月14日に開催される九州ブロック日本薬剤師会代議員予備会議で精査することになっている。本会から日本薬剤師会への質問事項があれば、次回理事会前の1月5日までに提案していただきたい。提案された質問事項を次回理事会で精査し、九州ブロック日本薬剤師会代議員予備会議に提出したい。

日本薬剤師会への質問事項があれば、次回理事会前の1月5日までに提出すること、提出された質問案は次回理事会で精査することで承認された。

(2) AED保守更新について

＜資料配布＞

（吉田理事）

会営薬局うえはら、会営薬局とよみ、事務局の3か所に設置されているAEDは、購入してから7年経過しており、保守契約も終了間近であるため、新しく購入したい。見積もりは、2社から数パターン提示されている。A社のAEDは、外国製のものであること、小児への対応の際にパットを交換しなければいけなく1分程ロスが生じること、本体にモニターが付いてない等の欠点がある。B社のAEDは、スイッチ切り替えの操作だけで数秒あれば小児対応とすることができること、本体に付いているモニターがパニック時でも目と耳で確認ができること等の利点がある。ちなみに、現在、設置しているAEDは、A社のAEDで、設置してから一度も使用したことがない。以上を踏まえ、審議していただきたい。

挙手による多数決の結果、A社のAEDを購入することで承認された。

(3) 令和元年度薬事功労受賞者合同祝賀会チケット割当について

＜資料配布＞

（大城次長）

薬事功労受賞者合同祝賀会のチケットの割当枚数は毎回、理事会で決定している。同祝賀会は沖縄県薬業連合会の主催で、同連合会の代表者会議にて加入団体である医薬品卸業協会には50枚、医薬品配置協議会には10枚、医薬品登録販売者協会には10枚、本会には110枚、当日販

売用20枚と割り当てられた。チケットは例年通り1枚5000円となっている。本会に割り当てられた110枚は、配布資料に記載されているように各地区薬剤師会、学校薬剤師部会、病院薬剤師部会、行政薬剤師部会に割り振っている。同祝賀会の収入は計200枚のチケット販売額のみであるため、販売に協力いただきたい。

本会に割り当てられたチケット販売枚数の、各地区薬剤師会や各部会への振り分け枚数等について、特に異議無く承認された。

(4) 会営薬局うえはら・とよみにおける事務機器等購入について

＜資料配布＞

(又吉事務局長)

両会営薬局より5件の機器購入依頼がある。消費税込の総額は3,320,180円。資料に基づき購入理由等の説明をした。

その中で、会営薬局うえはらのコピー機については、プリント代1枚あたり1.7円は高過ぎるのではないかと、現場での通常使用枚数を想定するとオーバースペックなのではないかと、意見があり、再度、次回の理事会で検討することとなった。

(5) 賛助会員B会費および正会員会費の未納について

＜資料配布＞

(川満副会長)

事務局による各会費の長期滞納者への納入の働きかけにより、滞納者を大きく減らしている。未納者へ無理のない分割納入等を積極的に行い、今年度の納入率が、現時点で、正会員会費が93.3%、賛助会員B会費が90.7%という前年度に比べ高い納入率となっている。この状況だと年度末には今年度予算を上回り100%以上となる見通しである。

正会費長期滞納会員5人には昨年の同時期に最終請求の通達をしているが、本会定款および会員規程を行使し、総会にて除名措置とするのか、審議していただきたい。除名になれば、5年間は再入会できないことから、自ら退会するように話を進めていく。賛助会員B会費未納で支払いの意思表示が無い開設者、管理薬剤師に請求書を再送付し、退会の意思を求めるが、段階を踏まえ説明することにした。

審議の結果、川満副会長の説明通りに話を進めることで承認された。

(6) 首里城火災復旧・復興支援の募金について

(亀谷会長)

首里城火災復旧・復興支援金を本会から第一弾として50万円を沖縄県に寄附し、同時に会員にFAX一斉同報にて募金をよびかけることを、先日開催された幹事会から提案が出ている。沖縄県医師会の手法を参考にしたい。

特に異議無く全会一致で承認された。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等について

＜資料配布＞

(又吉事務局長)

毎月の定例報告資料である。会営うえはら・とよみは処方箋枚数が減少したものの、薬剤料アップで前年比増収。会営薬局医療センター前は処方箋枚数が大幅にアップしたため前年比増収。

(2) 九州山口若手薬剤師連絡協議会

10月12日(土) 炉端いざか屋日の出丸<資料配布>

(上原理事)

決定事項は前回の大分大会で初めて開催した若手薬剤師によるシンポジウムを継続的に行っていくこと。次年度の沖縄大会でもシンポジウムを開催する方向で一致した。内容、発表者については沖縄県を中心に検討することで任された。内容は若手らしい議題にしていきたい。

各県連絡ツールが無かったためLINEグループを立ち上げ今後連絡を取り合っていく。グループの参加は各県裁量で決定していく。

(3) 令和元年度沖縄県功労者表彰式典及び祝賀会

(亀谷会長)

11月3日(日) パシフィックホテル沖縄<資料配布>

沖縄県は2019年度の功労者として、教育や産業振興、平和・人権推進などの10部門で功績のあった10人を選んだ。今回、薬剤師会関係者はいなかった。

(4) 「地域ケアマネジメント業務相談アドバイザー市町村支援事業」事業促進調整会議

(笠原理事)

11月5日(火) 沖縄県教職員共済会館<資料配布>

報告(26)番と一緒に説明する。

標記事業は沖縄県の事業で、沖縄県理学療法士協会が受託し、市町村で行っている地域ケア会議の業務運営に関する事項を呼びかける内容である。他の職能団体も案を出して呼びかけをした。その結果、報告(26)の会議で各市町村を呼んで声掛けをした。現在のところ伊平屋村・大宜味村・八重瀬町から問合せがあり、今後は薬剤師がどのような事をするか答えていく事になる。

(5) 社会保険診療報酬支払基金幹事会

(亀谷会長)

11月6・11日(水) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部<資料配布>

配付資料をご覧いただきたい。

(6) 令和元年度学校薬剤師学術フォーラム伝達講習会

11月6・28・30日(水・木・土) 県薬・名護中央公民館・薬局えば一わーな〜<資料配布>

(知名理事)

11月6日講師は吉田洋史理事で参加者は26名。11月28日講師は村上市子先生で参加者は6名。11月30日講師は平良恭子先生で参加者は7名であった。

(7) 令和元年度「成分から導き出す、適切なOTC医薬品の選択方法」研修会

(盛本理事)

11月7日(木) 日本薬剤師会<資料配布>

日薬にて通算3回目の研修会になる。第2回目までは主に健康サポート薬局を目指した講習会であるが、今回は薬剤師の責務、法律や医薬品の供給その他、薬事衛生を司る公衆衛生の向上内容。今後、大手ドラッグストアが調剤薬局を併設しているところなので、薬局でもOTC薬の販売・説明をしっかりとっていかないといけない。

(8) 2019年度第2回病院・薬局実務実習九州・山口地区調整機構総会

(佐藤常務理事)

11月7日(木) 福岡県薬剤師会<資料配布>

外間惟夫先生、佐藤常務理事が参加した。2019年度第1期・2期実務実習報告があり、トラブルに関しては、県外で「指導薬剤師のケガや病気による受入施設の変更」の事例が2件。「薬局に強盗が入ったことによる受入施設の変更」等があった。

良い事例として、実習生が服薬指導中に薬剤の財形変更について相談され、学生が中心になって患者のニーズや薬事情報収集等を行い、薬剤の比較・提案・採用を解決する事が出来た。

2020年度実務実習マッチング状況について、沖縄県で合計34名のマッチングが終了した。

(9) 未来の産業人材育成事業 職業人講話

(大城次長)

11月8・21日(金・木) 読谷村立喜名小学校・那覇市立城北小学校<資料配布>

11月8日の読谷村立喜名小学校では笠原理事、11月21日の那覇市立城北小学校では新垣紀子氏が講師をしている。

(笠原理事)

読谷村立喜名小学校6学年生86名が対象で医療産業について話し、分包の実習が行われた。

(10) 令和元年度秋の叙勲等伝達式

11月8日(金) 沖縄県知事公舎レセプションホール

・令和元年度秋の叙勲受章者天皇陛下拝謁

12月13日(金) 皇居宮殿<資料配布>

(大城次長)

江夏監事が旭日双光章を受章した。11月8日は伝達式が県知事公舎で行われ、12月13日には皇居宮殿で叙勲受章者天皇陛下拝謁が行われた。

(11) 令和元年度第1回災害対策委員会

11月8日(金) 県薬<資料配布>

(吉田理事)

委員長は継続で吉田理事、副委員長は継続で姫野耕一、書記は継続で鈴鹿玲子に決定。

「災害時における薬剤師の医療救護活動に関する協定」の策定は内容について進めていく。

沖縄PhDLS研修会について、補助金を出して欲しいと話があったが、前の理事会で補助金は出せない事になったので、どのように支援できるか検討していく。

令和元年度沖縄県災害対策本部設置運営訓練については、委員の中から参加している。

BLS講習会については、昨年度2回行い今年度は年明けに予定をしている。

(12) 令和元年度日本薬剤師会九州ブロック会議・懇親会

(亀谷会長)

11月9日(土) 佐賀県薬剤師会・ホテルニューオータニ佐賀<資料配布>

医薬品販売制度実態把握調査の結果については、芳しくない結果がでており注意していただきたい。

(13) 令和元年度第8回学校薬剤師部会役員会

11月10日(日) 県薬<資料配布>

(知名理事)

学校環境衛生基準の全項目完全実施に向けての検査器具等の買い替え等の費用負担について、県薬で常備している騒音計等の器具類は、学校のために使用するものであり、本来は学校・教育委員会で購入し設置するものだが、実際は県薬が購入し、それで検査を行っているので、

ランニングコストや買い替え等にかかる費用を学校・教育委員会で負担していただけるよう文書を送る事になった。

(14) 第174・175・176・177回健康とおくすり相談会

11月10・23日(日・土)・12月1日(日)

糸満市西崎総合体育館・沖縄セルラーパーク那覇・うるマルシェ・久米島ホテルドーム<資料配布>
(新垣理事)

10月20日の沖縄県と本会共催の相談会に関しては、機器測定に60名、相談に75名の参加があった。図書館側からも好評で沖縄県から次年度は講演室で行うよう調整してもらう事になった。

11月10日糸満市でてくてくウォークにて健康とおくすり相談会を開催した。相談員は3名。てくてくウォークに参加する方たちが午前中に出発したため、健康とおくすり相談会の相談者は1人だけだった。

(盛本理事)

沖縄セルラーパーク那覇の方は、今回はウォークのコースが一つ減ったため、相談者が少なかった。

相談会に来られた方のデータをしっかり取り、病院にかかってない方を病院につなぐような仕組みを作れないか今後、地域保健委員会も含め作成していきたい。

久米島ホテルドームの方は、産業まつりで盛本理事、笠原理事で出向いた。久米島病院の方が主力となり、我々はサポート体制を取らせていただいた。相談者は120名だった。

(佐藤常務理事)

うるマルシェで開催された。相談者は81名。相談員は16名。毎年リピータも増えてきている。

(15) 令和元年度沖縄DMAT・災害拠点病院等連絡会議

11月13日(水) 沖縄県議会<資料配布>

(吉田理事)

委員の鈴鹿先生が参加した。

(16) 沖縄県老人クラブ連合会「リーダー養成研修会」

(佐藤理事)

11月14日(木) 沖縄市老人福祉センター<資料配布>

玉城武範先生が参加した。沖縄県老人クラブ連合会の依頼で「くすりの正しい使い方」について講義した。

薬の服用方法とその根拠を示した薬物血中濃度、相互作用に関しては興味の高さか伺えた。

(17) 第33回沖縄県薬剤師会学術大会・懇親会

(中村副会長)

11月17日(日) 県薬・沖縄県看護協会館<資料配布>

参加者は274名。県薬は198名、病薬75名、非会員1名であった。全て順調に進行された。懇親会では、沖縄県薬剤師会会長表彰に川満副会長を含め5名の会員が受賞された。

(18) スポーツファーマシストのための国民体育大会に関する情報交換研修会

(笠原理事)

11月20日(水) 県薬<資料配布>

大塚製薬株式会社が協賛したLive on Seminarで、第2回、第3回実施した。

(19) 令和元年度第1回沖縄県国民健康保険運営協議会
(大城次長)

11月21日(木) 県庁<資料配布>

宮城常務理事が出席。報告資料をご覧いただきたい。

(20) 第69回全国学校薬剤師大会
(知名理事)

11月21日(木) ホテルブリランテ武蔵野<資料配布>

亀谷会長、知名理事、村田成夫部会長が参加した。

沖縄県から会員の照屋勝健氏が文部科学大臣表彰部門で表彰された。日本薬剤師会学校薬剤師活動協力者感謝状受賞者として、沖縄県教育委員会の又吉美奈子氏が受賞された。

表彰式後には全国から集まった学校薬剤師の交流会があった。

(21) 令和元年度第3回健康サポート薬局推進委員会
(笠原理事)

11月22日(金) 県薬<資料配布>

役員の選任、健康サポート薬局AB研修、「成分から導き出すOTC医薬品の選択方法」研修会などについて話し合いを行った。

(22) 令和元年度第1回健康サポート薬局研修会A・B
(笠原理事)

11月24日(日) 県薬<資料配布>

参加人数は、A研修19名、B研修16名であった。受講証の有効期限が切れた方が半分、新規の受講者が半分であった。今回から研修会内容を運営側と参加者が自己評価をする事となった。

(23) 令和元年度第3回財務委員会
(川満副会長)

11月25日(月) 県薬<資料配布>

審議事項の会費の納入状況については未納者が少なくなっているが、滞納者ゼロに向けてこれからも交渉をしていく。

会営薬局に関して、豊見城中央病院の移転があるので、運営事業について機器等購入も検討事項にあがり、人員配置に関しても考えていかななくてはならない。

(24) 星薬科大学来訪
(佐藤理事)

11月26日(火) 県薬<資料配布>

星薬科大学4名の先生が来訪した。2018年度委託事業である「薬学実務実習の諸課題について調査・研究の結果」についての報告。これは昨年度にこの調査に協力したことで今回の報告になっている。報告書が2つでており、「改訂モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習のための先行導入に関する課題抽出」と「ふるさと・遠距離出身地での実務実習に関する議題抽出」の報告が出来あがった。

その結果をうけ、「地域活性・課題解決アドバンスプログラム構築のためのワークショップ」について沖縄県で開催してほしいとの依頼があった。

ワークショップの開催県として薬科大学が設置されていない12県から沖縄県が第一優先県として決定し、2020年1月26日(日)に開催する事が決定した。

(25) 令和元年度第3回沖縄県自然環境保全審議会
(島袋理事)

11月26日(火) 県庁<資料配布>

「沖縄県自然環境保全審議会」は自然環境の保全に関する重要事項を調査審議する知事の諮問機関で、宮城敦子委員の任期満了に伴い、島袋理事が引き継ぐこととなった。今回の審議内容は「沖縄県希少野生動植物保護条例に係る基本方針の策定について」「温泉掘削許可申請(1件)」「温泉動力装置許可申請(2件)」について審議が行われ、結果は「許可相当」と認められた。

(26) 地域ケアマネジメント業務相談アドバイザー市町村支援事業説明会

11月26日(火) ロワジールホテル那覇<資料配布>

報告(4)番と一緒に説明済み。

(27) 令和元年度第3回薬学生実務実習受入委員会
(佐藤常務理事)

11月27日(水) 県薬<資料配布>

報告事項は九州山口地区調整機構総会の報告。協議事項は2020年1月12日から福岡県で開催されるワークショップの派遣者について最終決定した。また、令和2年度の他地区マッチング状況と、「地域活性・課題解決アドバンスプログラム構築のためのワークショップ」の件を話し合いした。確認事項は2月2日に予定している「指導薬剤師養成・更新講習会」の件と、1月29日に「令和2年度薬学生受入薬局事前説明会」にて福岡県の大学、江川先生によるWEBの評価方法について行うことが決定している。

(28) 令和元年度第2回健康サポート薬局県内100軒実現に向けての研修会

(笠原理事)

11月28日(木) 県薬<資料配布>

今回で3年目になり、OTC導入に関する研修会でメーカー、卸、計6社お呼びしお話をいただいた。今回は去年に比べ遥かに参加者の気合が入っており熱心に全ての会社の説明を聞いていた。参加者は24名だった。

第3回健康サポート薬局県内100軒実現に向けての研修会の開催日が2月6日木曜日に決定し、講師を大阪府薬剤師会副会長、道明雅代先生にお願いした。大阪府薬剤師会の健サポの取り組みについて講義してもらう事になっている。

(29) 令和元年度都道府県薬剤師会アンチ・ドーピング活動担当者研修会

(笠原理事)

11月29日(金) 日本薬剤師会<資料配布>

笠原理事と吉田典子が出席し、禁止表国際基準の変更点について2019年からの変更点は殆どない。

(30) 令和元年度独立行政法人日本スポーツ振興センター学校安全業務運営会議

(知名理事)

11月29日(金) 南部合同庁舎<資料配布>

独立行政法人日本スポーツ振興センターとは学校がかけている保険であり学校内で起きた生徒の事故やケガなどにかかった費用を保険金として出してくれるところとなっている。

報告等で地域の関係団体との連携における学校安全情報について、沖縄県の学校の実情として全都道府県から申請のあった順位は45位。件数は少ないが支払った額は上位から3番目と高かった。沖縄は小さなケガは申請しないで大きなケガだけ申請しているのかとの見解があった。

(31) 令和元年度第1回薬剤師認知症対応力向上研修会

12月1日(日) 県薬<資料配布>

(中尾理事)

参加人数は21名となっている。平成28年度から行っている研修会でテキストの中身はほとんど変わらないが、それに関して変更点もいろいろ出てきているので、沖縄県に確認したところテキストの更新は行わないと国から説明があったとのこと。ただし、演者の医師・行政の方もテキストの中身プラスアルファの事を伝えるようになってきているので少しテキストの内容から逸脱しているが、一度受けた先生も再び参加していただけたと思う。新しいテキストが違う研究班の方で作成している情報もあるので、変更されたテキストが今後提供できる可能性がある。

(32) 令和元年度第2回沖縄県薬業連合会代表者会議

(大城次長)

12月3日(火) ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城<資料配布>

沖縄県薬業連合会加入4団体の代表者が集まり、薬と健康の週間の報告と令和元年度薬事功労受賞者合同祝賀会・新年会について話し合われた。同祝賀会については、薬事功労受賞者の氏名等の確認、招待者の確認、余興・プログラムの決定、各団体のチケットの割当枚数の確認が行われた。

(33) 沖縄科学技術大学院大学訪問

12月4日(水) 沖縄科学技術大学院大学<資料配布>

(村田常務理事)

第80回九州山口薬学大会の特別講演の講師依頼のため、佐藤常務理事と大城次長と一緒に訪問した。

(34) 令和元年度 試験検査センター技術研修会

12月5・6日(木・金) 日本薬剤師会<資料配布>

(知名理事)

日本薬剤師会が行っている試験検査センター技術向上のための研修会となっており、沖縄県薬剤師会からは小泉検査技師が参加した。1日目の研修会にて「錠剤・カプセル状の健康食品の品質等実態調査と健康被害について」の中で、一般の消費者は特定保健用食品・栄養機能食品の区別を明確にできていない。また、形が錠剤やカプセル剤になっているので医薬品と誤認されているものが多い実態があるとの報告を受けた。

(35) 全国健康保険協会（協会けんぽ）沖縄支部との連絡調整会議

(大城次長)

12月5日(木) 県薬<資料配布>

本会から亀谷会長、川満副会長、西川常務理事、又吉事務局長が出席し、協会けんぽ沖縄支部から宮里博史支部長、荒木直彦業務部長、玉城雅人企画総務部長、渡口浩樹企画総務グループ長補佐が出席した。平成28年9月15日に本会と協会けんぽ沖縄支部が、「健康づくり推進のための包括的連携に関する協定」締結したことを受けてこの調整会議が昨年より開催されている。

同協会沖縄支部長から、本会の平成29年度事業所健康診断カルテについて説明があり、健康診断受診率および生活習慣病のリスク保有率は、同業態（沖縄県）、県・全国平均と比較し、いずれも高水準にあり、素晴らしい結果であるとのことである。

議題は、ジェネリック医薬品使用促進の取り組み、平成30年度インセンティブ制度の実績について、資料にて説明があった。広報活動の連携として、本会の事業活動に「ジェネリック医

薬品使用促進」啓発資材の配布、もしくは設置の依頼があった。各地区薬剤師会での「健康とおくすり相談会」や「薬と健康の週間：くすりと健康フェア」等で積極的な啓発を約束した。本会からは、医療費抑制のためのかかりつけ薬局、薬剤師及び健康サポート薬局のPRをした。

(36) 令和元年度第4回広報委員会

12月5日(木) 県薬<資料配布>

(大城次長)

主に、令和元年11.12月号(300号)の編集会議となった。

(37) 令和元年度女性薬剤師部会第29回漢方講座

12月8日(日) 県薬<資料配布>

(村田常務理事)

恒例の漢方講座となっている。参加者数37名。アンケートは32名分の回収があった。内容に関して5の評価が56%、4の評価が41%、2の評価を付けた方が1名いた。来年度、日薬のシラバスの関係があつて講師に薬剤師を迎えて、症例や結果を踏まえた座学も入れていこうと考えている。

(38) スポーツファーマシスト研修会

12月11日(水) 県薬<資料配布>

(笠原理事)

大塚製薬株式会社のLive on Seminar第3回目の報告。ケーススタディー糖質コルチコイドについて研修会を行った。

(39) 沖縄県医療推進協議会

12月11日(水) ダルツリー byヒルトン那覇首里城<資料配布>

(亀谷会長)

沖縄県内の医療団体から39名が出席した。政府に対し「医療関係予算を確保してほしい」と要請する決議文が採択された。

(40) 2019年度第3回地域医療支援病院運営委員会

12月12日(木) 豊見城中央病院<資料配布>

(亀谷会長)

この会は豊見城中央病院との地域連携会議である。新しい豊見城中央病院の建設はスムーズに行われており、来年3月に引き渡し予定とのこと。敷地内に参入する薬局は未定である。また、豊見城中央病院で行っているイベントの中で薬剤師体験コースが2番目に好評で、1番目は手術室の見学とのことであった。

(41) 令和2年度事業計画案の提出について

(大城次長)

各地区薬剤師会・部会・委員会の代表・担当理事へ、令和2年度の事業報告を令和2年1月31日までに提出していただきたい。

(42) その他

(新垣理事)

南部保健所の「健康推進優良事業所」に、豊見城薬局が推薦に挙がっており、そのまま了承されると思う。

共同指導で南部地区の薬局が2回連続であたっているが、何か聞いているか。

(川満副会長)

厚生労働省の決定事項であり、本会では分らない。

(吉田理事)

公衆衛生大会会長表彰に毎年、薬剤師を一人推薦しているが、今回、推薦が間に合わなかったと聞いた。公衆衛生大会会長表彰を受けた後は厚生労働大臣表彰まで繋がるような立派な賞だけに、それがうまくできなかったことについて、会員から叱りを受けた。原因の説明をしていただきたい。

(前濱副会長)

昨年の予備候補者を今年度推薦とし準備を進めていたが、推薦書提出間際にご本人から辞退の連絡がきた。提出期限が迫っていることもあり、新たな人選ができなかった。

報告（薬連）

(1) 令和元年度第3回全国会長・幹事長拡大会議並びに藤井もとゆき君と語る会

(亀谷会長)

11月6日(水) 東京會館<資料配布>

本田顕子氏は新人ながらも前回参院選挙より17,464票増やし、医療系候補の中で上位当選を果たした。得票数のアップした28都道府県中20%以上増加した県は12県、この中に九州山口ブロックだけで5県も含まれている。減少した19県の内20%以上減少した県は5県あり、その中に沖縄県も入っており、残念であった。

3年後の参議院議員選挙に、藤井基之議員は立候補しないことになっているので、新たな候補者を擁立するとのことである。

(2) 令和元年度日本薬剤師連盟九州ブロック協議会 11月9日(土) 佐賀県薬剤師会<資料配布>

(亀谷会長)

九州山口ブロックの選挙の取り組みについて、各県から報告があった。

(3) 西銘恒三郎衆議院安全保障委員会委員長就任激励会

(亀谷会長)

11月23日(土) パシフィックホテル沖縄<資料配布>

石川副幹事長、江夏監事、吉田相談役、又吉事務局長と出席した。

令和元年度第11回理事会議事概要

日時：令和2年1月11日（土）19:00～20:50

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

出席者：亀谷浩昌、中村克徳、前濱朋子、金城雄一、佐藤雅美、西川裕、宮城幸枝、村田美智子
新垣秀幸、笠原大吾、幸地良信、古謝真己、島袋さゆり、知名博樹、友寄安彦、盛本直也

監 事：江夏京子

事務局：大城喜仁、金城佳樹

欠席者：川満直紀、上原卓朗、中尾滋久、吉田洋史

議題

(1) 3月理事会の開催日変更について

（大城次長）

3月理事会の開催予定日である3月第2土曜日の3月14日に、日本薬剤師会第94回臨時総会が開催されることになった。亀谷会長と前濱副会長が同総会に出席することから3月理事会を3月第1土曜日の3月7日に開催したい、と幹事会から提案がある。

特に異議無く全会一致で承認された。

(2) 日本薬剤師会第94回臨時総会代表質問事項について

（亀谷会長）

前回理事会において、質問事項があれば1月5日までに提示していただくこととなっていたが、特に無かったことから、今回は本会から提示しないことにしたい。九州ブロック内の他県薬剤師会からの提示案を優先する。

(3) 令和2・3年度日本薬剤師会代議員選挙・補欠の代議員選挙の実施について <資料配布>

（大城次長）

平成30・31年度（第36期）代議員および補欠代議員の任期が令和2年3月で終了することから、次期令和2・3年度（第37期）代議員並びに補欠代議員を選出するための選挙が行われる。同選挙は、公益社団法人日本薬剤師会代議員選挙規程に基づき、去る11月5日に開催された日本薬剤師会令和元年度第6回理事会にて、各選挙区の選出数やスケジュール等の実施要領が決定されている。沖縄選挙区は代議員2名、補欠代議員1名の選出数、選挙告示日は令和元年12月25日で選挙期日は令和2年3月24日、立候補者から所属の各都道府県薬剤師会への届出期間が告示日から令和2年1月24日までと設定されている。この実施要領は既に日本薬剤師会雑誌に掲載され、会員にも知らされている。

本会は通例として、理事会の承認を経て、その時点の会長と副会長を日本薬剤師会の代議員および補欠代議員に立候補させていた。これに準じて、亀谷浩昌会長と川満直紀副会長を代議員に、前濱朋子副会長を補欠代議員に立候補させることの提案が、幹事会から出されている。

幹事会案について特に異議無く、全会一致で承認された。

(4) その他

＜資料配布＞

(佐藤常務理事)

会員薬局への沖縄総合事務局公正取引室の調査において、平成26年4月1日に消費税が5%から8%に引上げられた際の対応について、『貴社が継続して処方箋の送信業務を受けている事業者に対して支払う平成26年4月1日以後の本件(処方箋送信)業務の対価について、消費税率引上げ分を上乗せすることなく据え置いた』と指摘された。この指摘を受け、平成26年4月1日以後の本件業務対価について、消費税引上げ分を上乗せして令和2年3月末までに、薬局が所在する地区薬剤師会と沖縄県薬剤師会へ支払うことを公正取引委員会より求められている状況にあることを取り急ぎ報告する。各地区薬剤師会と沖縄県薬剤師会への支払額は、配布の不利益額試算表の通りであり、『違反行為が継続している場合、令和元年9月以後も不利益額は増加する。』とも指摘されていることから、取り急ぎ、受け取り意思や今後の対応について確認をとりたい。

(幸地理事)

払わなくてもよい場合にはどのような対応をするべきなのか。

(佐藤常務理事)

公正取引委員会からは、差額分について受け取らないという一筆が必要とのことである。

(亀谷会長)

幹事会では、本会への支払額を受け取らない方向で検討する。地区薬剤師会への支払額については、各地区薬剤師会で検討することを本理事会で協議すべきとの提案である。

幹事会案について特に異議は無く、全会一致で承認された。

(古謝理事)

首里城火災復旧・復興支援金を第一弾として50万円を本会から沖縄県に寄附することで前回理事会において決定したが、宮古地区薬剤師会で話し合った結果、沖縄県医師会と同等額の100万円を寄附するべきという意見となった。ぜひ、再検討していただきたい。

(亀谷会長)

①前回の理事会決定の通りに50万円、②100万円を寄附、③100万円を寄附するが、その内50万円は会員から集めることを目標にする。とりあえず会が立て替えて寄附する、の3案でどれが良いのかを財務委員会に現在の収支状況や決算の見通しを確認させる等して、決定することで良いか。

多種多様な意見が出された中、前記3案を財務委員会の意見を参考に決定することが、賛成多数で承認された。

(大城次長)

寄附は、沖縄県保健医療部長へ届ける形で行う予定である。

報告(会)

(1) 会営薬局の調剤保険料等について

＜資料配布＞

(大城次長)

3会営薬局の調剤保険料月次比較表の確認をしていただきたい。

(2) 令和元年度医療機器販売等の営業所管理者・医療機器修理業の責任技術者に対する継続研修

(大城次長)

12月15日(日) 県薬<資料配布>

参加者177名(会員167名、非会員10名)であった。今後の予定として、1月26日(日)に宮古地区・八重山両地区を午前と午後に行う同日開催を予定している。講師は、吉田理事である。

(3) 令和元年度オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する全国担当者会議

(盛本理事)

12月15日(日) TKP市ヶ谷カンファレンスセンター<資料配布>

地域保健委員会から松本圭五委員と上里美矢子委員が出席。全国で年間3万件中絶手術が行われており、大変な社会問題となっている。厚労省から緊急避妊薬の処方箋を確実に調剤できる体制整備を求められている。そのために、都道府県産婦人科医会と連携し、今年度中に研修会を行う必要がある。研修会開催は、3月15日又は23日に実施予定。今後は、女性薬剤師部会と共催したい。また、研修会受講料について、非会員も参加できる設定にしなければならない為、皆様のご意見を伺いたい。

(亀谷会長)

受講料について九州各県の状況を確認させたところ、概ね3,000円(非会員)が多かった。それを踏まえて理事の意見を伺いたい。

(古謝理事)

広く県民を守る為に、非会員も会員と同等に設定してもよいのではないか。

(亀谷会長)

講師料、資料代、人件費等の経費がかかるため、非会員に少しは負担してもらいたい。九州各県薬剤師会と足並みを揃えて3,000円(非会員)で承認いただきたい。

特に異議なく全会一致で3,000円(非会員)となった。

(村田常務理事)

今回の話を補足すると、4～5年前からレイプ等の望まない妊娠による中絶の際に、迅速に処方できる体制が必要だと言われ始め、女性薬剤師会が厚労省へ働きかけていた。しかし、産婦人科医会からの反対があり中々進展しなかった。女性薬剤師会では、通信教育やスクーリングでピルを取り上げるなどの活動を行い、厚労省へ継続的に働きかけ続けることでようやく実現できた内容である。

(亀谷会長)

産婦人科医会が反対していた理由に、薬局における第1類医薬品販売対応の覆面調査結果が良くないのでとの意見がある。今後、しっかり対応していただきたい。

(4) 令和元年度第9回学校薬剤師部会役員会

12月15日(日) 県薬<資料配布>

(知名理事)

学校薬剤師部会の会費として年間3,000円徴収しているが、長期末納者がみられる。通知を行っても支払いの意思が確認できない場合、学校薬剤師の推薦取消を検討している。また、県薬会員ではない方も推薦取消を検討している。今後、これらの対応について定款の規約の変更を検討している。

(新垣理事)

会費の納入について、忙しい時間帯に電話連絡があり、かけ直してほしいと伝えても、そのまま話を続ける。電話連絡の方法について、検討してほしい。また、県薬会員ではない方もい

るのか。

(前濱副会長)

3年かけて入会の意思を確認し、確認が取れない場合は推薦取消をしている。部会費は、各地区で必要な検査機器や備品の購入、講習会に使用している。電話連絡については、今月中に各地区へ学校薬剤師の推薦を提出しなければならなかった為、ご連絡しました。連絡方法については、検討致します。

(5) 令和元年度第2回医療保険委員会

12月16日(日) 県薬<資料配布>

(宮城理事)

共同指導について、薬局名は公表していない為、取扱注意願います。立ち会いを行ったが、2つの薬局とも大きな問題はなかった。厚労省からの公表を調剤報酬改定説明会にて報告予定している。協議事項について、調剤報酬改定説明会の開催場所をかでな文化センター、開催日時を令和2年3月29日(日)に決定した。また、日薬主催の調剤報酬改定説明会へ吉田委員長と宮城副委員長が出席予定である。

(6) 美ら島レスキュー 2019図上訓練・実動訓練

12月17・18日(火・水) 県庁<資料配布>

(大城次長)

災害対策委員会の鈴鹿委員が出席し、報告書が提出されているので確認いただきたい。

(7) 沖縄県地域包括ケアシステム推進会議第4回認知症施策推進部会

(大城次長)

12月17日(火) 沖縄産業支援センター<資料配布>

担当理事の中尾理事が出席し、報告書が提出されているので確認いただきたい。

(8) 令和元年度第2回地域保健委員会

12月19日(木) 県薬<資料配布>

(盛本理事)

委員長と理事を兼任することになった。また、事業計画に則って各事業の担当者を明確にした。その他の内容については、議事概要を確認いただきたい。

(9) 令和元年度第1回試験センター委員会

12月19日(木) 県薬<資料配布>

(知名理事)

試験検査センターの今後について、又吉事務局長より収支の改善ができるように委員の協力をいただきたいとの要望があった。学校薬剤師の活動以外でも収益になることがあれば積極的にやっていくべきだと確認した。

(10) 2019年度第2回沖縄県認知症疾患医療連携協議会

(大城次長)

12月21日(土) 沖縄県医師会<資料配布>

担当理事の中尾理事が出席した。次回理事会にて報告予定とする。

(11) 令和元年度「子ども医療電話相談事業#8000」に関する協議会

(大城次長)

12月23日(月) 沖縄県医師会<資料配布>

担当理事の吉田理事が出席し、報告書が提出されているので確認いただきたい。

(12) 令和元年度第4回財務委員会

12月23日(月) 県薬<資料配布>

(大城次長)

財務委員会の事業計画案について、大きな変更はないが、「⑤その他、予算・決算に関すること」を追加した。また、事務局正職員の給与見直しについては、平成31年4月分から遡及して、差額分を支給することとなった。

(13) 健康サポート薬局推進委員会小会議

12月23日(月) 県薬<資料配布>

(笠原理事)

日本薬剤師会の「薬剤師の臨床判断に基づく要指導医薬品・一般用医薬品の適正な販売等に関する研修会」に参加した盛本委員、上原委員を中心に、伝達研修会のための打ち合わせを行った。

(14) 第69回沖縄県振興審議会

12月26日(木) 沖縄ハーバービューホテル<資料>P. 57

(亀谷会長)

各部会で挙げた知事への答申意見を総括する会議を行った。その中で、保健医療と人材育成の分野から重要性を増した議題として、「薬剤師が不足していること」が挙げられ、そのために県内国公立大学に創設することにより薬剤師育成に向けた取組みや、県外の薬学生や薬剤師に対する県内での就業を促進する取組みを推進する必要があると記載した。また、離島で勤務する医療従事者に対するICTを活用した資質向上の支援について検討する必要があるとも記載した。

(15) 沖縄県地域包括ケアシステム第2回入退院PT(プロジェクトチーム)会議

(笠原理事)

1月7日(火) 沖縄県医師会<資料配布>

外部団体とのプロジェクトチームであり、県に提出するための入退院支援連携に関する基本指針を決めた。薬剤師もポリファーマシー等で関わる内容となっており、県の方で決定次第話が来ると思われる。

(16) 社会保険診療報酬支払基金幹事会・新年懇談会

(亀谷会長)

1月8日(水) 沖縄県教職員共済会館<資料配布>

オンライン資格確認の導入に向けた医療機関・薬局のシステム整備支援の補助事業があり、利用したい場合は支払基金に問い合わせしてほしい。また、レセプト1件当たりの審査支払手数料について、調剤分は35.90円(前年比マイナス1.20円)となっている。その他の内容については配布資料を確認いただきたい。

(17) 沖縄県歯科医師会新年会並びに叙勲・大臣表彰等受賞合同祝賀会

(亀谷会長)

1月9日(木) ザ・ナハテラス<資料配布>

乾杯の挨拶を任され、その挨拶の中で全身の健康と口腔衛生が深く関わっていることを述べた。また、歯科医師会が長年取り組んでいた口腔衛生に関する条例案について、デニー沖縄県知事の尽力もあり制定に至ったことにも触れ、大いに盛り上がった。

(18) 「地域ケアマネジメント業務相談アドバイザー市町村支援事業」 報告会及び情報交換会

(笠原理事) 1月10日(金) 百味飲食カフーシリウキュウ<資料配布>

地域ケア会議において、薬剤師の関わり方を話し合うだけではなく、市町村の事業において、薬剤師がどのように関わっていくのかを話し合った。そこで、一般の方へ向けた薬の正しい使い方の指導やポリファーマシー対策の為に減薬の相談などの講習会を開催できると述べた。現在、伊平屋村から依頼があり調整中である。

(19) 沖縄県小児保健協会新年会

(亀谷会長) 1月10日(金) ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城<資料配布>

来賓挨拶の場で、薬機法の改正について触れ、投薬後の薬学的ケアが必要であると訴えた。

(20) 沖縄県看護協会受賞祝賀会並びに新年会

(前濱副会長) 1月11日(土) ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城<資料配布>

各医療団体へ薬剤師会を代表し、新年の挨拶をした。

(21) 沖縄県医師会新年祝賀会並びに医事功労者表彰式

(大城次長) 1月11日(土) 沖縄ハーバービューホテル<資料配布>

本日の理事会により、亀谷会長の代理で、川満副会長が出席している。

(22) 令和2年度事業計画案の提出について

<資料配布>

(大城次長)

3月の臨時総会の議題である令和2年度事業計画について、2月理事会で承認を得るために、各委員会・部会は1月31日まで提出していただきたい。

(23) 第80回九州山口薬学大会第3回実行委員会について

(大城次長)

開催日時は1月23日(木) 19:30から、場所は沖縄県薬剤師会館ホールとなっている。病院薬剤師会へ実行委員の推薦を依頼しており、2月理事会にて承認いただく予定としている。また、特別講演候補者リストより同実行委員会にて決定する予定である。

(24) 新規健康サポート薬局について

<資料配布>

(笠原理事)

12月は2軒、届出受理されております。今月は3軒予定しており、今後も推進してまいります。また来月には、健康サポート薬局軒数日本一の大阪府薬剤師会から講師を招聘し、機運を高めていく。

(25) 会営薬局うえはら・とよみにおける事務機器等購入について

<資料配布>

(大城次長)

レセコン端末の購入について、先月の理事会にて6台は多いという意見があったため、現場職員との再検討の結果、5台とすることになった。また、コピー機の購入について、現在別々で使用しているプリンターとFAXを一元化することができ、さらに、円滑な業務遂行ができる

ようにコピー速度を優先しているため、現在使用しているコピー機と同等または、それ以上のスペックが必要であるため、この機種を選定している。以上2点を含め、購入を進めていく。

(26) 事務局長退任について

(大城次長)

諸事情により、12月末日を以て退職している。

報告（薬連）

(1) 衆議院議員ミヤザキ政久法務大臣政務官就任激励会

(亀谷会長)

12月22日(日) ラグナガーデンホテル<資料配布>

宮崎政久議員には、本会の薬学部創設のための活動等でご尽力をいただいているため出席した。他に、吉田久子相談役、前濱朋子幹事長、名嘉紀勝総務が薬剤師連盟から出席した。

(2) 令和2年度新年会（玉城デニー沖縄県知事）

1月2日(木) 沖縄県知事公舎

(亀谷会長)

玉城デニー知事が、公約に薬学部創設を掲げていたこともあり、出席した。

(3) 自由民主党沖縄支部連合会新春の集い

1月7日(火) ロワジールホテル那覇<資料配布>

(亀谷会長)

今年6月に県議会議員選挙があるため、同選挙関係の話題が主であった。前濱幹事長も出席した。

(4) 自由民主党沖縄県第三選挙区支部新春の集い

1月8日(水) 沖縄市民会館<資料配布>

(江夏監事)

自由民主党から沖縄第3選挙区と県議会議員選挙で過半数を当選させようという決起集会でもあった。

令和元年度第12回理事会議事概要

日時：令和2年2月8日（土）19:00～21:15

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

出席者：亀谷浩昌、前濱朋子、川満直紀、金城雄一、佐藤雅美、西川裕、宮城幸枝、村田美智子、
上原卓朗、幸地良信、古謝真己、島袋さゆり、知名博樹、友寄安彦、中尾滋久、盛本直也、
吉田洋史、潮平英郎（学術担当理事代理）

監 事：神谷朝雄

事務局：大城喜仁、宮城豊英

欠席者：中村克徳、新垣秀幸、笠原大吾

議題

(1) 第82回定時総会開催日について

（大城次長）

例年6月の最終日曜日に開催しているが、その最終日曜日の6月28日は日本薬剤師会の第95回定時総会が開催されることになり、亀谷会長と川満副会長が出席するため、前週日曜日の6月21日に第82回定時総会を開催したい、と幹事会からの提案である。

特に異議無く、全会一致で承認された。

(2) 各種委員会委嘱について

＜資料配布＞

（大城次長）

広報委員会から宮本直樹氏、会営薬局委員会から石川恵市氏に委員推薦の提示がある。

特に異議無く全会一致で承認された。

(3) 第81回臨時総会の議案：令和2年度事業計画案について

＜資料配布＞

（大城次長）

第81回臨時総会の議案となる令和2年度事業計画案が、各担当理事・委員会・部会から提出され全て揃った状態であるが、担当分野ではない提案事項についても各々で確認いただきたい。3月の理事会で承認された上で、第81回臨時総会の議案資料とする。

(4) 健康サポート薬局のモデル薬局整備事業基金活用による備品購入について

＜資料配布＞

（盛本理事）

同基金を活用し各種測定機器を購入したい。購入した機器は、会営薬局における地域貢献活動だけでなく、健康とおくすり相談会事業や各薬局への機器貸出することにより、健康サポート薬局を推進することを目的とする。同基金の補助率は3分の2となっているため、総事業費の3分の1は本会が負担する事となる。

（川満副会長）

本理事会で承認されないと、今年度予定していた機器購入費が不要金となり、次年度の予算が大幅に削減されるため承認をいただきたい。

(中尾理事)

既存の機器と同型の機器を購入するのか。同じ測定機器でも違う型だと操作方法が違うこともあり、相談会等で会員の手間となり得る。

(川満副会長)

できるだけ既存の機器と操作方法に差異が無い機器を購入していただきたい。

(吉田理事)

予算より、総事業費の金額が少ないのはどうしてか。

(川満副会長)

事業の執行が遅れたことで人件費等が計上できていない。今後は、沖縄県・担当理事・担当委員会・担当事務員で事業執行スケジュールを共有し、順調に執行できているか確認を行っていく。

以上の意見をふまえ、提示されている各種測定機器を購入することが、賛成多数で承認された。

(5) 沖縄県医師確保計画（案）への意見書について

＜資料配布＞

(大城次長)

平成30年7月の医療法改正に伴い、都道府県において新たに医師確保計画の策定が義務づけられた。県は、県内医療関係者により構成する沖縄県地域医療対策協議会での協議を経て、同計画案を取り纏めて、同計画案について本会にも意見を求めてきている。意見の提出期限は3月4日となっていることから、意見案があれば提案していただきたい。

(亀谷会長)

私案として、現行文案の「県は、医師の業務負担軽減を図るため、看護師特定行為研修に看護師を派遣 する県内医療機関等の派遣に要する経費を補助し、特定行為研修修了看護師の養成を支援します。」に「薬剤師や看護師及び他の医療職種へのタスクシフトの可能性を検討し、実現に向けて取り組みます。」を追記した。意見理由は、「タスクシフトする職種は看護師に限定されるものではなく、広く検討されるべきである。医療の中で薬物の関与する部分は大きい。くすりの専門職である薬剤師の活用をはかるべきである。四病院団体協議会は真っ先に薬剤師へのシフトを挙げている。」とした。

会長が提示した意見案の他に、提案があれば2月末日までに事務局まで提出することとした。

(6) 新たな沖縄振興に向けたアンケート

＜資料配布＞

(大城次長)

沖縄県では、令和3年度に終期を迎える沖縄21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）について、これまでの施策展開による成果と課題について明らかにし、今後の対策の方向性を示すため、全庁をあげて総点検作業に取り組んでいるとのことである。今年度末に総点検作業を終える予定としており、その後、新たな沖縄振興に向けて検討を進めることとしているとのことである。進めるにあたり、保健医療分野について、関係する団体において実施を検討している取組やその取組を推進するにあたって必要な制度の創設・改正等の要望等を把握したいとのことで、本会にも令和4年度以降に実施を検討している取組や取組を推進するにあたって行政に求める役割等に関するアンケート調査が届いている。回答期限は、2月7日となっているが、重要事項となっているため、県の担当課の協力を得て週明け2月12日までに延ばしてもらっている。

る。

(亀谷会長)

提出期限が迫っているため、配布している私案を確認いただきたい。

本会が実施に向けて検討している取組として、①県内国公立大学への薬学部（科）の創設の取組、②県内の薬剤師不足解消の取組、③地域包括ケアシステムの一翼を担う、かかりつけ薬剤師・かかりつけ薬局推進の取組、④健康サポート機能を有した健康サポート薬局増加の取組、⑤高度薬学管理機能を有する薬局に必要な認定薬剤師育成の取組、⑥災害時の医薬品等の確保・流通連携体制の構築の取組、⑦薬物乱用防止教育等への取組、と、既存の取組の継続および拡充を記載した。

①の県内への薬学部（科）創設については、関係省庁及び大学等への要請等の協力及び大学への建設費の補助等の予算措置を、②の薬剤師不足解消の取組から⑦の薬物乱用防止教育までの取組については、予算措置及びその拡充等の役割を求める。①から⑦の取組を効率的かつ効果的に行うためには、行政と民間の一体となった取組が必要であるため、と記載した。①から⑦の取組を行うことにより、県内における薬剤師の育成、県内の薬剤不足の解消、かかりつけ薬剤師・かかりつけ薬局の推進、健康サポート薬局の増加、認定薬剤師の育成、災害時の医薬品等の確保及び流通連携体制の構築、薬物乱用防止教育の推進が図られ、県民の安全で質の高い医療を受ける権利を守り、地域包括ケアシステムの構築等の県民の健康な生活の確保が図られる。

このように、①から⑦の取組は、県民の健康な生活を確保するためであり、行政が積極的に役割を果たし、民間と一体となって取り組む必要があることから、行政に関わる意義や必要性を記載した。

会長案に特に意見は無く、提出期限も迫っていることから、会長案を本会からの回答として提出することが、全会一致で承認された。

(7) 第80回九州山口薬学大会実行委員会

<資料配布>

①委員の委嘱について

(大城次長)

病院薬剤師部会から姫野耕一氏、國分千代氏、徳嶺恵子氏、川平浩子氏、垣花真紀子氏の5氏が、中部地区薬剤師会からは玉城武範氏と石川恵市氏の2氏が、推薦が挙がっている。

特に異議無く全会一致で承認された。

②特別講演について

(大城次長)

去る1月23日の大会実行委員会で、特別講演ⅠとⅡの講師選出において順番付けをし、後日、事務局から順番通りにアポイントをとったところ、特別講演Ⅰには狭間研至氏、特別講演Ⅱ：県民公開講演会にはOIST（沖縄科学技術大学院大学）のヒアリ研究グループが、講演の受諾をされた。特別講演Ⅰの狭間研至氏からは既に「薬剤師が挑むべき3つのタブー～2020年度調剤報酬改定をふまえて～」と演題の提出もされている。

③シンポジウムについて

(大城次長)

同大会実行委員からシンポジウム案を求めているところ、37のシンポジウム案が集まった。10シンポジウムに絞り込むための作業を学術部にあたる選出委員で行いたい。幹事会から、同選出委員として、亀谷会長、中村副会長、金城常務理事、中尾・笠原・吉田各理事、潮平英郎学術研修委員会委員長の提案がある。

幹事会提案の選出委員でシンポジウム検討会議を行うことに、特に異議無く全会一致で承認された。

(中尾理事)

シンポジウム検討会議には、選考事項に推薦理由等の詳細が必須であるため、シンポジウム提案者は提出していただきたい。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等について

＜資料配布＞

(大城次長)

3会営薬局の調剤保険料月次比較表の確認をしていただきたい。

(2) 2019年度第2回沖縄県認知症疾患医療連携協議会 12月21日(土) 沖縄県医師会 <資料配布>

(中尾理事)

先月理事会からの持ち越し報告となる。認知症と診断された在沖外国人等への対応について、医療従事者の負担になっている事が多い。県が医療通訳事業を行っている事を報告した。

(3) 次世代薬剤師指導者研修会 1月12・13日(日・月) TKPカンファレンスセンター<資料配布>

(吉田理事)

病院薬剤師の永井賢作氏と2日間に亘る研修会に参加した。緊急避妊薬や薬機法に関する研修であった。

(4) 令和元年度第2回沖縄県後期高齢者医療制度運営懇話会

(佐藤常務理事)

1月14日(火) 沖縄県高齢者医療広域連合<資料配布>

沖縄県の医療給付費推移について、市町村別の国保の医療費は全国的に見ると低い、後期高齢者医療費となると全国で上位となる。理由は、現役世代は病院で受診しないなどが想定される。多くの医療関係者が揃っている懇話会であるため、報告だけではなく、なにか新たな取組みが出来ないかと佐藤常務理事から提案した。

(5) 日本薬剤師会令和元年度第4回都道府県会長協議会・新年賀詞交歓会

(亀谷会長)

1月15日(水) 日本薬剤師会<資料配布>

山本信夫日本薬剤師会現会長が4選目の出馬を表明した。

保険薬局薬剤師を対象とした初の専門薬剤師制度として「地域薬学ケア専門薬剤師」が今年の8月頃から始まる予定である。

(6) 沖縄県地域包括ケアシステム推進会議第4回在宅医療介護連携部会

1月15日(水) 沖縄県産業支援センター<資料配布>
担当理事の笠原理事が欠席につき、次回に報告とする。

(7) 令和元年度第2回沖縄県医療提供体制協議会
(亀谷会長)

1月17日(金) 県庁<資料配布>

医師確保に特化した協議会である。人口割合で全国平均より本県は上であるが、高齢者が増えていることや若手医師を確保しても数年で県外に転出することから、沖縄県としても医師確保に努めている。同協議会の場において、薬剤師も不足していることを発言した。

(8) 沖縄県医療審議会並びに医療法人部会
(亀谷会長)

1月29日(水) 県議会<資料配布>

提示されている6法人が新たに医療法人として承認された。

(9) 令和元年度第1・4回沖縄県災害医療コーディネート研修会
(吉田理事)

1月18・26日(土・日) 沖縄産業支援センター・宮古合同庁舎<資料配布>

本島開催に鈴鹿玲子氏、宮古島開催に下地睦夫氏が参加した。災害医療に携わる行政職員・保健医療関係者を対象とした、大規模災害時の医療救護活動の調整に関する研修会である。

(10) 令和元年度沖縄県多職種連携ケアマネジメント基盤強化促進事業

「多職種コンソーシアム実践研修会」

1月18日(土) 沖縄県総合福祉センター<資料配布>

担当理事の笠原理事が欠席につき、次回に報告とする。

(11) 沖縄県栄養士会新年会並びに表彰受賞祝賀会 1月18日(土) ノボテル沖縄那覇<資料配布>
亀谷会長が出席した。

(12) 沖縄県放射線技師会新年祝賀会
亀谷会長が出席した。

1月19日(日) パシフィックホテル沖縄<資料配布>

(13) 令和元年度沖縄県薬業連合会合同祝賀会・新年会

(大城次長)

1月19日(日) ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城<資料配布>

旭日双光章を受章された江夏京子氏をはじめとする17名が今年度の薬事功労関連の受賞者で、その祝いに来場された参加者は150名であった。

(14) BLS講習会
(中尾理事)

1月20日(月) 県薬<資料配布>

受講者8名とファシリテーター3名が参加した。今回は成人に対する一時救命処置の講習会を行い、今年度末に小児に対する講習会を計画している。

(15) 管理者会議

1月21日(火) 県薬<資料配布>

(大城次長)

会営薬局の薬剤師が退職を予定しているため、薬剤師確保が急務となっている。会営薬局うえはらから、調剤補助員の採用要望があり、早速、募集をしている。

(川満副会長)

会営薬局の新人薬剤師から年俸制を採用してほしいと要望があるため、財務委員会で検討していきたい。

(16) 令和元年度第2回薬事情報センター委員会

1月21日(火) 県薬<資料配布>

(中尾理事)

クレームは接遇と医療ミスに分類される。その対応等を広く会員に周知するために、接遇を医薬分業対策委員会、医療ミスを医療安全委員会に繋げてはどうかと話が上がった。また、当該施設にもフィードバックしていきたい。

(川満副会長)

那覇地区では、当該薬局に注意もするが、地区薬局にも周知している。県薬も検討してはどうか。

(亀谷会長)

検討していく。

(17) 令和元年度健康おきなわ21推進協議会

1月23日(木) 県庁<資料配布>

(前濱副会長)

令和元年度の取り組み等の報告があった。琉大附属病院の大屋病院長から、薬局で測定機器を活用し、健康相談が出来ることを県民に周知ほしいと話があった。健康サポート薬局及び会員薬局の数軒がその役目を果たしている旨を説明した。

(18) 第80回九州山口薬学大会第3回実行委員会

1月23日(木) 県薬

(大城次長)

前記協議事項で取り上げた内容と同様に、委員委嘱、特別講演、シンポジウムに関する検討が主な内容であった。

(19) 沖縄県へ首里城火災復旧支援金を寄附

1月24日(金) 県庁<資料配布>

(大城次長)

同寄附の第一弾として、沖縄県保健医療部を通し沖縄県へ100万円寄附した。今後は、会員・関係者から5月末日を期限に寄附を募り、6月総会には報告できる計画で予定している。

(20) 令和元年度第2回医療安全対策委員会

1月24日(金) 県薬<資料配布>

(中尾理事)

2月9日に予定している医療安全講習会について当日の流れ等を確認した。

- (21) 令和元年度第4回健康サポート薬局推進委員会 1月24日(金) 県薬<資料配布>
(上原理事)

健康サポート薬局に関連する研修が続くため、その流れについて確認した。在宅同行訪問事業への申込者が予定より少ないため、多くの会員に声掛けをしていく。

- (22) 令和元年度第2回健康サポート薬局研修会A・B 1月26日(日) 県薬<資料配布>
(盛本理事)

A研修17名、B研修18名が参加した。外部講師として他職種を招聘する研修会のため、多職種連携の勉強となるのでぜひ参加してほしい。

- (23) 地域活性・課題解決アドバンスプログラム構築のためのワークショップ 1月26日(日) 県薬<資料配布>
(佐藤常務理事)

令和元年度文部科学省受託事業である。星薬科大学の湯本哲郎氏を講師に招き、全国初となるワークショップを開催した。参加対象者は病院・薬局の若手薬剤師や薬学生が対象であった。

- (24) 令和元年度第10回学校薬剤師部会役員会 1月26日(日) 県薬<資料配布>
(知名理事)

日薬からのアンケートに対する回答を作成した。令和2年度の学校薬剤師の配置を決定した。

- (25) 沖縄県臨床検査技師会受賞祝賀会並びに新年会
1月26日(日) ダブルツリー byヒルトン那覇首里城<資料配布>
亀谷会長が出席した。

- (26) 令和元年度医療機器販売等の営業所管理者・医療機器修理業の責任技術者に対する継続研修
(吉田理事) 1月26日(日) 石垣市健康福祉センター・シモジ薬局<資料配布>

宮古、八重山にて同一日に開催し、宮古地区17名(会員12名、非会員5名)、八重山地区8名(会員5名、非会員3名)が受講した。

- (27) 令和元年度日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー九州ブロック研修会
1月26日(日) 沖縄県体協スポーツ会館<資料配布>
担当理事の笠原理事が欠席につき、次回に報告とする。

- (28) 令和元年度上期監事監査 1月27日(月) 県薬<資料配布>
(川満副会長)

一般会計、収益事業部等について顧問税理士の報告をもとに、監事監査が行われた。
(神谷監事)

江夏監事と共に監査した。特に問題が無かった事を報告する。

- (29) 令和元年度第2回おきなわ津梁ネットワーク運営実行委員会
(吉田理事) 1月27日(月) 沖縄県医師会<資料配布>

薬剤師の参加が少ないが、現在36薬局が登録している。病院診療所は129施設が登録済。登

録者は増加しているが、施設の登録が伸びていない状況である。

(30) 令和元年度第5回広報委員会

1月27日(月) 県薬<資料配布>

(大城次長)

令和2年1・2月号を発行した。令和元年度誌上ギャラリー大賞および優秀賞の選出をした。

(31) 令和元年度第4回沖縄県自然環境保全審議会

1月28日(火) 県庁<資料配布>

(島袋理事)

自然環境の保全に関する重要事項を調査審議する知事の諮問機関である。住民代表として薬剤師が参加している。専門外ではあるが、自然環境保護の力となれるように取り組んでいきたい。

(32) 令和2年度薬学生受入薬局事前説明会

1月29日(水) 県薬<資料配布>

(佐藤常務理事)

指導薬剤師17名が参加した。webシステムの変更点や実務実習におけるハラスメント・トラブル対応について講義があった。

(33) 令和元年度第2回沖縄県国民健康保険運営協議会

1月30日(木) 県庁<資料配布>

(宮城常務理事)

国保運営協議会にて決定された事項の報告があった。また、国保制度改正の動向等について情報提供があった。

(34) 令和元年度会営薬局うえはらの無菌調剤室を共同利用するための説明会

(事務局宮城)

1月30日(木) 会営薬局うえはら<資料配布>

会営薬局うえはらにある無菌室共同利用のための説明会である。参加者は15名であった。

(35) 九州ブロック各県薬会長懇談会

1月31日(金) 福岡県薬剤師会<資料配布>

(亀谷会長)

日本薬剤師会の役員改選に伴い、九州ブロックから田尻泰典氏を副会長に統一推薦することが決定された。

(36) 薬局実務実習受入に関する九州山口地区ブロック会議

(宮城常務理事)

1月31日(金) 福岡県薬剤師会<資料配布>

良い事例・トラブル事例が報告された。受け入れしている薬局・病院の連携が取れていない事が今後の課題となっている。

(37) 第178回健康とおくすり相談会

2月2日(日) サンエー那覇メインプレイス

(盛本理事)

那覇地区薬剤師会主催で開催した。薬剤師相談員9名、相談者30名が参加した。

(38) 認定実務実習指導薬剤師養成更新講習会

2月2日(日) 県薬<資料配布>

(宮城常務理事)

養成講習13名、更新講習5名が参加した。

(39) 令和元年度かかりつけ薬剤師・薬局推進指導者協議会

(西川常務理事)

2月3日(月) 厚生労働省講堂<資料配布>

厚労省から薬機法の改正概要などについて説明があった。かかりつけ薬剤師・薬局に関する地域の取組報告があり、参考となった。

(40) 社会保険診療報酬支払基金幹事会

2月5日(水) 社会保険診療報酬支払基金<資料配布>

(亀谷会長)

定例の業務報告であった。

(41) 第132回那覇市国民健康保険運営協議会

2月5日(水) 那覇市役所<資料配布>

(吉田理事)

年度の事業計画と予算や令和2年度国民健康保険税の賦課限度額等の引き上げ等について報告があった。

(42) 令和元年度第3回健康サポート薬局県内100軒実現に向けての研修会

(事務局宮城)

2月6日(木) 県薬<資料配布>

大阪府薬剤師会副会長の道明雅代氏を講師に招き、健康サポート薬局の活用・推進について、府薬の取り組みを講演してもらった。受講者は33名であった。

(43) 第19回沖縄県健康教育研究大会

2月7日(金) 読谷村鳳ホール<資料配布>

(亀谷会長)

令和元年度文部科学大臣表彰に照屋勝健氏、令和元年度沖縄県健康教育関係表彰に勢理客由美子氏、座喜味美智子氏、金城守氏の学校薬剤師4氏が表彰された。

(44) 令和元年度第4回沖縄県がん診療連携協議会

2月7日(金) 琉球大学医学部<資料配布>

(亀谷会長)

がん患者の生殖機能温存についての取り組みが進んでいるが、自費医療となるため患者の負担が大きく、行政の補助を希望しているがなかなか承認されていない状況である等の意見があった。

(45) オンライン資格確認システム説明会

2月7日(金) 福岡第二合同庁舎<資料配布>

(宮城常務理事)

事務局の長嶺と2名で参加した。オンラインで資格確認可できる他、患者本人の同意のもと、薬剤情報や特定健診情報の閲覧が可能となり、受付、診療・服薬指導において業務の効率化と患者サービスの向上が図られる。

(46) 令和元年度第3回医薬分業対策委員会

2月7日(金) 県薬<資料配布>

(西川常務理事)

おきなわ電子おくすり手帳等について協議した。また、0402通達のガイドラインを作成してほしいと意見が出ているので、沖縄県のマニュアルとして作成を検討している。

(47) 台風15、19号被災会員への義援金募集について

<資料配布>

(吉田理事)

会員から243,083円の募金があり、令和元年12月28日に日薬に全額寄付した。

(48) 学校薬剤師部会員の表彰決定について

<資料配布>

(知名理事)

学校薬剤師部会員の7名と八重山支部(団体の部)で表彰が決定した。八重山支部は、学校薬剤師業務を地区全体で協力して行っており、それらが評価されての受賞である。

(49) 地元紙掲載「知事公約実現目指す(薬学部の設置調査費)」

<資料配布>

(亀谷会長)

県20年度当初予算案として、県内大学への薬学部設置可能性等調査事業に1,191万円が計上された内容の記事が地元紙に掲載された。

(50) その他

(幸地理事)

本年4月から、連続ドラマとしては初めての病院薬剤師を主人公としたドラマが放映されるので報告する。

報告(薬連)

(1) 衆議院議員コクバ幸之助令和2年度新春の集い

1月18日(土) 沖縄県市町村自治会館<資料配布>

神村武之連盟顧問が参加した。

お知らせ

<県薬が会員に販売している印刷物等>

- | | | | |
|--------------|--------------|--|--------|
| ○管理薬剤師業務日報 | 1年分 1冊 600円 | ○薬歴カード | 各1枚 5円 |
| ○処方せん | 100枚 1冊 160円 | (国保(本人・家族) 青色)
(社保(本人) 白色)
(社保(家族) 桃色) | |
| ○お薬手帳カバー | 1枚 22円 | | |
| ○お薬手帳 | | | |
| 薄青色 14ページ | 1冊 12円 | | |
| 薄黄色 34ページ | 1冊 22円 | | |
| ○“マッシュ君”お薬手帳 | 1冊 22円 | | |

※薄青色、薄黄色の2色ありますが、同内容・同頁です。

※表示価格は税抜きです。

令和元年度第13回理事会議事概要

日時：令和2年3月7日（土）19:00～21:15

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

出席者：亀谷浩昌、中村克徳、前濱朋子、川満直紀、金城雄一、佐藤雅美、西川 裕、宮城幸枝、
村田美智子、新垣秀幸、上原卓朗、笠原大吾、幸地良信、古謝真己、島袋さゆり、知名博樹、
友寄安彦、中尾滋久、盛本直也

監 事：江夏京子

事務局：大城喜仁、長嶺勇作

欠席者：吉田洋史

議題

(1) 5月幹事会・理事会の開催日変更について

（大城次長）

月例で、幹事会は第1月曜日、理事会は第2土曜日に開催しているが、5月の幹事会がゴールデンウィーク期間中の5月4日で祝日となるため、2つの開催案（下記）が提示されている。幹事会では、案2で開催したいとのことである。

案1：幹事会5月4日（第1月曜日）→ 5月7日（第1木曜日）

理事会5月9日（第2土曜日）→ 5月9日（第2土曜日）※変更なし

案2：幹事会5月4日（第1月曜日）→ 5月11日（第2月曜日）

理事会5月9日（第2土曜日）→ 5月16日（第3土曜日）

幹事会推薦の案2で開催することに、特に異議無く、全会一致で承認された。

(2) 令和元年度沖縄平和賞支援募金の協力について

＜資料配布＞

（大城次長）

玉城デニー沖縄県知事が会長となっている沖縄平和賞委員会より、標記協力依頼が届いている。同賞を県民参加型の顕彰制度として発展させる趣旨から、副賞となる賞金は募金で賄うことを目指し、平成15年から募金事業を実施しているとのことである。参考までに、沖縄県医師会と同委員会の委員として委嘱され、毎年5万円を寄附しているとのことである。先の幹事会では、2万円寄附の提案がある。

幹事会が提案した2万円を寄附することで、特に異議無く、全会一致で承認された。

(3) 第80回九州山口薬学大会実行委員会の委員委嘱について

＜資料配布＞

（大城次長）

荒井千春、伊佐川サヤカ、草壁瑞枝の3氏の同大会実行委員への推薦がある。荒井氏は本会の元在宅医療担当理事で、小児医療関連シンポジウムの提案者。伊佐川氏と草壁氏は女性薬剤師部会からの推薦である。

特に異議無く、全会一致で承認された。

(4) 委員会委嘱について

＜資料配布＞

(大城次長)

去る3月4日に、会営薬局移転検討特別委員会が、現時点で委嘱された委員が亀谷会長の招集により、開催された。同特別委員会の設置要綱により、委員構成は、「定数10名以内」、「委員長、副委員長、書記を各一人置く」「委員会の開催は必要に応じて会長が招集する」と記載されていることもあり、委員長を亀谷会長とし、副委員長は互選で川満副会長とした。書記は事務局が担う。副会長を構成要員とすべきであるという意見により、前期から委員である川満副会長（財務担当理事）に加え、前期の江夏京子前副会長）に代わり前濱副会長を委嘱したい。中村副会長は琉球大学医学部附属病院薬剤部長であり、その関連性から難しいと思われる。同病院以外の病院薬剤師からの意見も必要であるとのことで、病院薬剤師部会代表理事の金城常務理事を委嘱したい。同委員会の職務内容を「琉球大学医学部附属病院移転に伴う会営薬局うえはらの移転について検討する」となったことから、同病院の移転先が宜野湾市であることにより、前期の南部地区薬剤師会の枠を中部地区薬剤師会とし、同地区会長の普久原隆氏と宜野湾支部のぎのわん健康支援センターの沖山勝彦氏を委嘱したい。会営薬局うえはらの新薬局長もしくは管理薬剤師の枠を設ける。退職が決まっている現薬局長の仲真良重氏は、これまでの薬局長としての長い経験もあることから、今期も委員として委嘱したい。前期から委員となっている神村武之相談役は、相談役という役職であることから委員構成要因としない。前期より委員である吉田理事は継続して委嘱したい。残り1枠は、移転検討に相応しい適任とされる会員のための枠とする。

同委員会より、以上の委員構成10枠9氏について、委員委嘱の承認をいただきたいとのことである。

特に異議無く、全会一致で承認された。

(5) 琉球大学医学部附属病院の移転に伴う会営薬局うえはらの移転検討について

＜資料配布＞

(大城次長)

標記議案も去る3月4日に開催された会営薬局移転検討特別委員会からである。

平成30年6月の理事会における、豊見城中央病院の移転に伴う会営薬局とよみの移転検討の際に、「本会の収益事業にあたる会営薬局について、門前の医療機関が移転することで、一緒に移転するかどうかを協議事項とすべきか」を全国公益法人協会へ平成30年5月に問い合わせている。

問い合わせ内容、回答は次のとおり。質問内容は、①一緒に移転する。②移転せずに既存で残る。概ねこの2ケースで検討しており、いずれにおいても理事会の承認は必要と考えているが、総会事項（報告および議案）として取り扱うべきか。本会定款、定款施行規則を添付して質問している。回答は、同協会弁護士からメールによる回答で、一般社団法人法の90条4項4号の解釈によるものとなっている。①移転する場合は、理事会の承認は必要だが、総会への承認は必要無し。②移転せずに既存で残る場合は、現状維持のため理事会の承認および総会への承認は必要無し。これを考慮すると、豊見城中央病院の移転に伴う会営薬局とよみの移転については、総会での承認は必要無いということになるが、同病院から本会宛てに「調剤薬局運営事業における優先交渉権」について応募通知があったため、「優先交渉権に応募し、今後の状況を見極めながら交渉していくこととする。」ことで、当時の総会の議題（報告事項）とした。

これらをふまえ、「今回の琉球大学医学部附属病院の移転に伴う会営薬局うえはらの移転については、“移転に向けて活動していく”ことの承認を3月理事会で得て、今後の状況を見極め

ながら（情報を得ながら）、6月開催の定時総会で“会営薬局うえはらの移転について”という議題（報告事項）にすることを予定する。」と、同委員会から提案がある。

会営薬局特別検討委員会の提案通り、“移転に向けて活動していく”ことで、特に異議無く、賛成多数で承認された。また、6月開催の定時総会で“会営薬局うえはらの移転について”という議題（報告事項）にすることを予定することについても承認を得た。

(6) 会営薬局とよみの移転積立金（特定預金積立）について

（大城次長）

標記議案も去る3月4日に開催された会営薬局移転検討特別委員会からである。

去る2月21日開催の財務委員会で、会営薬局とよみの移転積立金をストップし、会営薬局うえはらで年1,000万円の移転積立をしていくことにしたことについて、当会顧問税理士にこれまでの会営薬局とよみ移転積立金を会営薬局うえはらへ貸し付けして問題ないか。また、どのタイミングで貸し付けた方がよいのかを確認をしたところ、同積立金を現状のまま残し、会営薬局うえはらに貸し付けしてよいこと、振替のタイミングは、現時点でも、会営薬局うえはらが移転する時でもどちらでも可能との回答を得た。

これらを事由に、「3月開催の臨時総会の議題（報告事項）とする。」という、同委員会から提案通りでよいか。

特に異議無く、賛成多数で承認された。

(7) 予備代議員の再選出について

＜資料配布＞

（大城次長）

今期の予備代議員は既に昨年6月16日開催の第80回臨時総会において選任されたが、その後、宜野湾支部の小嶺幸徳氏と平良支部の方智子氏の2氏が物故会員となった。これにより、同選挙区から、宜野湾支部より新川祐作氏、平良支部より下地睦夫氏の2氏が選出されてきた。

選挙管理委員会の野崎真敏委員長から、代議員選挙規程第20条により、総会で選任いただくために、本理事会にて承認をいただきたいとのことである。

特に異議なく、全会一致で承認された。

(8) 第81回臨時総会について

＜資料配布＞

（大城次長）

提示された標記総会の議題案について、報告第1号：令和2年度事業計画について、報告第2号：令和2年度歳入歳出予算について、議案第1号：令和2年度会費額に関する件、議案第2号：一般社団法人沖縄県薬剤師会予備代議員の選任について、に加え、本理事会で先ほど議決された、「会営薬局とよみの移転積立金（特定預金積立）について」を報告第3号とし、以上を正式に標記総会の議題としてよいか。

特に異議なく、全会一致で承認された。

(9) 新型コロナウイルスによる第81回臨時総会開催自粛について

＜資料配布＞

（大城次長）

今般、内閣府大臣官房公益法人行政担当室長より、公益社団・公益財団代表者（日本薬剤師会 山本信夫会長）宛てに「新型コロナウイルス感染症の発生を踏まえたイベント等の開催に

について」協力依頼の通知があり、これを踏まえ、日本薬剤師会は主催する会議（全国担当者会議、研修会）等の開催について、①この時期における開催の必要性が高いかどうか。また、開催することで何らかの社会的損害を与えることがありうるか。②会合等を行う上で重要な役割を果たす方が代理も見つからず、欠席になってしまうかどうか。③会合等に参加する方々の欠席が相次ぎ、一定の割合を超える見込みになっているかどうか、の以上3点を踏まえ検討し、開催するもの、中止するもの、参加のあり方等について見解を示し、各都道府県薬剤師会へ通達している。

幹事会では、この通達に準拠したうえで、「海外渡航者（武漢等）、感染者への濃厚接触者、発熱（微熱を含む）や、風邪様症状がある、体調に不安がある場合等は、参加の自粛を要請する。また、参加に際しては、マスク着用や手指消毒等の感染予防を心掛け、濃厚接触を避けていただく。手指消毒薬は本会館入口に設置されている。」を代議員宛の開催案内文に記載し、第81回臨時総会を開催したいとの提案である。

感染予防対策を十分に行った上で、幹事会提案の通り開催することに、賛成多数で承認された。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等について

＜資料配布＞

（大城次長）

3会営薬局の調剤保険料月次比較表の確認をしていただきたい。

(2) 沖縄県地域包括ケアシステム推進会議第4回在宅医療介護連携部会

（笠原理事）

1月15日（水）沖縄県産業支援センター＜資料配布＞

沖縄県における入退院支援連携に関する多職種連携の会議となっている。

(3) 令和元年度沖縄県多職種連携ケアマネジメント基盤強化促進事業

「多職種コンソーシアム実践研修会」

1月18日（土）沖縄県総合福祉センター＜資料配布＞

（笠原理事）

各市町村の地域で開催されている、地域ケア会議に参加した際にどのように助言すべきか等を学ぶ研修会である。また、本会から助言者に私、副助言者に石田浩先生、長瀬涼先生が参加した。

(4) 令和元年度日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー九州ブロック研修会

（笠原理事）

1月26日（日）沖縄県体協スポーツ会館＜資料配布＞

DI委員会の吉田典子委員と共に「スポーツにおける薬とサプリ領域の必要な知識と沖縄の現状」と題して、アンチドーピングについて講演を行った。

(5) 令和元年度医療安全講習会

2月9日（日）県薬＜資料配布＞

（中尾理事）

114名の方が参加した。講義1では「官民一体となったテロ対策の推進について」、講義2では「薬局における事故・過誤の事例」の講義を行った。

(6) 青年薬剤師部会主催米軍基地内海軍病院視察 2月11日(火)米軍基地内海軍病院<資料配布>
(上原理事)

13名の方が参加した。参加者から海軍病院薬剤師へ質問したり、海軍病院薬剤師から参加者へ質問をする場面も見られた。また、視察終了後には、案内人の方と共に基地内のレストランで食事をするなど有意義な視察ツアーとなった。

(7) 沖縄県交通遺児育成会募金贈呈式 2月12日(水)琉球新報社<資料配布>
(亀谷会長)

昨年同様、本会からは50,000円を寄附し、四師会で計701,831円を寄附した。

(8) 令和元年度沖縄県自殺対策連絡協議会 2月12日(水)県庁<資料配布>
(島袋理事)

初めに自殺対策基本法の説明があった。次に県内の自殺者数の報告があった。平成10年から平成23年までは、14年連続で300人を超えていたが、年々減少し、平成30年は男性172人、女性49人で合計221人であった。また、前担当理事の村田先生から提案した「つなぐシート」は現在、県が主体となって活用に向けて動いている。

(9) 日本医薬品卸勤務薬剤師会福岡県支部令和元年度第38回継続研修会
(島袋理事) 2月13日(木)福岡生活衛生食品会館<資料配布>

ダイコー沖縄の前原律子氏が出席した。報告は別紙をご覧ください。

(10) 令和元年度沖縄DMAT災害拠点病院連絡会議・災害医療マニュアル検討会議
(長嶺主任) 2月13日(木)八汐荘<資料配布>

災害対策委員の鈴鹿玲子氏が出席した。報告は別紙をご覧ください。

(11) 第80回九州山口薬学大会シンポジウム検討会議 2月13日(木)県薬<資料配布>
(大城次長)

同大会の実行委員から提案のあった39のシンポジウム案より、事前に潮平英郎学術研修会委員長が10シンポジウムに絞り込んだ案を参考に絞り込んだ。決定した10シンポジウムの担当理事は基調講演の講師から内諾を得ていただきたい。

(12) 第3回九州山口各県薬代表者会議・日薬九州ブロック代議員予備会議
(亀谷会長) 2月14日(金)福岡県薬剤師会<資料配布>

前濱副会長と出席した。主に、今年、沖縄県で開催される第80回九州山口薬学大会について話し合われた。

(13) 令和元年度薬剤師継続学習通信教育講座スクーリング 2月16日(日)県薬<資料配布>
(村田常務理事)

48人の方が受講した。毎年新しい内容をテーマに開催している。また、受講生のほとんどが、講義内容の評価について、最も高い5および4の評価であった。

(14) 令和元年度第11回学校薬剤師部会役員会

2月16日(日) 県薬<資料配布>

(知名理事)

学校薬剤師の報酬の件と次年度の学校薬剤師の配置について協議した。また、今月で試薬処理費の支払いが終了するので、寄付を頂いた皆様には心より感謝申しあげる。

(15) 山口東京理科大学来訪

2月18日(火) 県薬<資料配布>

(亀谷会長)

佐藤常務理事と対応した。同大学の池北雅彦理事長、黒川陽介薬学部教授が来訪され、同薬学部の入試状況等の説明があった後に、沖縄県における実務実習受け入れ状況および受け入れ方法を報告した。

(16) 令和元年度第5回健康サポート薬局推進委員会

2月19日(水) 県薬<資料配布>

(笠原理事)

同委員会で開催予定の研修会の確認を行った。在宅同行訪問見学研修事業について、講師の人数が少ないことから、受講希望者とのマッチングが難しいので講師を募っていききたい。健康サポート薬局モデル事業にて購入した機器については、機器の説明会と勉強会をセットで今後は行っていききたい。

(17) 令和元年度日本薬剤師会学校薬剤師部会全国担当者会議

(知名理事)

2月20日(木) 日本薬剤師会<資料配布>

村田成夫学校薬剤師部会長と出席した。「発達障害と室内音環境について」、「学校での普及が進むLED照明について 安全性と省エネ性」についての講義があり、日本薬剤師会学校薬剤師部会より「今期の学校薬剤師部会の活動等について」説明があった。

(18) 令和元年度日本薬剤師会研究倫理に関する全国会議

(大城次長)

2月21日(金) 日本薬剤師会<資料配布>

学術研修委員会の潮平英郎委員長、事務局の金城と出席してきた。臨床研究に必要な用語の知識や倫理審査のポイントなどの講義の後に、全体討論を行い、意見交換も行われた。

(19) 令和元年度第5回財務委員会

2月21日(金) 県薬<資料配布>

(川満副会長)

令和元年度上期監事監査報告、令和2年度会費額、令和2年度予算、職員等の給与について協議した。

(20) 第2回新型コロナウイルス感染症に係る沖縄県医師会専門家会議

(亀谷会長)

2月22日(土) 沖縄県医師会館<資料配布>

新型コロナウイルス感染予防対策に係る会議であった。医療機関において新型コロナウイルス感染症疑いの処方箋があった際には、関係する近隣薬局に対しても事前に情報提供を行っていただきたい旨を発言した。

(21) 第179回健康とおくすり相談会

2月23日(日) 川平公民館

(幸地理事)

年に1回おくすり相談会を開催している。薬剤師9名、保健師1名、管理栄養士2名、歯科衛生士2名と他職種の方にも協力していただいた。

(22) 多職種連携会議(八重山)

2月23日(日) 川平公民館<資料配布>

(笠原理事)

上記、健康とおくすり相談会の後に、訪問薬剤管理について協議した。薬剤師はなかなか人手不足で訪問できていない現状があり、管理栄養士と歯科衛生士の方たちも訪問は出来ていないとの事であった。今後は、地域包括支援センター職員なども含めた多職種による研修会の開催を行い、連携の重要性を論じたり、実際に本島で行っている同行訪問事業などの活用も視野に入れて進めていくことを確認した。

(23) 薬剤師の臨床判断に基づく要指導医薬品・一般用医薬品の適正な販売等に関する研修会

(盛本理事)

2月23日(日) 県薬<資料配布>

27名の方が参加した。要指導医薬品・一般用医薬品の購入を目的に来局した消費者の訴えから一般用医薬品の使用・選択方法や受診勧奨などの判断力を踏まえ、要指導医薬品・一般用医薬品の選択能力の向上を目的として、その考え方や方法を学ぶ実践型のDVD研修を開催した。

(24) 令和2年度第1期薬学生実務実習オリエンテーション

2月25日(火) 県薬<資料配布>

(佐藤常務理事)

第1期の薬学生は11名である。「薬局実務実習の11週間」、「トラブルのない実習を！」の講義の後に、外部実習についてお知らせした。その後は指導薬剤師と実習生の自己紹介を行い、写真撮影と薬剤師会館の見学を行った。

(25) 沖縄県老人クラブ連合会令和元年度「健康づくり支援事業」第2回推進委員会

(長嶺主任)

2月25日(火) 沖縄県総合福祉センター<資料配布>

盛本理事の代理で出席した。今年度のリーダー養成講習会は、対象地域を中部地区として実施し、34名の参加があった。講師には中部地区薬剤師会より玉城武範氏が「くすりの正しい使い方」を講演した。次年度の対象地域は宮古地区となっているので依頼があった際には、宮古地区の先生方にご協力いただきたい。

(26) オンライン診療に係る緊急避妊薬の調剤に関する研修会打合せ

(盛本理事)

2月25日(火) 県薬<資料配布>

3月22日に開催を予定しているが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、医師会の見解を尊重する。開催が延期になった場合には5月17日に開催できないか依頼する予定である。

(27) 日本薬科機器協会来訪

2月27日(木) 県薬<資料配布>

(大城次長)

第80回九州山口薬学大会の付設薬科機器展示会についての申し合わせ事項の確認を行った。

(28) 令和元年度第2回地区薬剤師会会長会議

3月1日(日) 県薬<資料配布>

(亀谷会長)

次第に沿って順調に進行した。次回から開催時間を午前10時から開催することになった。

(29) 令和元年度第2回災害対策委員会

3月2日(月) 県薬<資料配布>

(中尾理事)

県薬ホームページに新型コロナウイルス感染症関連を開設したので、新しい情報が入り次第、随時更新していく。3月12日に沖縄県医薬品卸売業協会に加盟している県内医薬品卸と情報交換会を開催する。

(30) 令和元年度第1回会営薬局移転検討特別委員会

3月4日(水) 県薬

協議事項(4)(5)(6)に記載。

(31) 一般医薬品セルフメディケーション復興財団における令和2年度助成公募について

(長嶺主任)

<資料配布>

一般用医薬品セルフメディケーション復興財団から次年度の助成公募の案内が届いている。各地区、委員会にて検討していただきたい。事業の募集期間は4月30日までとなっている。

(32) 知事所信表明

<資料配布>

(大城次長)

去る2月14日付け沖縄タイムスに、知事所信表明の記事が掲載されており、その中で、「薬剤師確保については、薬剤師の需給予測及び県内国公立薬学部設置の可能性等について調査してまいります」と掲載されていた。

(33) 令和元年度事業報告提出期限について

(大城次長)

各地区薬剤師会・部会・委員会の代表・担当理事へ、令和元年度の事業報告を4月17日までに提出していただきたい。

(34) 第81回臨時総会開催

(日時：令和2年3月22日(日) 13:00～)の通知<資料配布>

(大城次長)

去る2月28日に同総会の開催通知を代議員あてに発送した。出欠の回答期日は3月16日までとしている。特に、地区薬剤師会で代議員に声かけしていただきたい。

(35) その他

(中尾理事)

県薬ホームページのリニューアルについて、A社とB社、その他数社で検討していたが、B社に依頼することが決まった。現状はトップページのレイアウトを待っている状況である。

(江夏監事)

各担当理事からの報告を聞き、しっかりと事業が遂行出来ていると感じた。また、第80回九州山口薬学大会や会営薬局うえはら移転の件もあるが、一丸となって成功させよう。

令和2年度第1回理事会議事概要

日時：令和2年4月11日（土）19:00～21:45

場所：沖縄県薬剤師会館 ホール

出席者：亀谷浩昌、中村克徳、前濱朋子、川満直紀、村田美智子、金城雄一、佐藤雅美、西川 裕、
宮城幸枝、盛本直也、新垣秀幸、古謝真己、吉田洋史、笠原大吾、中尾滋久、知名博樹、
上原卓朗

監 事：神谷朝雄

事務局：大城喜仁、稲嶺有紀

欠席者：幸地良信、島袋さゆり、友寄安彦

議題

(1) 沖縄県薬剤師会謝金支払規程について

<資料配布>

(大城次長)

沖縄県保健医療部衛生薬務課による各種補助・委託事業の確認検査が行われた際に、講師等の謝金の基準額が事業毎で統一されていないこと、本会の謝金支払規程通りに支払われていないこと等で、誰が講師等への支払額を決定したのかとの指摘があったことにより、同規程の見直しを行いたい。ちなみに、同規程の改案には検査を行った同課からも協力をいただいた。

同規程第3条に、「(1) 総会、(2) 研修、(3) 講演会・シンポジウム、(4) その他講師等謝金の支払いを必要とする事業」の4事業における講演、講義、発言、コーディネート等に対して謝金を支払うことができると掲げられている。謝金等の額については、同規程第4条第2項に「第3条に該当しない謝金については、第4条第1項に記載の別表に掲げる基準額等を踏まえ、当該事業を所掌する担当理事等が、予算の範囲において、その都度決定することができる。」と掲げられており、担当理事等がその都度決定することができることになっている。

改案では、第4条第2項に「第3条(1)～(3)に該当する謝金については、第4条第1項に記載の別表に掲げる基準額等を踏まえ、当該事業を所掌する担当理事及び担当委員会にて予算の範囲において、その都度決定することができる。」ことと、第4条第3項に「第3条(4)に該当する謝金については、前記2項に準ずるが、当該事業を所掌する担当理事及び担当委員会委員長は予算の範囲内において、会長に提案し承認をもらうこととする。但し、別表に掲げる基準額を上回る際には、理事会にて承認を得なければならない。」と掲げ、第3条の(1)から(3)講師等と、(4)の講師等への謝金額支払いの決定方法を変えている。

この改案について、特に意見も無く、全員挙手にて承認された。

(2) 第82回定時総会までのスケジュール及び地区薬剤師会代表質問の順番について<資料配布>

(大城次長)

去る4月6日開催の幹事会から、同総会用の資料の発送日について、5月16日理事会で資料内容の承認を得た後の5月20日（水）とすること、そして、地区薬剤師会代表質問の提出日について、質問および回答内容を査定する6月8日（月）開催の幹事会前の6月3日（水）迄にすること。また、地区薬剤師会代表質問の順番については、例年通り、平等性を保持するために、昨年の総会の前半3地区薬剤師会と後半の3地区薬剤師会を入れ替え、各3地区でくじ引きをして

決定したいとの提案がある。

幹事会提案の各設定日およびくじ引きによる質問の順番の決定について、特に異議無く承認された。

地区薬剤師会代表質問の順番は、①中部地区、②宮古地区、③那覇地区、④南部地区、⑤北部地区、⑥八重山地区となった。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等について

＜資料配布＞

（大城次長）

昨年度の会営薬局うえはら、会営薬局とよみ、会営薬局医療センター前の調剤保険料等になる。資料を確認いただきたい。

(2) 第80回九州山口薬学大会進捗報告

＜資料配布＞

（中村副会長）

現時点で、本大会の開催は危うい。九州山口薬学会の会議にて現状報告をすることになっているので、現段階の資料に基づいて、web会議で報告したいと思っている。

（大城次長）

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、協賛の申し込みが来ない。これにより、協賛の申し込み締め切りを3月末日から5月末日まで延期とした。

（古謝理事）

本大会を中止するか否かはいつ決まるのか。また、キャンセル料はいつから発生するのか。

（大城次長）

日本薬剤師会学術大会は、本大会よりも1ヶ月以上前の開催日となっているが、特に中止とするような情報は無い。会場のキャンセル料についてはコンベンションセンター管理社となった当大会運営事務局のコンベンションリンケージが考慮することである。キャンセル料の発生時期は未定。

（佐藤常務理事）

学生フォーラムの第5会場は、収容できる人数が少ないため、同日同時間帯のシンポジウム10の第6会場と替えられないか。

（中尾理事）

シンポジウム10を担当しているが、第6会場から第5会場へ替えても問題無い。

（金城常務理事）

シンポジウム1のタイトルを変更したいので、近日中に提出する。

（盛本理事）

テーマが定まっていなかったシンポジウム2のテーマは、同シンポジウムの担当者間で何度か話し合い、「小児医療」とすることに決定した。

（大城次長）

以上により、これでようやくインフォメーションが発行できる。

(3) 「薬学教育の改善・充実に係る調査研究」シンポジウム

＜資料配布＞

（亀谷会長）

3月8日（日）星薬科大学

星薬科が中心となって行っている政府からの補助事業で、今年の1月26日に本会で行った「ア

「ドバンストふるさと実習」の報告のビデオを作成したり、文案を決定するための会議だった。今年度の事業内容で伊江島にて実習を行う話も出ていたが、具体的な事は本会にまだ情報が入っていない。

(4) 令和元年度第3回医療保険委員会

3月9日(月) 県薬<資料配布>

(宮城常務理事)

オンライン資格確認システムについては、2月の理事会で報告した内容を委員会でも報告した。

調剤報酬改定説明会については、開催できないことが決定したので、動画撮りのスケジュール等の話し合いを行った。

(5) 災害時における医薬品等供給に関する情報交換会

3月12日(木) 県薬<資料配布>

(吉田理事)

沖縄県医師会から災害時に医薬品や衛生材料等に関して薬剤師会で一括管理して欲しいとの依頼を以前より受けていたことから、今回、卸会社との情報交換会を開催した。第80回九州山口薬学大会で医薬品供給のシンポジウムを開催することもあり、次年度に沖縄県から予算を取って卸会社との連携を進めていこうと思う。

(6) 日本薬剤師会第94回臨時総会

3月14・15日(土・日) ホテルイースト21東京<資料配布>

(亀谷会長)

山本信夫氏が会長に再選された。副会長には九州山口地区から田尻泰典氏と宮崎長一郎氏の2人が当選した。

(7) 令和元年度第3回給食センター衛生検査研修会

3月19日(木) 県薬<資料配布>

(知名理事)

給食センター衛生検査第3回目の報告を笠原理事にしてもらった。ATP検査を行うにあたり、試験検査センターから機材を借り、サンプルを使用して検査を行った。受講者は14名だった。

(8) 令和元年度第12回学校薬剤師部会役員会

3月22日(日) 県薬<資料配布>

(知名理事)

本部会の総会日の選定を行った。また、学校給食センター衛生検査の周知案内文の送付等を作成した。

(9) 沖縄県薬剤師会第81回臨時総会

3月22日(日) 県薬<資料配布>

(大城次長)

配布の議事概要を確認頂きたい。

(10) 沖縄県保健医療部保健医療総務課来訪

3月23日(月) 県薬<資料配布>

(亀谷会長)

沖縄県外来医療計画案への意見が求められ、現行文案に対し、修正意見と修正理由を提出していたところ、同課から県の対応方針の説明のために来訪があった。現行文案は、「県民に対

して、子どもの急な病気や怪我等に関する子ども医療電話相談（＃8000）の周知及び利用促進並びに救急医療の適正利用について普及啓発行い、救急医療機関の負担軽減に取り組みます。」に対し、「夜間に救急医療機関からの処方箋を応需する薬局への支援を行い」という文言の追加を提案した。提案理由は、「本県において、夜間に救急医療機関からの処方箋を応需する薬局（以下、夜間救急応需薬局）が少ないことが救急医療機関の負担増加の一因となっている。その理由として、薬剤師確保が困難なことや採算がとれない事等があげられることから、夜間救急応需薬局を増やすための県の支援が必要である。」としていた。これに対する沖縄県の方針は、「本県において、夜間救急応需薬局が少ないことが救急医療機関の負担増加の一因となっている。その理由として、薬剤師確保が困難なことや採算がとれない事等があげられることから、夜間救急応需薬局を増やすための県の支援が必要である。」との説明であった。

(11) 令和元年度第2回沖縄県公害審査会

3月23日(月) 県庁<資料配布>

(吉田理事)

コンビニエンスストアから油の異臭があるというトラブル事例があったが、調停した。

今回の審査会では、南部地区で建築業者の敷地内から出る騒音についての被害申請があげられ、同伴について受理され審査することになった。

(12) 令和元年度第1回会営薬局委員会

3月23日(月) 県薬<資料配布>

(佐藤常務理事)

委員長に石川恵市委員、副委員長に佐藤雅美委員が決定された。

会営薬局うえはら、会営薬局とよみの職員配置について、各薬局の適正人数、応援体制を検討した。

会営薬局正職薬剤師給与に関して、会営薬局職員にあたる委員と事務職員を除いて検討した。会長、委員長、副委員長、財務担当理事を中心に調整し、4月中で本委員会を開き、本委員会から財務委員会に提案し、7月より新給与体制を施行できるようにする。

(13) 令和元年度第2回スポーツ医・科学委員会

(笠原理事)

3月25日(水) 沖縄県体協スポーツ会館<資料配布>

スポーツファーマシスト部会の代表として薬事情報センターの吉田典子氏と出席した。国体で総合順位を30位代に上げることを目標に、サポートプログラム補助対象チームを、沖縄工業高校ウエイトリフティング部、沖縄県ボウリング連盟、沖縄県少年男子水球、知念高校なぎなた部を委員会へ提案し、この中から補助対照となる団体の選定を行った。

(14) 令和元年度九州厚生局沖縄事務所との連絡会議

3月26日(木) 県薬<資料配布>

(宮城常務理事)

令和元年度の個別指導実施結果についての薬局数の報告があった。令和2年度の個別指導等について、実施開始日は5月21日を予定しているが、新型コロナウイルスの影響で5月に実施する分については延期となった。今後は新型コロナウイルスの状況を見据えながら実施していく。

沖縄県国民健康保険課より、「患者の息子からの問い合わせで、高齢になる母親が薬局で処方された注射薬が自費徴収されているが算定誤りではないか？高齢の母親は何故自費なのか理解できていない。県の方からは薬局に確認するように伝えたが、患者が高齢の場合は薬局から

も患者またはその家族に説明をお願いしたい。」とのことで、このような時にはきちんと説明をして頂きたいと依頼があった。

(吉田理事)

新型コロナウイルス感染症に関して、電話受診後にFAXコーナーを利用して薬局に処方箋を送信することは可能であると、沖縄県から回答を得た。

(15) 令和元年度在宅同行訪問座学研修会

3月27日(金) 県薬<資料配布>

(笠原理事)

在宅を行っていない会員や不慣れな会員が在宅を行っている会員と一緒に同行して研修する事業が、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため患者宅に訪問できなくなったことから、座学としてディスカッション形式の研修会を行った。受講者は36名だった。

(16) 沖縄県保健医療部衛生薬務課による各種事業確認検査

<資料配布>

(大城次長)

3月27日・4月6日(金・月) 県薬

令和元年度の各種補助事業・委託事業の検査結果および交付予定額は配布資料の通りである。

また、過年度の補助金・委託事業とそれぞれの実際に交付された額も記載しているので、参考にしていきたい。

(笠原理事)

担当している訪問薬剤管理指導推進事業、多職種連携事業について、会営薬局うえはらの薬剤師の退職があったり、予定したスケジュールよりも遅れがあったこと等により、事業進行が思うようにできなかったことが原因で、事業費交付予定額が少なかった。

(川満副会長)

事業費を確実に獲得できるよう、担当委員会でしっかりとスケジュールリングしていただきたい。

会長は、前記報告(10)における沖縄県外来医療計画案において、「夜間に救急医療機関からの処方箋を応需する薬局への支援を行い救急医療機関の負担軽減に取り組みます。」という意見案を提出しているが、平成27年度から平成29年度に行われていた休日・夜間の薬局体制整備事業を何故、平成30年度も継続できなかったのか知りたい。

(亀谷会長)

平成27年度から平成29年度に行われていた同事業は、会営薬局医療センター前で輪番勤務する薬剤師の給与のみに充てていた。今回の要求は給与ではなく、運営に関する補助を目的としている。

(川満副会長)

運営するにあたって給与も必然ではないのか。

(村田常務理事)

給与以外の運営に関するものとは何があるのか。

(亀谷会長)

運営に関する使途には、専用車両車や機器類の購入を考えている。給与のみとすると、薬剤師が十分確保でき目途がたっても申請通りに全て給与に使わないといけなくなる。会営薬局間の支給差が生じ、不満が出ることになる。

(村田常務理事)

事業の使途を給与のみにしたことが原因で補助事業獲得が難しくなると判断し、平成30年度は事業をとらなかったのか。

(亀谷会長)

当初より沖縄県から、3年間の補助事業である旨の説明であった。薬剤師会は夜間だけでなく、日中も開局して経営の自助努力も要請された。

(川満副会長)

今回提出した沖縄県外来医療計画案の本会からの意見案への沖縄県の対応方針を見る限り、平成30年度も事業継続ができたと思われる。

(亀谷会長)

沖縄県は予算を決める際に、本会を含む各医療団体への補助枠がある程度定められており、その枠から本会への補助事業を増設するのは容易ではないと管轄課から説明を受けている。

(17) 令和2年度日本薬剤師会有功賞（個人）の授賞について

＜資料配布＞

(大城次長)

沖縄県薬剤師会からは、上原正徳、小渡宏二、小波蔵智恵子、渡久山京子、義元愛俱の5氏が授賞された。伝達授与を6月21日開催の第82回定時総会の懇親会にて行う予定である。

(18) 首里城火災復旧・復興支援寄附金のお礼について

＜資料配布＞

(大城次長)

去る1月24日に本会から沖縄県へ標記寄附を手渡したことで、沖縄県知事からお礼状が届いた。その後も会員宛に協力依頼を再案内しており、4月10日時点で282,000円の支援金が集まっている。募集期限は、6月の第82回定時総会で報告できるように5月29日に設置している。

(19) 日本薬剤師会第37期（令和2・3年度）代議員・補欠代議員選挙結果について

＜資料配布＞

(大城次長)

本会から代議員に亀谷浩昌会長と川満直紀副会長。そして、補欠代議員に前濱朋子副会長が当選した。

(20) 新型コロナウイルス感染症への対応について

＜資料配布＞

① 沖縄県・卸会社 新型コロナウイルス感染症に関する意見交換会

4月8日（水）県庁

(大城次長)

標記意見交換会は危機管理体制や緊急連絡網について話し合われたと、本会に沖縄県医薬品卸業協会会長が来訪され情報提供があった。

② 沖縄県立南部医療センターこども医療センター病院長訪問

4月9日（木）

(亀谷会長)

会営薬局医療センター前に新型コロナウイルスの疑いのある患者の来局が続いたことを受け、感染拡大防止のための病院と院外薬局の取り組みをフローチャート形式で作成し、沖縄県立南部医療センターこども医療センター病院長に、城間盛光会営薬局医療センター前管理薬剤師と大城次長と共に申し入れをしてきた。

③沖縄県保健医療部長通知（体温計の提供について）

（大城次長）

沖縄県より、新型コロナウイルス感染症の軽症者等に係る宿泊療養に必要な体温計を、患者1名に対し1個を確保する必要があることから、体温計を提供してほしいとの依頼が昨日あった。

（吉田理事）

全会員にFAX一斉同報で協力依頼をする。

④薬剤師が感染した場合の県薬・地区薬の対応について（北部地区薬剤師会より）

（吉田理事）

現時点で、厚労省発出通達のとおり対応するほかない。

⑤Save Okinawa Projectからの依頼について

（亀谷会長）

医師の玉城研太郎氏が中心となって、新型コロナウイルスの対策案を沖縄県に提案する組織を立ち上げており、本会も賛同してほしいとの依頼がある。沖縄県医師会では、個人個人で協力はするが、会のネームクレジットはしないとのこと。本会も同様に会のネームクレジットはせず、個人で協力して頂くということにしたい。

(21) 令和元年度事業報告提出期限について

（大城次長）

去る3月の理事会で4月17日を提出期限としていることから、未提出の地区薬剤師会と部会は早めに提出いただきたい。

(22) 令和2年度第2回臨時幹事会

4月11日（土）県薬

（亀谷会長）

前濱・川満両副会長が副会長職を辞職したいとのことで、臨時幹事会を開催し、辞任が承諾された。

（吉田理事）

空いた副会長枠はいつまでに決めるのか。

（亀谷会長）

特に期限はないが、速やかに決めたい。

(6) その他

（上原理事）

新型コロナウイルス感染症が感染拡大している中、今後の理事会の開催はどのようにするのか。Webでの会議とするなどの検討はあるのか。

（亀谷会長）

議決を採る重要な会議であり、web会議も視野に入れながら必ず開催する。web会議ができない理事もいると思われるが、様々な方策で検討する。

報告（薬連）

(1) 日本薬剤師連盟令和元年度定時評議員会並びに会長及び監事選挙

（亀谷会長）

3月25日（水）スクワール麴町＜資料配布＞

標記評議員会で次期参議院議員選挙の日本薬剤師連盟組織内統一候補者が、愛知県の神谷政幸氏に決定した。また、日本薬剤師連盟の次期会長に山本信夫氏、幹事長には岩本研氏が選出された。

去る参議院議員選挙時の本田あきこ支援者に送付したハガキが戻ってきたことについて、今後は支援者名簿の中に勤務先も記載する欄を設けるとのことである。戻ってきたハガキについては原因を調べ日本薬剤師連盟に報告することになっている。

（大城次長）

同伴について調べた結果、退会者が多かったこと、住所変更があったこと、薬局名が記載されていなかったことが判明した。

(2) 沖縄県議会議員山川典二氏激励会

3月30日（月）JAおきなわ真和志店＜資料配布＞

（亀谷会長）

沖縄県議会議員選挙が6月に行われることから標記激励会が開催され、参加した。また、後日、沖縄県議会議員選挙に出馬する山川典二氏に推薦状を手渡した。

(3) 國場幸之助・医療団体との新型コロナウイルス感染症予防対策に関する会議

（亀谷会長）

4月4日（土）沖縄県医師会

新型コロナウイルス感染拡大防止のための病院と院外薬局の取り組みについて、薬局・薬剤師の視点で、意見の申し出をした。特に、感染の疑いのある患者の処方箋を直接、院外薬局に出さないよう強く依頼した。

(4) 日本薬剤師連盟令和2・3年度評議員について

＜資料配布＞

（大城次長）

日本薬剤師連盟は、都道府県薬剤師連盟評議員数に関する算定規則に基づいて、各都道府県の評議員数が算定し、沖縄県薬剤師連盟は1名枠となっている。規定では評議員の内1名は、都道府県薬剤師連盟会長となることから、沖縄県薬剤師連盟からは亀谷浩昌会長名で提出した。

(5) 日本薬剤師連盟新役員について

＜資料配布＞

（大城次長）

会長が前述したように、日本薬剤師連盟の会長、幹事長が決定された他、配布資料のとおり、副会長5名、副幹事長2名、常任総務7名、総務12名、監事3名の計31名が選出されている。

その他にもブロック総務11名が4月後半に決定することである。

転載記事

〈会員の津波高德先生の体験談が連載されました〉

津波 高德さん(86)・那覇市 〈1〉



津波高德さん

津波さんは1934年3月、佐敷村(現南城市)津波古で生まれ、父高吉さんと母カマさん、兄たちと暮らしていました。高吉さんは足が悪かったといいますが、長兄の武夫さんは後に少年兵として戦場に動員されました。

ガマ
壕の中で
読者と刻む沖縄戦

⑭

米軍の空襲始まり避難生活

佐敷国民学校に通っていましたが、44年10月の10・10空襲以降、登校することはありませんでした。「学校どころではなくなりました」といいます。

壕での避難生活が始まったのは45年3月末、米軍の空襲と艦砲射撃が始まった頃からです。「艦砲が来て、避難しなければならなくなりました。偵察機も飛んできて、ピラをまいたこともありました。内容は覚えていませんが、読んだ記憶があります」

壕は津波古集落の西側を流れていたチブガーラという小川の上流にありました。現在の馬天小学校の右手を小川に沿って坂道を上ったところに津波古住民は壕を掘っていました。

一家の壕はチブガーラの源流にあった小さな滝の近くに掘ったものです。「そんなに深い壕ではありませんでしたが、そこに叔父の家族らが入っていました。港川辺りから艦砲が飛んでくるのが分かりました」と高德さんは語ります。

令和2年6月2日(火) 琉球新報

津波 高德さん(86)・那覇市 〈2〉



チブガーラ上流部。壕はこの森の50m奥にあった

1945年3月末、空襲や艦砲射撃が始まって以降、津波高德さん(86)は佐敷村(現南城市佐敷)津波古の集落からチブガーラ上流部にあった壕に移動し、避難生活を続けていました。

《艦砲の音を耳にしながら、湿度の高い壕で衣ジラミ取りに夢中でした。》

川が近くにある壕の中は湿度が高く、シラミが大量に発生しました。「衣ジラミがいっぱい

ガマ
壕の中で
読者と刻む沖縄戦

⑮

米軍、運玉森まで攻め込む

いてね。ひなたぼっこをしながらシラミをつぶすのが壕での唯一の楽しみでした」と津波さんは語ります。

壕ではウムクジ(芋くず)に黒砂糖を混ぜて食べました。この家庭にもあった食材でした。

5月末、戦火が迫ってきます。《親戚の防衛隊員が腕に大けがを負い、壕の中に飛び込んできた。彼によると、敵は運玉森まで攻め込んできたとのこと。それを聞いた一同は大騒ぎになった。》

西原町桃原と与那原町与那原にまたがる運玉森は激戦地として知られています。米軍は「コニカルヒル」と呼びました。5月13日以降、日本軍と米軍の接近戦が続きました。

「運玉森で米兵がヤギみたいな声で叫んでいたと叔父は話していました」

津波さんが叔父から聞いた話です。米軍の記録によると、戦闘中、多くの米兵が心を病んだといわれています。運玉森の惨状を物語るよつです。

令和2年6月3日(水) 琉球新報

津波 高德さん(86)・那覇市 〈3〉



避難していた壕の近く
から見る津波古の集落

津波高德さん(86)は那覇市IIの家族らが避難していた佐敷村(現南城市佐敷)津波古の壕に戦火が迫っていました。どこへ避難すべきか、壕の中で家族や親戚が話し合います。1945年5月末から6月にかけてのことです。



読者と刻む沖縄戦

⑬

叔父の判断で知念半島へ

人がある志喜屋を目指した。日本軍が摩文仁に移動することを壕内にいた家族らは知っていたと津波さんは話します。日本軍が行く所は安全だと考える人もいましたが、叔父は日本軍が手薄な知念半島が良いと考えました。津波さんは「戦争を知っている叔父の本能が、そうさせたのかもしれない」と話します。

津波古住民の中には摩文仁に避難した人もいましたが、その多くが亡くなったといえます。叔父の判断が家族の運命の分かれ目となりました。

家族は現在の南城市知念の志喜屋に向かいます。しかし、父の高吉さんは足が悪かったため母のカマさんと津波古の壕に残りました。「父は遠くまで歩ける状態ではなかったです。私たちも避難するので精いっぱい。仕方なく母が残りました」と高德さんは語ります。

志喜屋に着いた高德さんらは叔父の知人の案内で自然壕に避難します。

令和2年6月4日(木) 琉球新報

津波 高德さん(86)・那覇市 〈4〉



津波さんらが避難した壕
「タタンシチー」の周辺

佐敷村(現南城市佐敷)津波古の壕を離れ、知念村(現南城市知念)志喜屋に到着した津波高德さん(86)は叔父の知人の案内で自然壕に隠れます。

《早速、避難場所を案内してもらい、山手の自然岸の裂け目に一同が腰を下ろすことになった。私たちの命を救った第一の場所、タタンシチーである。》

「タタンシチー」は志喜屋の10



読者と刻む沖縄戦

⑭

命救った「タタンシチー」

戸ほどの住民が隠れた壕です。「知念村史」には「志喜屋から玉城村垣花へ上る坂道にある熱田原貝塚の南側の崖下にある。入り口約7尺、高さ2・5尺で、畳を敷いたような平滑な石が入り口にあり、外部から完全に遮断された洞窟である」と紹介されています。近くにある「ヤローヤ」という壕と共に「志喜屋で最も安全な壕であり、兵隊も入ってこなかった」といいます。

この壕で2晩ほど過ごした後、米軍が近くまで来ているという叔父の指示で再び津波古の壕に戻ることにしました。

《日が暮れるのを待ち、荷物を担ぎ、壕を出て歩き始めた途端、進行方向の左側の草むらから一斉射撃を食らった。闇中、閃光に恐れをなしてタタンシチーに戻った。一人の犠牲者もなかった。》

タタンシチーに戻った津波さんは、黒糖と辛くずを湯で固めた携帯食を食べて過ごし、脱出の時を待っていました。

令和2年6月5日(金) 琉球新報

津波 高德さん(86)・那覇市 〈5〉

タタンシチーの周辺から見る志喜屋の集落



米軍から逃れ、知念村(現南城市知念)志喜屋の壕「タタンシチー」に隠れていた津波高德さん(86)Ⅱ那覇市Ⅱの家族らは新たな避難先を求め、壕を出ます。《壕から出た後は4、5人ずつ集団になって、行く先もなく逃避していった。叔父と私たち兄弟は志喜屋の海側に転々とする大岩の陰に身を潜めていた。周囲を見ていると、一人の日本

ガマ
壕の中で
読者と刻む沖縄戦

⑱

米軍に捕らわれ名護へ

兵がサトウキビ畑を掃討中の米軍に見つかり、銃で撃たれるのを目撃した。》
日本兵はバケツや荷物を持ち、津波さんらが隠れていた場所から約50メートル離れた場所について米兵に狙撃されたのです。この場所も危険でした。その後、掃討戦を続ける米兵に捕らわれます。
《逃げ隠れるうちに「しまぐわー」という部落に着き、捕虜となった。集められた者の中には顔見知りの人たちが多かった。》
「しまぐわー」とは現在の南城市知念の具志堅集落のことです。「あちこちに避難していた馬天(津波古)の人たちが集まっていた。自爆用の手榴弾を持っていた人もいました」と津波さんは語ります。
津波さんらはその後、具志堅から佐敷村(現南城市佐敷)の屋比久にあつたテント小屋に移動します。そこでしばらく過ごした後、LST(戦車揚陸艦)で現在の名護市辺野古に向かいます。

令和2年6月6日(土) 琉球新報

津波 高德さん(86)・那覇市 〈6〉

南部の住民らが収容された名護市大川。マラリアの犠牲者が多かった



知念村(現南城市知念)志喜屋で米軍に捕らわれた津波高德さん(86)Ⅱ那覇市Ⅱは米軍のLST(戦車揚陸艦)で久志村(現名護市)辺野古に運ばれ、大浦や大川の収容地区に移動しました。《辺野古に陸揚げされ、久志の大浦、大川に分散し、居住を強制された。大川ではマラリアが流行し、多くの老人たちが犠牲になった》

ガマ
壕の中で
読者と刻む沖縄戦

⑲

収容地区でマラリア流行

その後、佐敷村(現南城市佐敷)津波古の壕で別れた母カマさんが現在の宜野座村漢那の収容地区にいることを知り、会いに行きました。カマさんと一緒に壕に残った父の高吉さんは亡くなっていました。夫の最期をカマさんは詳しく語ることはありませんでした。
収容地区で日本軍の敗残兵に襲撃されたことがあります。
「2、3人の敗残兵が食料をあさりに来ました。1人は銃を持っていました。住民は米軍から缶詰をもらっていました」
壕に隠れ、本島南部の激戦地を逃げ回った年から75年になります。新型コロナウイルスの感染拡大の中で高德さんは収容地区のことを思い出しています。
《現在のコロナは病態は異なるが、マラリアで犠牲になった老人たちと重なって見えてくる今日この頃です。》
◇ 津波高德さんの体験記は今回で終わります。次回から比嘉初枝さんの体験記を紹介します。

令和2年6月7日(日) 琉球新報

※発行元が記事の利用・編集を許諾しています。

令和2年5月

- 7木 ○ 令和2年春の叙勲受章者及び褒章受章者へ伝達授与 沖縄県健康づくり財団 被表彰者：
松山朝雄、亀谷会長、新城光雄沖縄県保健医療部衛生薬務課帳、中村章弘沖縄県保健医
療部衛生薬務課班長、大城次長、事務局宮城
- 8金 ○ 令和2年度第1回がん診療連携協議会 県薬WEB会議 亀谷会長
- 11月 ○ 令和2年度第3回幹事会 県薬WEB会議
- 16土 ○ 令和2年度第2回理事会 県薬WEB会議
- 17日 ○ 令和2年度第2回学校薬剤師部会役員会 県薬部会室
- 24日 ○ 令和元年度学校薬剤師部会監事監査 県薬部会室
- 28木 ○ 令和元年度下期監事監査 県薬研修室 亀谷会長、神谷・江夏両監事、川満理事、大城次長、
事務局上原・上運天
- 28木 ○ 会営薬局正職薬剤師給与表検討会議 県薬会議室 佐藤常務理事、川満理事、石川恵市、
大城次長
- 29金 ○ 会営薬局正職薬剤師給与表検討会議 県薬会議室 亀谷会長、佐藤常務理事、石川恵市、
大城次長

令和2年6月

- 1月 ○ 令和2年度第2期薬局実務実習オリエンテーション 県薬研修室 亀谷会長、佐藤常務理
事、兼城崇、稲嶺主任
- 2火 ○ 令和元年度第3回沖縄県薬業連合会代表者会議 県薬研修室 亀谷会長、大城次長
- 3水 ○ 九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入調整機関評議員会 県薬WEB会議 亀谷会長
- 3水 ○ 令和2年度第1回九州山口各県薬代表者会議 県薬WEB会議 亀谷会長
- 3水 ○ 九州ブロック日薬代議員予備会議 県薬WEB会議 亀谷会長
- 5金 ○ 令和2年度第1回沖縄県自然環境保全審議会 八汐荘（那覇市） 島袋理事
- 7日 ○ 新専門薬剤師制度の発足にかかる全国研修会 WEB会議 中尾理事
- 8月 ○ 令和2年度第4回幹事会 県薬研修室
- 10水 ○ 社会保険診療報酬支払基金幹事会 県薬書面開催 亀谷会長
- 10水 ○ 沖縄県薬業連合会令和元年度監事監査 県薬研修室 大城次長
- 10水 ○ 第65回沖縄県薬業連合会理事会・総会 県薬研修室 亀谷会長、大城次長
- 11木 ○ 大屋祐輔琉球大学病院長訪問 琉球大学病院管理棟病院長室 亀谷会長、大城次長
- 12金 ○ 令和2年度第1回財務委員会 県薬WEB会議
- 13土 ○ 令和2年度第3回理事会 県薬ホール
- 15月 ○ 令和2年度第1回薬学生実務実習受入委員会 県薬研修室
- 16火 ○ 令和2年度第1回学術研修委員会 県薬ホール
- 18木 ○ 令和2年度第2回薬と健康の週間打ち合わせ 県庁 沖縄県保健医療部衛生薬務課：池間博
則室長・津波昭史主幹、県薬：大城次長・長嶺主任
- 21日 ○ 令和2年度第3回学校薬剤師部会役員会 県薬部会室
- 21日 ○ 沖縄県薬剤師会第82回定時総会 県薬ホール
- 23火 ○ 沖縄戦殉職医療人之碑への慰霊 ひめゆりの塔構内 神村武之相談役、亀谷会長、吉田理
事、長田久美子氏、大城次長、事務局金城
- 27土 ○ 日本薬剤師会第95回定時総会 ホテルイースト21東京 亀谷会長
- 27土 ○ 令和2年度第1回沖縄県認知症疾患医療連携協議会 WEB会議 中尾理事

令和2年7月

- 1水 ○ 令和2年度沖縄県学校保健会理事会・学校保健及び学校安全表彰審査会 沖縄県学校給食会 亀谷会長
- 1水 ○ 令和2年度第1回医薬分業対策委員会 県薬研修室
- 6月 ○ 令和2年度第5回幹事会県薬会議室
- 7火 ○ 日本薬剤師会都道府県会長協議会 日本薬剤師会 亀谷会長
- 8水 ○ 社会保険診療報酬支払基金幹事会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 亀谷会長
- 8水 ○ 令和2年度第1回広報委員会 県薬研修室
- 9木 ○ 医療物資寄贈式（宜野湾市） 宜野湾市役所 石川恵市、長嶺主任
- 10金 ○ 沖縄県保健医療部医療政策課来訪 県薬会長室 亀谷会長
- 11土 ○ 令和2年度第4回理事会県薬ホール
- 13月 ○ 令和2年度第1回会営薬局移転検討特別委員会 県薬研修室
- 15水 ○ オンライン服薬指導後の薬の配布について沖縄ファミリーマート来訪 県薬会議室 西川常務理事、吉田理事、大城次長
- 15水 ○ 令和2年度第1回災害対策委員会 県薬研修室
- 18土 ○ 令和2年度地域支援事業等市町村支援アドバイザー事業事前打ち合わせ会議 沖縄県総合福祉センター 笠原理事
- 18土 ○ 令和2年度多職種連携ケアマネジメント基盤強化促進事業 沖縄県総合福祉センター 笠原理事
- 19日 ○ 令和2年度第4回学校薬剤師部会役員会 県薬部会室
- 19日 ○ 日本医療薬学会「地域薬学ケア専門薬剤師制度」に係るマッチング調整業務および申請手順等に関する研修会 県薬会議室 中尾理事、大城次長、事務局金城
- 20月 ○ 令和3年度地域医療介護総合確保基金に係る基金充当事業検討会議（第1回） 県薬会議室 亀谷会長、西川常務理事、吉田・盛本・笠原各理事、大城次長
- 21火 ○ 令和2年度「健康づくり支援事業」第1回推進委員会 沖縄県総合福祉センター 盛本理事
- 21火 ○ 管理者会議 県薬研修室 亀谷会長、與世平千夏、宮里 威一郎、吉田典子（D I）、大城次長、小泉主任検査技師、當山主任
- 21火 ○ 令和2年度沖縄県入退院支援連携デザイン事業 第1回普及啓発ワーキンググループ及び第2回編集ワーキンググループ合同会議 沖縄県総合福祉センター 笠原理事
- 27月 ○ 令和2年度第1回健康サポート薬局推進委員会 県薬研修室
- 28火 ○ 令和2年度第1回沖縄県後期高齢者医療制度運営懇話会 沖縄県後期高齢者医療広域連合 佐藤常務理事
- 28火 ○ 令和3年度地域医療介護総合確保基金に係る基金充当事業検討会議（第2回） 県薬研修室 亀谷会長、西川常務理事、吉田・盛本・笠原各理事、大城次長
- 30木 ○ 令和2年度第1回沖縄県国民健康保険運営協議会 八汐荘（那覇市） 宮城常務理事

沖縄県薬剤師連盟会務報告

令和2年5月

- 1 金○山川典二沖縄県議会議員・仲井真弘多元沖縄県知事来訪 県薬会長室 亀谷会長
14木○沖縄県薬剤師会連盟総務会 県薬WEB会議
25月○自民党薬剤師問題議員懇談会議員へ新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた緊急要望（國場幸之助議員へ） 県薬会議室 亀谷会長、大城次長
28木○自民党薬剤師問題議員懇談会議員へ新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた緊急要望（西銘恒三郎議員へ） 西銘恒三郎後援会 亀谷会長、大城次長
28木○令和元年度沖縄県薬剤師連盟監事監査 県薬研修室 亀谷会長、神谷・江夏両監事、川満会計責任者、大城次長

令和2年6月

- 6土○山川のりじ打ち上げ式 山川のりじ選対本部前 亀谷会長、大城次長
21日○沖縄県薬剤師連盟評議員会 県薬ホール

訃報

生前のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

島田 博光 先生 （享年78歳） 令和2年5月20日ご逝去
眞榮城 玄一 先生（享年77歳） 令和2年7月4日ご逝去
神里 よし子 先生（享年77歳） 令和2年7月16日ご逝去



会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について

会員及び一親等の親族のご不幸は、沖縄県薬剤師会へ御一報下さい。
（香典・生花等の手配があります）

※各地区、各支部及び、友人、知人の方、御一報よろしくお願ひします。

【連絡先】県薬事務局（前原・大城）：098-963-8930



誌上ギャラリー（裏表紙）について

左上：「琉球マンハッタン」 photo by 平良 博文（アルファ薬局） 撮影地：泊港南岸（那覇市若狭側）
何時も北岸から見てる景色を南岸側から撮った酔っぱらい奇跡の1枚

右上：「かぐや姫」 photo by 吉川 肇（ハーブ薬局津嘉山店） 撮影地：東南植物楽園（沖縄市）
蓮の花言葉は、「清らかな心」「神聖」「離れゆく愛」「雄弁」。蓮は、早朝が1番綺麗で、昼頃にはその姿を変え花弁が落ちてしまいます。早朝の東南植物楽園は、蓮の花が綺麗にいっぱい咲いています。

右中：「サンセットジョギング」 photo by 宮本 直樹（クララ薬局ティエラ） 撮影地：浦添市西海岸

下：「北アルプス山麓 5月」 水彩画 by 小那覇 幸子（おなほ薬局）

編

集

後

記

今号は5月～7月の3カ月合併号となりました。主に定時総会の報告記事、理事会議事概要が紙面を占めていましたが、沖縄県薬剤師会の動きを把握していただけたら幸いです。

ゲラ校正をしながら、ふと、小学校時代に学級新聞を作っていたことを思い出しました。模造紙にカラーマジックや色鉛筆で好きなように構成したり、一人前にインタビューをしたり内容を企画していました。とはいえ、小学生がすることなので内容よりも見栄え重視でしたが・・・（苦笑）。いっぱいし新聞記者気取りでした。さて、その模造紙、沖縄では鳥の子用紙と呼んでいましたが、実は地域によって呼び名が違うようです。鳥の子用紙は沖縄、愛媛、香川。B紙（東海地方）、ガンピ（富山）、広用紙（熊本・長崎）、大判紙（山形）などなど。みなさんは何と呼んでいましたか？余談ですが、広報誌に使っている紙はコート紙というそうです。ご参考までに。（クララ）

ソーシャルディタンス。世間はあっという間に変わりましたね。歴史を紐解けば、かのペストは世界にインフラとしての下水を広め、スペイン風邪は第一次世界大戦の終結のきっかけになったとか。今世紀はコロナの世紀になるとも言われていますが、後世の歴史に残るような局面と社会変化に立ち会っているのだと実感しています。この災禍の果てにどのような社会が生まれるのだろうかふと空想する反面、いつかまだ見ぬ世代にこのコロナを乗り越えたんだぞって驚かせる。最近の目標です。（dash）

外出自粛期間は仕事に出かけるとき以外は、外出を控えていたので、時間が出来て「プチ断捨離」に挑戦してみました。断捨離の中でも、なかなか難しいモノの一つが「写真」の整理だという。自分に関係ある写真は「写真」＝「思い出」なのでなかなか棄てがたいが、「思い出」が記憶から消え去ってしまうとただの人物写真、風景写真になってしまうのだ。写真の整理には「スキヤンスナップ」を利用すると良いと言われ使ってみたが、これが大変な優れもので、あれよあれよと言う間にすべての写真がパソコンの中に収まってしまった。後で分類しやすいようにと、写真にチョットした文言を付けるのは面倒であったが、それも終わった。ただ、昔のアルバムで、台紙にのり付けされた写真がどうしてもはがせなくて、はがすのをあきらめてしまった古いアルバム二冊が無残な姿をさらしている。（ピアナ）

学校薬剤師をやっていると色々な問い合わせを受けますが、最近とりわけ多いのが次亜塩素酸水についてです。使用方法を間違えなければ、効果ありと発表されましたが、「効果あり」の部分だけ独り歩きしているような気がします。早速、正しい感染防止のための情報を伝えるべく養護教諭の先生に意気揚々と連絡をするのですが、新たに別の質問をされて、即答できず小さい声でまたご連絡します、と返事する状況にまだまだ力不足を感じています。それについてアドバイスをしてくれる、試験検査センターのみなさん、ありがとうございます！（松）

新型コロナウイルスの影響は広報委員会の活動にも影響を及ぼしている。新しい委員が増え、取材も積極的に行こうと思っていた矢先のコロナ。「薬局訪問」「スポットライト」等、貴重な先輩方の経験を知るコーナーだった。先輩といえば、今年の「熟年の集い」も中止となった。旅行もできない今、表紙の世界の薬局とフォトギャラリーが楽しみである。会員の皆様からの楽しかった旅の写真、美しい景色の写真の投稿をお待ちしています。(TOMO)

STAY HOMEの大本命の下、2か月近い週末をすべて自宅で過ごした。ストレスが溜まるかと思いきや、普段の週末とほとんど変わらないことに気づいてしまった。根っからの「やーぐまやー(インドア派)」である。最近の実験結果によると、人間の脳は移動に喜びを感じる特別な幸福回路があるらしい。私の普段の幸福度って...どうなんだ?お出かけはまだまだ厳しい世の中だから、せめてちょっとずつ帰宅ルートでも変えてみようかな。皆さんもお試しあれ。(いさ吉)

ちょうどこの時期は、職場での新人薬剤師教育の真っ最中である。各店舗の特色をいち早く察し、自ら考えて行動するという一連のシステムを作りたいのだが、これが簡単そうでなかなか難しい。ある程度のマニュアル構築は必須だが、個々の個性を生かすためにマニュアルでがんじがらめに縛りたくない気持ちもあり、完全なマニュアル管理による育成か?個々の個性を生かしながらの育成か?「モノ」と違い「ヒト」は難しい。違った意味での薬剤師職能である。(ごり)

7月1日からプラスチック製レジ袋の有料化が始まりました。私が勤務している薬局では有料化対象外のバイオマスレジ袋を使用し、レジ袋の有料化は行っていないのですが、意外にも患者様のマイバッグ持参率が高く、とても嬉しく思っています。自分はマイバッグを持参するといった習慣がなかったため、今でも袋を頂いてしまいますが、この機会に環境問題についても考え、エコを心がけていきたいです。(ちゃげ)

投薬をしていると患者さんの現状の聞き取りの中で、つい世間話になってしまうことがある。次の患者さんがいない時は長話になってしまうことも珍しくはない。そんな中で昔からなぜか色んな有名人に似ていると言われてきた。えなりかずくん、ラグビーの五郎丸選手(当時は五郎丸ポーズけっこうやったなあ。。。)、スピードワゴンの井戸田さん(井戸田さんの名前ではなく安達祐実の元旦那と言われることが多かったかも)、ゆずの岩沢さん、四千頭身の後藤さんなどなど。俳優・アスリート・歌手・芸人とバラエティー豊かであり、なかなかの言いたい放題である。その中で最近言われることが増えたのが井戸田さんのキャラであり、僕のペンネームの由来でもあるハンバーグ師匠。薬剤師会の研修会などで井戸田さんに似ている人を見かけたらたぶん僕です。たぶんね。ぜひお声掛けを。「ハンバーガーグ!!」とは言いませんが(笑)(ハンバーグ)

沖縄県薬剤師会

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10 <http://www.okiyaku.or.jp> e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp
■事務局 TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 **■薬事情報センター** TEL 098-963-8931 FAX 098-963-8937
■会営薬局医療センター前 TEL 098-963-8940 FAX 098-963-8946 **■試験検査センター** TEL 098-963-8934 FAX 098-963-8932
■会営薬局うえはら 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原241-1 TEL 098-946-1185 FAX 098-944-0567
■会営薬局とよみ 〒901-0244 沖縄県豊見城市字宜保271-1 TEL 098-856-4160 FAX 098-856-3415

おきなわ薬剤師会報

第303号 令和2年7月31日発行

◇次号は、令和2年9月下旬発行予定です。

発行人：沖縄県薬剤師会 会長 亀谷浩昌

編集：広報委員会 委員長／宮城敦子 委員／前濱朋子・池間記世・石川恵市・伊敷松太郎・伊差川サヤカ
 安次富大・運天芳生・宮本直樹 久米島通信員／山城晶 宮古地区通信員／前里由紀子
 八重山地区通信員／坏徳子 事務局／大城喜仁

印刷：株式会社 東洋企画印刷

誌上ギャラリー（会員作品）

お気軽にご投稿下さい。

